

『吾妻鏡』にみる鎌倉方から京洛方への使者・使節 発遣記事

野 口 武 司

一

『吾妻鏡』には、鎌倉方の主導で、其の領導の下に為された京洛方への使者・使節等の発遣に関する記事(ア)や、其れとは対蹠的な京洛方の主導で、其の領導の下に為された鎌倉方への其れ(イ)も亦、可成り多く所見されること、衆知に属する事柄である。

處で、斯様な記事の有り様に就き、之を概言すれば、同書が叙述対象範囲とする治承四(一一八〇)年より文永三(一二六六)年に臻る迄の、大凡九〇年間(精確には、八七年間に中、闕逸年次九年間分を差し引いた七八年間と謂うことになる。)は、贅言を要するまでもなく、我国初の武家による政治社会の構築が、源氏經營の策源地たる相模は鎌倉の地で創始され、而して然うした所謂播籠の時期をも含めた鎌倉時代の初・中葉の頃比に相当する。

斯うした樹立後として多くの年歳を閲していない鎌倉の新政権と、片や数百年の久しき年序を経て、其の間、嘗々

として伸張發展の歩武を累ね來たつた攸の、我國文化の淵藪の地たる京都の旧政權との間に展開されて來た外交交渉が極めて複雜多岐に亘り、諸種様々な思惑絡みの、虚々実々の駆け引きを伴うものであつたであろうことは、容易に諒察される攸である。

斯様な公武双方間に於ける外交交渉に関する事蹟・事績が詳密にして、而も生彩ある筆致で精叙されているのが、上記(ア)(イ)両記事なのである。本稿では、其等(ア)(イ)両記事の中、特に(ア)記事に就いて、之を多角的に考覈検討し、以て其處から如何なる人士達が、如何なる時期に、如何なる活動・活躍をしたか、と謂つた事柄をより具象的に把握すると共に、斯かる検証作業を通して、同書に具有する史籍としての性格や、其の成立の一端を闡明したく思う。

尚、本稿に於ける鎌倉方・京洛方双方各々の境域如何に就き、一言付記しておく。前者、即ち鎌倉方とは、霸府鎌倉の所在地たる相模一国及び此れに当國が隣接する伊豆、駿河、甲斐、武藏の四箇国を含めた都合五箇國の他、下記の京洛方以外の、源頼朝以下歴代將軍家の出御地を含めた諸地域を謂い、後者、即ち京洛方とは、皇城の地たる京都、即ち山城一国を含む所謂五畿内五箇國の他、此れに其等諸国が各々隣接する近江、丹波、播磨、淡路、紀伊、伊賀、伊勢の七箇國をも加えた都盧十二箇國に亘る諸地域を謂う。

先ず始めに、以下に試みる論述の資とすべく同書に所見される鎌倉方から京洛方への使者・使節等の差遣に関わる諸記事に就いて、其の具体事例が頼朝將軍記以下の歴代諸將軍記の各々に如何ようすに載録されているかを、登載年月日順に摘出列挙すると共に、此等の諸事例が各々如何ようすな意味内容を有し、而して其のが如何ようすな様態を以て記載されているかを、左記の如き諸事項・項目に準拠して検考した結果を分かり易く纏めて一括表示した表一を掲記しておこう。

- A、鎌倉方から京洛方への「被差遣者」（以下、「之を〔鎌倉方被〕〔差遣者〕と仮称する」と記載）の具（固有）名等に就いての記載
- B、「鎌倉方被差遣者」の被差遣事由・目途等に就いての記載
- C、「鎌倉方被差遣者」の鎌倉方発遣日時等に就いての記載
- D、「鎌倉方被差遣者」の京洛方着到日時等に就いての記載
- E、「鎌倉方被差遣者」の在洛期間中に於ける諸活動・活躍等に就いての記載
- F、「鎌倉方被差遣者」に依る、其の在洛期間中に於ける鎌倉方への使者・使節等の発遣乃至、件の使者・使節等の鎌倉方参着日時等に就いての記載
- G、「鎌倉方被差遣者」の京洛方進発日時等に就いての記載
- H、「鎌倉方被差遣者」の鎌倉方帰着日時等に就いての記載
- I、「鎌倉方被差遣者」の鎌倉方発遣時より京洛方着到時迄、若しくは当該被差遣者の京洛方進発時より鎌倉方帰着時迄の諸状況・状態等に就いての記載

123、被奉御願書於伊勢太神宮。大夫屬入道善信獻「草案」。是爲「四海泰平萬民豐樂」也云々。生倫着「衣冠」。參營中賜之。則進發。中四郎維重被相副之。長江太郎義景爲神寶奉行同首途。義景先祖權五郎景政抽擲重信心。去永久五年十月廿三日。以私領相摸國大庭御厨。永奉寄神宮之間。彼三代孫尤可相叶神慮歟之由。被經御沙汰應其撰云々。御願書云。(御願書略)

45、蒲冠者範頼。源九郎義經等。爲武衛御使。率數萬騎入洛。是爲追罰義仲也。今日範頼自勢多參洛。義

經入自宇治路。木曾以三郎先生義廣。今井四郎兼平已下軍士等。於彼兩道雖防戰。皆以敗北。蒲冠者。源九郎相良河越太郎重頼。同小太郎重房。佐々木四郎高綱。畠山次郎重忠。濫谷庄司重國。梶原源太景季等。馳參六條殿。奉警衛仙洞。此間一條次郎忠頼已下勇士競走于諸方。遂於近江國粟津邊。令下相摸國住人石田次郎誅戮義仲。其外錦織判官等者逐電云々。(源朝臣義仲竝同朝臣義廣履歷略)

壽永3・1・20条

5¹、源九郎義經主獲「義仲首」之由奏聞。今日及晚。九郎主搦進木曾專一者樋口次郎兼光。是爲「木曾使」。爲征石川判官代。日來在「河内國」。而石河逃亡之間。空以歸京。於八幡大渡邊。雖聞主人滅亡事。押以入洛之處。源九郎家人數輩馳向。相戰之後生虜之云々。

4²、5²、未尅。遠江守義定。蒲冠者範頼。源九郎義經。一條次郎忠頼等飛脚參着鎌倉。去廿日遂合戰。誅義

'' 3・1・21条

仲井伴黨之由申之。三人使者皆依召參北面石壺。聞食巨細之處。景時飛脚又參着。是所持參討亡囚人等交名注文也。方々使者雖參上。不能記錄。景時之思慮猶神妙之由。御感及再三云々。

" 3 · 1 · 27 条

5³、樋口次郎兼光皇首。濱谷庄司重國奉之。仰郎從平太男。而斬損之間。子息濱谷次郎高重斬之。但去月廿日合戰之時依被疵。爲片手打云々。此兼光者。與武藏國兒玉之輩。爲親昵之間。彼等募勲功之賞。可賜兼光命之旨。申請之處。源九郎主雖被奏聞事由。依罪科不輕。遂以無有免許云々。

" 3 · 2 · 2 条

4²、5⁴、酉剋。源氏兩將到攝津國。以七日卯剋。定箭合之期。大手大將軍蒲冠者範賴也。相從之輩。(軍士交名略)已下五萬六阡餘騎也。搦手大將軍源九郎義經也。相從之輩。(軍士交名略)已下二萬餘騎也。平家聞此事。新三位中將資盛卿。小松少將有盛朝臣。備中守師盛。平内兵衛尉清家。惠美次郎盛方已下七阡餘騎。着于當國三草山之西。源氏又陣于同山之東。隔三里行程。源平在東西。爰九郎主如信綱實平加評定。不待曉天。及夜半襲三品羽林。仍平家周章分散畢。

" 3 · 2 · 5 条

4³、5⁵、關兩將。自攝津國進飛脚於京都。昨日於一谷遂合戰。大將軍九人皇首。其外誅戮及千餘輩之由申之。

" 3 · 2 · 8 条

5⁶、源九郎主入洛。相具之輩不幾。從軍追可參洛歟。是平氏一族首可被渡大路之旨。爲奏聞。先以揚鞭云々。

" 3 · 2 · 9 条

4⁴
5⁷

平氏等之首可被渡大路之由。源氏兩將經奏聞。仍博陸三公。堀川亞相忠親等被預勅問。彼一族仕

卿

等被預勅問。彼一族仕

朝廷已年尚。可有優忽沙汰歟。將又範賴。義經爲果私宿意。所申請非無道理歟。兩樣之間。難

決。叡慮宜計申之由云々。而意見雖區分。兩將強申請之間。遂可被渡之由治定云々。勅使右衛門權佐

定長數度往反云々。

〃 3・2・11条

5⁸、平氏首聚于源九郎主六條室町亭。所謂通盛卿。忠度。經正。教經。敦盛。師盛。知章。經俊。業盛。盛

俊等首也。然後皆持向八條河原。大夫判官仲賴以下請取之。各付于長鎗刀。又付赤簡。平某之由。各向者討取之。懸樹。觀者成市云々。

〃 3・2・13条

4⁵
5⁹、辰剋。蒲冠者範賴。源九郎義經等飛脚。自攝津國參着鎌倉。獻合戰記錄。其趣。去七日於一谷合

戰。平家多以殞命。前内府已下浮海上赴四國方。本三位中將生虜之。通盛卿。忠度朝臣。經

俊。已上三人。蒲冠者討取之。經正。師盛。教經。已上三人。遠江守義定討取之。敦盛。知章。業盛。盛俊。

已上四人。義定討取之。此外梶首者一阡餘

人。凡武藏相摸下野等軍士。各所竭大功也。追可注記言上云々。

〃 3・2・15条

7⁶
8¹、武衛被發御使於京都。是洛陽警固以下事所被仰也。又播磨。美作。備前。備中。備後。已上五ヶ國。

景時。實平等遣專使。可令守護之由云々。

〃 3・2・18条

5¹⁰、三位中將重衡卿。自土肥次郎實平之許。渡源九郎主亭。實平依可赴西海也。

〃 3・3・2条

9、大井兵衛次郎實春欲向伊勢國。是平家々人爲宗者。潛籠當國之旨。依有其聞。行向可征之由。令下知給之故也。

〃 3・3・22条

5¹¹、源九郎使者自京都參着。去月廿七日有除目。武衛敍正四位下給之由申之。是義仲追討賞也。持參彼聞書。此事。藤原秀卿朝臣天慶三年三月九日自六位昇從下四位也。武衛御本位者從下五位也。被准彼例云々。亦依忠文宇治民部卿之例。可有征夷將軍宣下歟之由有其沙汰。而越階事者彼時准據可然。於將軍事者。賜節刀被任軍監軍曹之時。被行除目歟。被載今度除目之條。似始置其官。無左右難被二宣下之由。依有諸卿群議。先敍位云々。

10¹ 8² 6³、前齋院次官親能爲使節上洛。平家追討間事。向西海可奉行之云々。土肥次郎實平。梶原平三景時等同首途。調置兵船。來六月屬海上和氣期。可遂合戰之由被仰含云々。

元曆1·4·29条

11、雷雨。雜色時澤爲使節上洛。是園城寺長史僧正房覺痢病危急之由。依有其聞。被訪申之故也。武衛日來御祈禱等事被仰付云々。

〃 1·5·12条

9¹、申尅。伊勢國馳驛參着。申云。去四日。波多野三郎。大井兵衛次郎實春。山内瀧口三郎。并大内右衛門尉惟義家人等。於當國羽取山。與志太三郎先生義廣合戰。殆及終日爭雌雄。然而遂獲義廣之首云々。此義廣者。年來含叛逆之志。去々年率軍勢。擬參鎌倉之刻。小山四郎朝政依相禦之。不成而逐電。令屬義仲訖。義仲滅亡之後又逃亡。曾不辨其存亡之間。武衛御憤未休之處。有此告。殊所令喜給也。

〃 1·5·15条

12、武衛被遣御書於泰經朝臣。是池前大納言。同息男。可被還任本官事。并御一族源氏之中。範賴。廣綱。義信等可被聽一州國司事。内々可被計奏聞之趣也。大夫屬入道書此御書。付雜色鶴太郎云々。

13、伊賀國合戰之間事。被_レ經_二其沙汰_一。可_レ討_二平家隱逃之郎從等_一之由。被_レ仰_二大内冠者。并加藤五景員入道父子。
子。及瀧口三郎經俊等_一云々。雜色友行宗重兩人。帶_レ彼御書等_一進發云々。

" 1 · 7 · 18 条

15、雨降。(中略)又被_レ發_二御使_一於京都_一。今度伊賀國兵革事。偏在_レ出羽守信兼子息等結構_一歟。而彼輩遁_二圍之中_一。不知_レ行方_一云々。定隱_二遁京中_一歟。早尋_二搜之_一。不廻踵可_レ令_二誅戮_一之趣。被_レ仰_二遣源九郎主許_一云々。安達新三郎
爲_レ飛脚_一首途_一云々。

" 1 · 8 · 3 条

5¹²、源九郎主使者參着。申云。去六日任_二左衛門少尉_一。蒙_レ使宣旨_一。是雖_レ非_二所望之限_一。依_レ難_レ被_レ默_二止度々勲
功_一。爲_レ自然朝恩_一之由。被_レ仰下_一之間。不能_レ固辭_一云々。此事頗違_二武衛御氣色_一。範賴、義信等朝臣受領
事者。起_レ自_二御意_一被_レ舉_二甲_一也。於_レ此主事_一者。內々有_レ儀_一。無_レ左右_一不_レ被_レ聽之處。遮令_二所望_一歟之由有_レ御
疑_一。凡被_レ背_二御意_一事。不限_レ今度_一歟。依_レ之可_レ爲_二平家追討使_一事。暫有_レ御猶豫_一云々。

" 1 · 8 · 17 条

5¹³、源廷尉飛脚參着。去十日。招_二信兼子息左衛門尉兼衡_一。次郎信衡。三郎兼時等_一。於_レ宿廬_一誅戮之_一。同十一
日。信兼被_レ下_二解官宣旨_一云々。

" 1 · 8 · 26 条

4⁶、參河守範賴朝臣去朔日使者。今日參着獻_二書狀_一。去月廿七日入洛。同廿九日賜_二追討使官符_一。今日_一九月_一發_二向
西海_一云々。

" 1 · 9 · 12 条

5¹⁴、去五日。季弘朝臣被_レ停_二所帶職_一畢之由。自_二仙洞_一被_レ仰_二源廷尉_一義經_二又所_レ申_二其旨_一也。彼狀今日到_二
來鎌倉_一云々。

" 1 · 9 · 28 条

5¹⁵

武衛爲草創伽藍。鎌倉中之求勝地給。當于營東南。有一靈巒。仍被企梵宇營作於彼所。是報謝父德之素願也。但大嘗會御禊已後。可有地曳始之由。被定之處。去月廿五日。被遂其議。

大夫判官義一經供奉云々

今日有犯土。因幡守。筑後權守等奉行之。武衛監臨給云々。

" 1 · 11 · 26 条

典膳大夫中原久經。近藤七國平。爲使節上洛。先々雖爲使節他人。是追討平氏之間。寄事於兵糧。散在武士於畿內近國所々致狼藉之由。有諸人之愁緒。仍雖不被相待平家滅亡。且爲被停止止彼狼藉。所被差遣也。先相鎮中國近邊之十一ヶ國。次可至九國四國。悉以經奏聞。可隨院宣。此一事之外。不可交私之沙汰之由。被定仰云々。今兩人雖非指大名。久經者。故左典廄御時殊有功。又携文筆云々。國平者勇士也。有廉直譽之間。如此云々。依仰各可致憲法沙汰之趣。進起請文云々。

" 2 · 2 · 5 条

16¹⁶、爲鎮畿內近國狼唳。以典膳大夫久經。近藤七國平。爲御使。被差遣已訖。而猶在洛武士現狼藉之由。依令聞及給。爲散鶻疑之恐。被言上其子細云々。(藤原中納言經房宛源 賴朝文書略)

" 2 · 3 · 4 条

5¹⁷、賢所神璽令着今津邊御。仍頭中將通資朝臣參其所。入夜。藤中納言。經房。宰相中將。泰通。權右中辨兼忠朝臣。左中將公時朝臣。右少將範能朝臣。藏人左衛門權佐親雅等。參向桂河。大祓之後。經朱雀大路并六條。自大宮入御待賢門。渡御官朝所。經東此間。大夫判官義經着鎧供奉。候官東門。看櫛長着布衣。取松明在前云々。

" 2 · 4 · 24 条

5¹⁷、源廷尉使者號龜井六郎自京都參着。不存異心之由。所被獻起請文也。因幡前司廣元爲申次。而三州者。自

聞御氣色不快之由。

始及此儀之間。非御許容之限。還爲御忿怒之基云々。

5¹⁸、廷尉使者景光。參着。相具前内府父子令參向。去七日出京。今夜欲着酒勾驛。明日可入鎌倉之由申之。北條殿爲御使。令向酒勾宿給。是爲迎取前内府也。被相具武者所宗親。工藤小次郎行光等。於廷尉者。無左右不可參鎌倉。贊逗留其邊。可隨召之由。被仰遣云々。小山七郎朝光爲使節云々。

5¹⁹、卯剋。左典廐能保。去七日與同日出京到着。直被入營中。昨日極熱之間。聊有霍亂之氣。逗留之由被申之云々。

2 · 5 · 15 条

2 · 5 · 17 条

5²⁰、源廷尉義經如思平朝敵訖。剩相具前内府參上。其賞兼不疑之處。日來依有不儀之聞。忽蒙御氣色不被入鎌倉中。於腰越驛徒涉日之間。愁鬱之餘。付因幡前司廣元。奉一通欵狀。廣元雖披覽之。敢無分明仰。追可有左右之由云々。彼書云。(因幡前司宛左衛門少尉源義經欵狀略)

2 · 5 · 24 条

18、被差遣雜色六人於典膳大夫。近藤七等之許。是畿内雜訴成敗之間。久經三人。國平三人。可召仕之由。所被仰付也。以此次。京畿之間可致沙汰一條々。被遣御事書。其間。久經不可耽人之賄。國平不可現僻事之趣。被載加之云々。

2 · 5 · 25 条

5²¹
19
20
21
22、廷尉此間逗留酒勾邊。今日相具前内府歸洛。二品差橘馬允。淺羽庄司。宇佐美平次已下壯士

等。被相副囚人矣。廷尉日來所存者。令參向關東者。征平氏間事。具預芳問。又被賞大功。可達本望歟之由。思儲之處。忽以相違。剩不遂拜謁而空歸洛。其恨已深於古恨云々。又重衡卿。自去年在狩野介宗茂之許。今被渡源藏人大夫賴兼。同以進發。任衆徒申請。可被遣南都云々。

" 2 · 6 · 9 条

16²
17²、典膳大夫。近藤七等爲關東御使。帶院宣。巡檢畿內近國。成敗土民訴訟。然間。當時其誤不

聞。二品内々被感仰之處。尾張國有玉井四郎助重云者。本自爲先猛惡。令懷諸人愁之由謳歌。近日殊又有違勅之科。仍件兩人爲尋沙汰。雖遣召文敢不應。還及謗言。于時久經等言上子細之間。爲俊兼奉行。今日被仰助重云。違背綸命之上者。不可住日域。依令忽緒關東。不可參鑑倉。早可逐電云々。

" 2 · 6 · 16 条

5²²
19¹、卯剋。廷尉着近江國篠原宿。令橘馬允公長誅前内府。次至野路口。以堀彌太郎景光。梶前右金

吾清宗。此間。大原本性上人爲父子知識。被來臨于其所。兩客共歸上人教化。忽齷怨念。住欣求淨土之志。又重衡卿今日被召入花洛云々。抑前内府宗盛公者。其身備公家御外戚。其官昇槐門內相府也。然而朝敵罪名無據于宥歟。粗訪前蹤。成務天皇御宇三年正月。武内宿禰始任大臣。天智天皇七年十月十三日。大織冠始任内大臣。武内與大織冠中間大臣六人歟。給以降。至于此内府。昇伴職之臣一百三十三人。此内於内大臣者九人歟。其中非無逢殃之例歟。所謂用明天皇二年四月九日七月日。上宮太子于時十六歲。誅大臣守屋

一。 皇極天皇皇后、裕明天皇三年甲辰六月於大極殿。誅大臣入鹿。

夷子。

天武天皇元年七月廿三日太政大

臣大友皇子怖叛逆過自殺同八月廿七日。

帝誅右大臣金蓮同年左大臣赤兄配流。

孝謙天皇御宇天平寶

字元年丁酉七月十二日右大臣豐成被遷大宰權帥同八年甲辰九月十九日誅大師正一位仲磨。

號惠桓美。

武天皇御宇延曆元年壬戌六月左大臣魚名左遷醜齋天皇御宇昌泰四年辛酉正月廿五日右大臣菅原公遷

太宰權帥給冷泉天皇御宇安和二年己巳三月廿六日左大臣高明配同官一條天皇御宇長德二年丙申四月廿四日內大臣伊周又左遷帥高倉院御宇治承三年己亥十一月十七日太政大臣師長配尾張國

等是也。

" 2 · 6 · 21 条

5²³、前内大臣并右衛門督清宗等首源廷尉家人等持向六條河原檢非違使大夫尉知康六位尉章貞信盛公朝志明

基府生經廣兼康等薦其所請取之懸獄門前樹矣此事頭右大辨光雅朝臣參陣仰別當家通別當仰

頭辨々々傳大夫史隆職々々傳廷尉知康云々

" 2 · 6 · 23 条

16³、橘右馬允淺羽庄司等自京都歸參去月廿一日前内府父子梶首事同廿三日被遣彼首於獄門被渡重

衡於南都事等具申之云々

" 2 · 7 · 2 条

17³、久經國平等使者自京都參着帶院廳御下文已以赴鎮西畢云々持參彼御下文案卽所被預置

俊兼也其狀云院廳下文略

" 2 · 8 · 13 条

23、二品被進御書於京都是葛上神湯兩庄事可被下院廳御下文之由也勅使河原後三郎爲使節上洛

云々。

文治1·8·28条

大略已調置京都。爲奉行

樞原源太左衛門尉景季。義勝房成尋等。爲使節上洛也。南御堂供養導師御布施并堂莊嚴具。也。亦平家緣坐之輩未赴配所事。若乍居蒙勅免者不及子細。遂又可被下遣者。早可有御沙汰。歟之由被申之。次稱御使。行向伊與守義經之亭。尋窺備前々司行家之在所。可誅戮其身之由相觸。而可見彼形勢之旨。被仰含景季。云々。去五月廿日。前大納言時忠卿以下被下配流官符畢。而于今在京之間。二品爵祿給之處。豫州爲件亞相聟。依思其好抑留之。加之引級備前々司行家。擬背關東之由。風聞之間如斯云々。

24¹
25¹ 景季。成尋等入洛。則申配流人々事。云々。

24²
25² 南御堂供養間。導師請僧等布施。諸方進物。且覽之。其間事令レ談合左馬頭給。又爲御分并布施取等。裝束廿餘具自京都被召下。義勝房相具之。去夜參着。仍今日被支配所役人々。因幡前司。筑後權守等奉行之。

10 · 1 · 12 · 1 · 9 · 2 条

24、樞原源太左衛門尉景季自京都歸參。於御前申云。參向伊豫守亭。申御使由之處。稱違例無對面。仍此密事以使不能傳。歸旅宿。六條油小路。相隔一兩日。又令參之時。乍懸脇足被相逢。其駄誠以憔悴。炎有數ヶ所。而試達行家追討事之處。被報云。所勞更不僞。義經之所思者。縱雖爲如強竊之犯人。直欲糾行之。況於行家事哉。彼非他家。同爲六孫王之餘苗。掌弓馬。難准直也人。遣家人等之許。輒難降伏之。然者早加療治。平愈之後可廻計之趣。可披露之由云々者。二品仰曰。同意行家之間。構虛病之條已以露顯云々。景時兼之。申云。初日參之時不遂面拜。隔一兩日之後有見參。以

之案事情。一日不食。一夜不眠者。其身必悴。灸者又雖何所。

乎。然者一兩日中被相構如然之事歟。有同心用意兮。不可及御疑貽云々。// 1 · 10 · 6 条

26²⁴、可誅伊豫守義經之事。日來被凝群議。而今被遣土佐房昌俊。此追討事。人々多以有辭退氣之處。昌俊進

而申領狀之間。殊蒙御感仰。已及進發之期。參御前。老母并嬰兒等在下野國。可令加憐愍御上之由申之。二品殊被諸仰。仍賜下野國中泉庄云々。昌俊相具八十三騎軍勢。三上彌六家季昌俊弟。錦織三郎。門眞太郎。藍澤二郎以下云々。行程可爲九ヶ日之由被定云々。

// 1 · 10 · 9 条

5²⁵、去一日并今日。伊豫大夫判官義經潛參仙洞。奏聞云。

前備前守行家向背關東企謀反。其故者。可

誅其身之趣。鎌倉二位卿所命。達行家後聞之間。以何過怠可誅無罪叔父哉之由。依含鬱陶也。義經頻雖加制止。敢不拘。而義經亦退平氏凶惡。令屬世於靜謐。是蓋大功乎。然而二品曾不存其酬。適所計宛之所領等悉以改變。剩可誅滅之由有結構之聞。爲遁其難已同意行家。此上者可賜賴朝追討官符。無勅許者兩人共欲自殺云々。能可宥行家鬱憤之旨有勅答云々。

// 1 · 10 · 13 条

26¹、土左房昌俊。先日依含關東嚴命。相具水尾谷十郎已下六十餘騎軍士。襲伊豫大夫判官義經六條室町亭。于時豫州方壯士等逍遙西河邊之間。所殘留之家人雖不幾。相具佐藤四郎兵衛尉忠信等。自開門戶。懸出責戰。行家傳聞此事。自後面來加。相共防戰。仍小時昌俊退散。豫州家人等走散求之。豫州則馳參仙洞。奏無爲之由云々。

// 1 · 10 · 17 条

御堂供養導師本覺院僧正坊公顯下着。所_レ相_二具廿口龍象_一也。參河守範賴朝臣相伴參着云々。彼朝臣今夜即參

二品御所。申_二日來事。去月廿七日自_二西海_一入洛云々。

" 1 · 10 · 20 条

22¹、今日。源藏人大夫賴兼自_二京都_一參着。去五月。家人久實搦_レ進犯人。

創盜人。書御座御

依_二件賞_一。去十一日敍從五位

上_一。久實又賜_二兵衛尉_一。而讓_二息男久長_一之由申_レ之。

" 1 · 10 · 21 条

26²、又風聞說云。去十七日。土佐房合戰不成其功。行家義經等申_二下二品追討_一。宣旨_二云々。一品曾不_レ令_二動搖_一

給_レ。御堂供養沙汰之外無_レ他云々。

" 1 · 10 · 22 条

5²⁷、山内瀧口三郎經俊僕從自_二伊勢國_一奔參。申_二云_一。伊豫守稱_二宣旨_一。被_レ催_二近國軍兵_一。此間爲_レ誅_二經俊_一。去

十九日被_レ圍_二守護所_一。定不_レ遁歟云々。仰曰。此事非_レ實證歟。經俊無_レ左右_一非_レ可_レ被_レ度_二于人_一之者_上云々。經

俊者所_レ被_レ補_二置勢州守護_一也。

" 1 · 10 · 23 条

27、今曉。差_二領狀勇士等_一。被_レ發_二遣京都_一。先至_二尾張美濃_一之時。仰_二兩國住人_一。可_レ令_レ足近洲侯已下渡々。入_レ洛最前可_レ誅_二行家義經_一。敢莫_レ斟酌_一。若又兩人不_レ在_二洛中_一者。暫可_レ奉_レ待_二御上洛_一者。各揚_レ鞭云々。

" 1 · 10 · 25 条

26³、土佐房昌俊并伴黨三人。自_二鞍馬山奥_一。豫州家人等求_二獲之_一。今日於_二六條河原_一梶首云々。

" 1 · 10 · 26 条

28、又筑前介兼能爲_二御使_一。上洛云々。

" 1 · 10 · 27 条

29²⁸、關東發遣御家人等入洛。二品忿怒之趣。先申_二左府_一云々。今日豫州至_二河尻_一之處。攝津國源氏多田藏人大夫行

綱。豐嶋冠者等遮_二前途_一。聊發_二矢石_一。豫州懸敗之間。不能挑戰。然而與州勢多以零落。所_レ殘不_レ幾云々。

5²⁹、行家。義經於大物濱乘船之刻。疾風俄起而逆浪覆船之間。慮外止渡海之儀。伴類分散。相從豫州之輩纔四人。所謂伊豆右衛門尉。堀彌太郎。武藏房辨慶并妾女字靜。一人也。今夜一宿于天王寺邊。自此所逐電云々。今日可尋進件兩人之旨。被下院宣於諸國云々。

30 31、大和守重弘。一品房昌寬等爲使節自黃瀨河上洛。行家義經等事所被齎申也。又彼等已落都之間。止御上洛之儀。今日令歸鎌倉給云々。

5³⁰、豫州籠大和國吉野山之由。風聞之間。執行相催惡僧等。日來雖レ索山林。無其實之處。今夜亥剎。豫州。

妾靜自當山藤尾坂降到于藏王堂。其躰尤奇恠。衆徒等見咎之。相具向執行坊。具問子細。靜云。吾是九郎大夫判官。今伊。妾也。自大物濱豫州來此山。五ヶ日逗留之處。衆徒蜂起之由依風聞。伊與守者假山臥之姿逐電訖。于時與數多金銀類於我。付雜色男等欲送京。而彼男共取財寶。棄置于深雪中之間。如此迷來云々。

" 1 · 11 · 17 条

5³¹、伊豫守義經。前備前守行家等出京都。去六日於大物濱乘船解纜之時。遭惡風漂沒之由。及傳聞之處。八嶋冠者時清同八日歸京畢。兩人未死之旨。言上云々。

5³²、豫州凌吉野山深雪。潛向多武峰。是爲祈請大織冠御影云々。到着之所者。南院内藤室。其坊主號十字坊之惡僧也。賞翫豫州云々。

" 1 · 11 · 20 条

32、今日北條殿入洛云々。行家義經叛逆事。二品舊陶之趣。帥中納言具以奏達。仍今日條々有沙汰。惄可

「尋索」之由被^レ宣下。其狀云。（藏人頭右大辨兼皇后宮亮藤原光雅奉宣旨略）

〃 1・11・25条

32¹、補^レ任諸國平均守護地頭。不論^レ權門勢家庄公。可^レ宛^レ課兵糧米^{段別}五升。之由。今夜。北條殿謁^レ申藤中納言經房

卿^{一云々。}

〃 1・11・28条

32²、北條殿所^レ被^レ申之諸國守護地頭兵糧米事。早任^レ申請^{可^レ有^レ御沙汰}之由。被^レ仰下^一之間。帥中納言被^レ傳^二勅於北條殿^{一云々。}

〃 1・11・29条

32³、平氏一族相^レ漏誅戮配流^{二罪}之輩多以在^{二京都}。又前中將時實。去夏雖^レ合^一配流。宣下^一不^レ向^二配所^一。今度同^二意義經^一赴^二西海^一之由風聞。仍是彼早尋^レ取之。可^レ召^一預在京御家人^一之由。今日被^レ仰^一遣北條殿^一。^{去月廿五日入洛云々。}

〃 1・12・1条

33⁴、今度同^二意行家義經^一之侍臣并北面輩事。具達^一關東^一。仍可^レ被^レ申^一行罪科^一之由。注^二交名於折紙^一。被^レ遣^一帥中納言^一。其上。殊結構衆六人可^レ申請^一之旨。被^レ觸^一仰北條殿^一。謂六人者。侍從良成。少內記信康。^{伊豫守右筆。}右馬權頭業忠。兵庫頭章綱。大夫判官知康。信盛。左衛門尉信實。時成等也。又右府有^下引^一級關東^一之聞^上。依^レ令^レ露^一中丹^一。被^レ獻^一通書^一。廣元。善信。俊兼。邦通等沙^一汰此間事^一。院奏折紙狀云。（後白河院奏上折紙並

右中辨王生兼忠宛源 賴朝文書略）

〃 1・12・6条

雜色濱四郎爲^レ御使^一帶^下院奏折紙狀并被^レ獻^一右府^一御書等^上上洛。左典廐下部黒法師丸爲^レ京都案内者^一被^レ相^二副之。有^レ義經同心聞^一之侍臣事。被^レ申^一子細^一之中。民部卿成範卿者。爲^レ右府御緣者^一之間。被^レ除^一折紙^一。此間事等。京都巨細者。大畧以被^レ示^一合左典廐并侍從公佐等治定^{云々}。彼公佐朝臣者。二品御外舅北條殿外孫

法橋全成。息女子也。旁以有其好之上。心操太穩便。不背御意之故。今度則令舉申右馬權頭給云々。

32⁵、吉野執行送靜於北條殿御亭。就之。爲搜求豫州。可被發遣軍士於吉野山之由云々。

1 · 12 · 7 条

32⁶、北條殿飛脚自京都參着。被注申洛中子細。謀反人家屋等先點定之。同意惡事之輩。當時露顯分。不逐電之様廻計畧。此上又申帥中納言殿畢。次豫州妾出來。相尋之處。豫州出都赴西海之曉。被相伴至大物濱。而船漂倒之間。不遂渡海。伴類皆分散。其夜者宿天王寺。豫州自此逐電。于時約曰。今一兩日於當所可相待。可遣迎者也。但過約日者速可行避云々。相待之處。送馬之間乘之。雖不知何所。經路次。有三ヶ日。到吉野山。逗留彼山五ヶ日。遂別離。其後更不知行方。吾凌深山雪。希有而着藏王堂之時。執行所虜置也者。申狀如此。何様可計沙汰乎云々。

1 · 12 · 8 条

34¹、去七日所被副上洛御使之黒法師丸。自途中馳歸。申云。雜色濱四郎至駿河國岡部宿。俄病憊。心神失度。待平愈之期。雖經兩日。當時起居猶不任其意。况難向遠路云々。依之不廻時剋。被差上雜色鶴次郎。生澤五郎。黒法師丸猶所相副也。又被遣北條殿返事。靜者可被召下云々。

1 · 12 · 16 条

32⁷、小松内府息丹後侍從忠房。後藤兵衛尉基清預之。亦北條殿任關東仰。屋嶋前内府息童二人。越前三位通盛

卿息一人被^レ搜^ニ出之。於^ニ遍照寺奧。大覺寺北菖蒲澤。虜^ニ權亮三位中將惟盛卿嫡男。

字六代。令^レ乘^レ輿被^レ向^ニ野

地^ニ之處。神護寺文學上人。稱^レ有^ニ師弟之昵。申^ニ請^レ北條殿^ニ云。須^レ啓^ニ子細於鎌倉。待^ニ其左右^ニ之程。可^レ被^ニ

宥置^ニ云々。前^ニ土佐守宗實^ニ。府息^ニ小松内^ニ左府猶子也。是又被^レ申^ニ二品。暫可^レ有^ニ免許^ニ之由被^ニ仰遣^ニ。依^レ之。兩人者

被^レ閑^レ之。於^ニ屋嶋内府息等^ニ者梟首^ニ云々。

1 · 12 · 17 条

32⁸、北條殿御使參着。去十七日。被^レ下^ニ解官^ニ宣旨^ニ。大外記師尚送^レ之。則奉^レ獻^ニ其狀^ニ云々。(左大臣藤原經宗宣、大

外記中原師尚奉宣旨略)

1 · 12 · 29 条

32⁹、雨降。北條殿飛脚自^ニ京都^ニ參着。御使雜色鶴二郎等去冬十二月廿六日入洛。令^レ申給之趣。同廿七日有^ニ其沙

汰^ニ解官配流等。藏人宮内權少輔親經宣下。別當家通。藤宰相雅長。書^ニ除目^ニ云々。(任解官配流等除書略)

1 · 12 · 29 条

32¹⁰、今日。北條殿於^ニ六條河原^ニ剗^ニ群黨十八人首^ニ。凡如^レ此犯人者不可^レ渡^ニ使廳^ニ。直可^レ處^ニ剗刑^ニ之由^ニ云々。

(配流官符略)

1 · 12 · 29 条

32¹¹、北條殿使者到^ニ來關東^ニ。去月廿三日。前中將時實朝臣被^レ下^ニ配流官符^ニ。改^ニ周防國^ニ。可^レ被^レ配^ニ流上總國^ニ之由

云々。

1 · 12 · 29 条

32¹²、北條殿飛脚自^ニ京都^ニ到来。持^ニ參^ニ院宣^ニ。御熊野詣事。定長奉書如此。今春中欲^ニ令^レ遂御^ニ。々山供米等可^レ被^ニ

沙汰進^ニ之由^ニ云々。則所^レ被^ニ副^ニ進左少辨奉書^ニ也。是去三日戊刻。自^ニ帥中納言之許^ニ。到^ニ來于北條殿^ニ。今月中可^レ進御請文^ニ之旨。嚴密被^ニ相觸^ニ之間。不^レ經^ニ日時^ニ。令^ニ獻上^ニ之由。被^レ載^ニ彼狀^ニ云々。(帥中納言藤原經房宛

32¹³、當番雜色自京都參着。進北條殿狀等。靜女相催可送進。又正月廿二日。同廿八日。洛中群盜蜂起。則擄獲之。去一日。十八人梶首畢。經數日者。似寬刑之間。不及召渡使廳。直到沙汰云々。

37、供御甘苦。自伊豆國到來于鎌倉。彼國土產也。仍任例。差專使被京都進之云々。 // 2 · 2 · 19 条

15¹、安達新三郎爲飛脚上洛。被申條々。可被下攝政詔於右府之事在其内歟。

漢戈智頗令越人給云々。當攝政殿本自爲平氏緣人。關東有御隔心之處。去年義經顯逆心之時給追討

宣旨。偏依彼御議奏之由風聞。仍可被舉申之趣。内々被啓右府。而不可叶時宜之旨。右府雖

レ有御猶豫。遂被申之歟云々。又北條殿早可被歸參之由被仰遣。於關東事可有御談合事有數。洛

中守護者已可被仰左典廐之故也。

38、小中太光家爲使節上洛。是左典廐賢息。外品御依可下令加首服給。被獻御馬三疋。長持金綱等二掉之故也。

// 2 · 2 · 27 条

39、山城介久兼爲使節上洛。被仰伊勢國神領顛倒奉行等事。又諸國兵糧米催事。漸可被止之由。被仰北條殿

。是及狼藉之旨。預所有訴之故也。依之可被奏達此趣之旨。被申帥中納言許云々。(帥中納言藤原經房

宛源 賴朝文書略)

32¹⁴、北條殿可歸關東之由。奏聞訖。在京頻叶叡慮之間。雖令拘留御。含二品御旨已欲歸國。仍洛中事

" 2 · 3 · 16 条

可レ示付何人哉之由。有ニ勅問。付帥中納言。被奏御返事云々。(帥中納言宛平時政請文略)

" 2 · 3 · 23 条

32¹⁵、北條殿。近日依可レ被歸參關東。公家殊被惜思食之由。帥中納言被傳勅旨。是則公平忘私之故也。且其身雖レ令下向。差置穩便代官。可レ令執沙汰地頭等雜事之旨。度々被仰下之處。敢無其仁。重一旦勅定。差置非器代官等。若有下現不當之事上者。還可レ有其恐歟之由。固辭及再三。但洛中警衛事者示付平六時定。内々二品仰也云々。

" 2 · 3 · 24 条

40、以紀伊權守有經爲御使。被宛申丹波國篠村莊於松尾延朗上人。本是三位中將重衡卿所領地。後爲義經之勸賞地也。而豫州奉寄附上人。々々雖固辭。依不等閑。領納之後。爲令富慰民戶。止乃貢。勸百姓。令唱彌陀寶號。隨其數反出返抄用所濟云々。豫州逐電以後。可返上由被申之處。本自豫州者傳領之主也。爲本主有寄奉志之由。被仰遣畢云々。此上人者。多田新發滿中八代苗裔對馬太郎義信。對馬守男也。出累葉弓馬之家。入實圓乘之門。凡顯密兼備。内外相應之碩德也云々。
義親男

" 2 · 3 · 26 条

32¹⁶、北條殿已欲レ進發關東。仍爲警衛洛中撰定勇士被差置之。其交名注載折紙。所付進帥中納言也。(京都駐留者交名注載折紙略)

" 2 · 3 · 27 条

32¹⁷、北條四郎主出京之後。今日着尾張國萱津宿。而關東御使來會于此所。帶去月十六日御書。仍相副狀。被

レ送進帥中納言殿許云々。(大夫屬藤原經房宛北條時政文書略)

" 2 · 4 · 1 条

41、法皇御灌頂用途等事。爲「京進」被「出解文」。爲「俊兼善信等奉行」。差「進御使雜色」於「駿河上總兩國御米」者。

先日旣出國之由所「言上」也。此外絹布等。自「陸路」可「相具」云々。

" 2 · 4 · 7 条

32¹⁸、北條殿自「京都」參着。京畿沙汰間事。條々有「御問」。亦被「申」子細。就「中」。注「謀反輩知行所々」。可「檢」知其地「之由雖言上」。不被「聽」之。次前攝政殿被「仰家領等難」被「付」渡當執柄方「由事」。加「潤色詞」被「計申」。次播磨國守護人妨「國領」由事。在廳注文。景時代官狀雖「被」下之。未「申」一切是非。次今南。石負兩庄并弓削柵兵糧事。度々被「下」院宣「之間」。早可「停止」之由。捧「請文」下向畢。凡條々。去月廿四日蒙「傳奏」之由。每事不「違」二品御命云々。

" 2 · 4 · 13 条

38¹、小中太光家自「京都」歸參。左典廄被「御返報」云々。去月廿五日。賢息首服。理髮右中將實教朝臣。加冠內府云々。

" 2 · 4 · 15 条

42、又今日行家義經猶在「洛中」。叡岳惡僧等同意結構之由。有「其聞」之間。殊可「被」申沙汰歟。不然者。差「登勇士於彼山」。可「搜」求件惡僧等「之由」。被「仰」遣帥中納言許。依「之」。源刑部。蒸。爲。賴。元者。新中。然。盛。卿。侍。故。爲。長。賴。者。也。爲「使節」上洛云々。

" 2 · 4 · 20 条

42¹、紀伊刑部。蒸。爲。賴。爲。飛。脚。自「京都」到着。所「持」參「院宣」也。以「夜繼」日可「進」之旨。帥中納言被「觸仰」之由云々。北條殿被「歸」關東之後。洛中之狼藉不可「勝計」。去月廿九日夜。上下七ヶ所群盜亂入云々。(源二位賴朝

宛藤原經房文書略)

32¹⁹、北條殿雜色自「京都」參着。去六日左典廄室家女子御平產之由。申「之」云々。典廄被「申」云。可「鎮」世上嘆々之

" 2 · 5 · 13 条

由。去七日蒙院宣云々。

〃 2 · 5 · 15 条

43、梶原刑部羨朝景自京都進使者。執申内大臣家訴事。是家領等爲武士被押妨事也。所謂越前國北條殿眼代越後介高成妨國務。般若野庄藤内朝宗。瀬高庄藤内遠景。大嶋庄土肥次郎實平。三上庄佐々木三郎秀綱。各或三年。或一兩年。煩所務抑乃貢云々。二品殊令驚給。速可止妨之由。面々可被仰含之由云々。

〃

2 · 6 · 17 条

44、水尾谷藤七爲使節入洛。是去二日入道前大納言賴盛。薨卒之間。爲令訪彼舊跡也云々。〃 2 · 6 · 18 条
45、爲搜尋求行家義經隱居所々。於畿内近國。被補守護地頭之處。其輩寄事於兵糧。譴責累日。萬民爲之含愁訴。諸國依此事令凋弊云々。仍雖可被待義經左右。有二人愁歟。諸國守護武士并地頭等早可停止。但於近國沒官跡者。不可然之由。二品被申京都。以帥中納言。可奏聞之旨。被付御書於廷尉公朝歸洛便宜。又因幡前司廣元爲使節所上洛也。(帥中納言藤原經房宛源 賴朝文書略)

〃

2 · 6 · 17 条

43、46、左馬頭飛脚自京都到来。豫州隱居仁和寺。石倉邊之由。依有其告。雖遣刑部羨朝景。兵衛尉基清已下勇士無其實。而當時在叡山。惡僧等扶持之由風聞云々。

〃 2 · 6 · 21 条

45¹、因幡前司廣元歸參關東。去比所上洛也。諸國守護地頭條々事。委細預下問。言上所存了。又播磨備前兩國武士妨。注文給之。可糺明之由蒙仰。是廣元者。爲二品御腹心專一者之由。去月十四日及公家御沙汰。面目之所至也云々。

〃 2 · 7 · 19 条

47、比。企藤内爲使節上洛。是依進上皇御熊野詣御物等也。日來被宛召諸庄園云々。" 2 · 8 · 4 条

43²、梶原刑部羨朝景去夜自京都歸參。是去年被撰遣勇士於廿六ヶ國之時所向土佐國也。件國如嚴命沙汰

鎮之參上。今日召御前。尋洛中事等給。先豫州逐電之後沙汰次第并同意之輩事。具言上。又申云。春

三月之比。召群盜張本平庄司_{丹波國住人}被禁置左獄。餘人競來。切破彼獄。庄司已下犯人悉遁出訖。仍

別當家通。仰廷尉等。雖搜尋諸方不出来。而八月十一日朝景攔獲之。同廿一日將參大理門下。令請

取廷尉_{云々}。" 2 · 9 · 15 条

47¹、北條兵衛尉飛脚參着。申云。去廿二日糟屋藤太有季虜堀彌太郎。誅佐藤兵衛尉者。景光白狀云。豫州此間

在南京聖弘得業邊。又景光爲興州使者。度々向木工頭範季之許。有示合事_{云々}。仍南都之事。付左

典廄。經奏聞。差副五百餘騎於比企藤内朝宗。爲搜求之。遣南都了云々。" 2 · 9 · 29 条

47²、去月朝宗等打入南都。雖搜求聖弘得業邊。不獲義行_{本名義經。去比改名。}之間。空以歸洛。依之南都頗物忿。衆

徒成蜂起含鬪訴。可停止維摩大會之由風聞云々。" 2 · 10 · 10 条

35²、丑剋。雜色鶴次郎爲御使上洛。是木工頭範季朝臣同意伊豫守義行事。殊可訴申之旨。被仰北條兵衛尉

行程所被定三箇日也。" 2 · 10 · 16 条

35³、36¹、14、雜色鶴次郎并貢物御使生澤。御廄舍人宗重等自京都歸參。北條兵衛尉書狀到來。貢馬去二日經御覽

訖。同日木工頭兼皇后宮亮範季解却見任之云々。" 2 · 11 · 17 条

47³、當時。比企藤内朝宗已下御家人差置郎從等於南都。守聖弘得業坊。是爲尋義顯也。而去比。山階寺別

當僧正企參洛。此事已可爲一寺滅亡之基歟。早可尋索之趣申請之由。右武衛所被申送也。

" 2 · 12 · 15 条

1¹、合鹿大夫光生爲御使爲奉幣于太神宮。進發伊勢國。神馬八疋。

内外宮分各々二疋。風宮。荒祭。伊難。瀧原各一疋。砂金廿兩。御劍二腰。所

レ被奉送也。是依伊豫守義經反逆御祈禱也云々。

" 3 · 1 · 20 条

10¹、美濃權守親能爲上洛使節進發。相具貢馬十疋。是來月上旬之比。法皇依可有御熊野詣也。

" 3 · 2 · 16 条

48、依被重上宮太子聖跡。法隆寺領地頭金子十郎妨事。可停止之趣。去年下知給之處。猶不靜謐之由。寺家

帶院宣就訴申遣雜色里久。可止鷁庄押領之由及沙汰。件庄事。太子殊依執思食。有被

載趣。二品所聞食驚也。(播磨國鷁庄住人宛二品源 賴朝文書)

30¹、百部大般若經轉讀事。一昨日歷二七ヶ日結願。仍被奉卷數於仙洞。今日大和守重弘帶之上洛云々。

" 3 · 3 · 19 条

" 3 · 4 · 17 条

30²、大和守重弘自京都參着。上皇御惱事。已令復本御。依此御事。去月三日被行非常赦。但伊豫守義顯并緣坐衆者被除之由申之。

" 3 · 5 · 15 条

45²、因幡前司廣元爲使節上洛。閑院 皇居可加修復之由被申之。又帥中納言。其事可預御舉之旨。日來内々被申于二品。此卿爲膠漆御知音也。仍牙左右雖可被奏達。上虧有數歟。隨京都之形勢。可奏試之由。被仰廣元。凡不限此卿於廉直臣者。於事可加扶持之由。朝暮

被挿御意。偏爲君爲世也云々。

" 3 · 6 · 21 条

- 49、雜色正光爲御使。帶御書。赴伊勢國。是當國沼田御厨者。畠山二郎重忠所領地頭職也。而重忠眼代内別當真正令追捕員部大領家綱所從等宅。沒收資財之間。家綱差進神人等令訴申。仍爲被糺行其科也。又正光寄事於御使。於現濫行者。加誠可言上子細之趣。被仰遣山城介久兼。在彼國云々。 " 3 · 6 · 29 条
- 50、雜色里長爲御使上洛。是右武衛能保。姫公爲御乳母。依可有參內。被遣長絹百疋之故也。御家人等面々沙汰進之云々。

- 45³、因幡前司廣元使者自京都參着。去十五日於六條若宮。始行放生會之處。見物雜人中鬪亂出來。有被疵之者等云々。

51、下河邊庄司行平爲使節上洛。又重被申京都條々。(源賴朝言上文書略)

" 3 · 8 · 27 条

- 52¹、千葉介常胤爲使節上洛。是洛中狼藉事。爲關東御家人等所爲歟之由。有疑貽之旨。風聞之間。爲令尋沙汰也。合御使行平先以進發訖。可同道之處。常胤違例之間。延而及今日云々。 " 3 · 8 · 30 条

- 53、秀衡入道扶持前伊豫守。發反逆之由。二品令訴申給之間。去比被下廳御下文於陸奧國畢。其時。關東同被遣雜色之處。今日歸參。於秀衡。謝申无異心之由。而如雜色申者。既有用意事歟云々。仍彼雜色重被差進京都。爲令言上奧州形勢也。

" 3 · 9 · 4 条

- 54、法皇御灌頂御訪用途事。兼日雖被仰下。他事計會之間。于今无沙汰。於御入壇者。去八月廿二日令遂御訖。然而所謂置之貢物不可默止。所令運送京都給也。雜色六人相副之。解文書様(解文略)

付下河邊庄司。千葉介等上洛。々中群盜以下條々。

令奏聞給事。悉有勅答。其狀。今日所レ到来

于鎌倉也。又御熊野詣用途事被仰下。不日可下令レ進御請文給之由云々。

院宣云。(太宰權帥藤原經房奉院

宣並源 賴朝宛藤原經房私信略)

51³
52²

下河邊庄司行平。千葉介常胤自京都歸參。於院宣等者。先々付雜色進上畢云々。爰兩人被レ

御前。上洛之間。京中靜謐之由及叡感。尤爲御眉目之趣。所被感仰也。而行平九月十一日入洛。卽

夜窺兼承及群盜衆會之所々。令下郎從致夜行上之處。於尊勝寺邊。行逢奇恠之者。人數八人。不殘

兮擄取之。尋明所犯之間。不相待常胤。將又不相觸使廳。任北條殿之例。刎彼等首訖。常胤

同十四日京着。各在洛。雖不歷幾日數。更不聞狼藉事。自然无爲。誠是依將運之所レ令然歟。次

在京武士事。以御使雜色并兩人使。不廻日時悉召之。所來聚也。尋問訖。面々有陳申之旨。非

无子細。其狀五十三通進上之。其上无所犯實證。不能沙汰事也云々。就之。件陳狀等可付帥中納

言。歎之由。雖有其沙汰。關東武士所行とハ。全不風聞之由。被載院宣之間。加斟酌不備進

之。令持參之由。行平等申之。此事其理可然。仍又有御感。被留營中云々。

45⁴、閑院修造事。其功漸成。來月上旬可有遷幸之旨兼之。定被仰御勸賞歎之由。廣元言上之間。勸賞事及

御沙汰者。早可辭之趣。仰盛時被遣御書於廣元之許也。其詞云。(因幡前司廣元宛盛時奉書略)

10²、爲閑院遷幸樂屋一本幄覆慢并十八帖事。去八日染進仙洞之由。親能自京都所申送也。

" 3 · 10 · 28条

55、貢馬三疋進發。佐々木次郎經高爲御使相見之上洛云々。四郎政義。千葉四郎胤通等騎之。(貢馬進上者並毛付略)

" 3 · 11 · 11条

45⁵、閑院修造勸賞事。可辭申之旨。兼以被仰遣廣元之許畢。廣元得其趣。遮依辭申。無其沙汰者。去十三日以遷幸之次。相模武藏兩國可爲重任之由。被仰之許也。仍被下御感院宣。今夕到來。其詞傳。(太宰權帥藤原經房奉院宣略)

" 3 · 11 · 28条

56、被進飛脚於京都。行程被定七ヶ日。是來十一日法皇熊野御參詣之間。依被進砂金也。其上御分三ヶ國之内武士等押領所々之由。被仰下畢。賜注文。可加下知之旨。令言上給云々。

" 3 · 12 · 2条

10³、去元曆二年五月廿日所被流罪之平氏緣坐内。前法印大僧都良弘被遣阿波國訖。而去三月卅日被召返之由。親能申之。

" 4 · 4 · 10条

10⁴、西剋。親能飛脚自京都參着。去十三日六條殿燒亡云々。寶藏井御倉雖遁災。於長講堂者災。本尊奉取出之云々。

" 4 · 4 · 20条

57、鎌田新藤次爲使者上洛。六條殿火事。殊驚申給之故也。被進御書上。得意可然之様可被同奏之由。被遣御文於右武衛云々。

" 4 · 4 · 21条

10⁵、式部大夫親能飛脚自京都參着。去月廿五日於東大寺壇内。寺僧與武家使鬪亂。相互傷死被疵者數十

人也。今日廿九日。在京士卒欲レ令發_二向南都_一之處。爲_二朝大事_一。可_レ加_二禁制_一之旨。被_レ仰_二右武衛并親能_一之間。暫留之。則應_レ仰。留_二武士發向_一畢之由。所_レ申_二上帥殿_一也云々。是依_レ殺_二害高太入道_一事上。可_レ尋沙汰_一之由。二品下知給之間。親能遣_二使者於南都_一。欲_レ尋之處。不_レ相_二待其成敗_一。忽此狼藉出來云々。

" 4 · 12 · 6 条

45⁶、因幡前司廣元使者自_二京都_一到來。申云。今月三日。熊野參詣所_二進發_一也。而其精進中。蒙_二御感仰_一者。閑院并六條殿修造已下。於_レ事勤_レ節。殊神妙云々。凡歡喜之淚難_レ抑。此仰。偏陰德之所致歟云々。次廣元知行周防國嶋末庄事。女房三條局捧_二折紙_一。所望之間。爲_レ帥中納言之奉_レ。被_レ尋_二知行由緒_一之間。注_二子細_一。進_レ狀畢。定直被_レ仰下歟。爲_レ被_レ知_二食廣元言上之様_一。進_レ彼狀案文_一之由云々。(帥中納言藤原經房宛因幡前司廣元文書
案文略)

案文略)

11¹、被_レ發_二御使_一。於_二京師_一。伊豫守逐電之後。御沙汰次第。頗以寬宥之間。人猶可_レ事_二凶惡_一。尤可_レ及_二急速之御沙汰_一之趣。被_レ申_二之云々。(事書略)

" 5 · 2 · 22 条

31¹、成_レ勝寺執_二行法橋昌寬爲_二使節_一上洛。被_レ獻_二御消息於帥中納言_レ。是泰衡自由請文。聊非_二御許容之限_一。速可_レ被_レ下_二追討_一宣旨_一之由。依_レ重被_レ申也。又以_レ此次_二。鶴岡塔供養願文。可_レ調給_二之旨。内々所望給_レ同導師_レ。可_レ然之僧一人。可_レ令_二計申請_一給_レ者。

" 5 · 3 · 22 条

6³、²梶原平三景時之在京郎從。爲_二飛脚_一到着。持_二參帥中納言_一經房_レ去八日消息_一。其趣。賴經卿父子。朝方卿父子事。任_レ令_二申請_一給_レ之旨。被_レ沙汰切_二畢_一。且彼政綱通_二義顯_一之狀。早可_レ進覽_一。次山上兵具事。可_レ禁制_一事。任_レ令_二申請_一給_レ之旨。被_レ沙汰切_二畢_一。且彼政綱通_二義顯_一之狀。早可_レ進覽_一。次山上兵具事。可_レ禁制_一事。

之旨。

被仰^ニ座主^ニ事又訖。奧州事。被仰^ニ合攝政以下諸卿^ニ追可^レ有^ニ勅答^ニ之旨。蒙^ニ院宣^ニ者。又昌寬^ニ

注申云。去月十九日。按察大納言并侍從朝經籠居。同十三日。彼父子及左衛門尉政綱等被解^レ却見任^ニ云々。

〃 5・4・19条

58、申剋。奧州飛脚參着。申云。去月晦日。於^ニ民部少輔館^ニ誅^ニ與州^ニ。其頸追所^レ進也^ニ云々。則爲^レ被^レ奏^ニ達事由^ニ。被^レ進^ニ飛腳^ニ於^ニ京都^ニ。御消息曰。(源賴朝消息略)

〃 5・5・22条

59、入^レ夜。所^レ被^レ進^ニ京都^ニ之飛腳歸參。帥中納言返報到來。義顯誅討事。殊悅聞食之由。院仰所^レ候也。兼又彼滅亡之間。國中定令^ニ靜謐^ニ歟。於^レ今者可^レ橐^ニ弓箭^ニ之由。内々可^レ申之旨。其沙汰候云々。

〃 5・6・8条

60、被^レ進^ニ飛腳^ニ於^ニ京都^ニ。御消息云。可^レ追^ニ討^ニ奧州泰衡^ニ之由。言上先訖。定被^レ成^ニ下^ニ。宣旨^ニ候歟之由。存案之間。催集軍士。已送^ニ數日^ニ候畢。亦^ニ宣旨者。被^レ下^ニ官使^ニ候者。可^レ遲留^ニ候。仰^ニ左兵衛督^ニ。以^ニ彼飛腳^ニ可^レ給者。

〃 5・7・12条

46¹、右武衛使者後藤兵衛尉基清。并先日自^レ是上洛飛腳等參着。基清申^ニ云。泰衡追討^ニ宣旨事。攝政公卿已下。被^レ

經^ニ度々沙汰^ニ訖。而義顯出來。此上猶及^ニ追討儀^ニ者。可^レ爲^ニ天下大事^ニ。今年許可^レ有^ニ猶豫^ニ歟之由。去七日被^レ下^ニ宣旨^ニ也。早可^レ達^ニ子細^ニ之由。帥中納言相^ニ觸之^ニ。可^レ爲^ニ何様^ニ哉云々。令^レ聞^ニ此事^ニ給^ニ。殊有^ニ御鬱憤^ニ。軍士多以豫參之間。已有^ニ若干費^ニ。何期^ニ後年^ニ哉。於^レ今者^ニ必定可^下發向^ニ給^上之由。被^レ仰^ニ云々。

〃 5・7・16条

11²、被^レ發^ニ飛腳^ニ於^ニ京都^ニ。被^レ遣^ニ右武衛^ニ之御消息云。八月八日。同十日兩日。遂^ニ合戰^ニ。昨日廿二日。令^レ着^ニ平泉

候訖。而泰衡逃入深山之由。其聞候之間。重欲追繼候也云々。

" 5 · 8 · 23 条

15²、安達新三郎爲飛脚上洛。是依被付合戰次第於帥中納言也。主計允行政書御消息。其狀云。(帥中納言藤原經房宛源 賴朝消息)

" 5 · 9 · 8 条

62、申剋。御歸着鎌倉。入御營中之後。未被溫座。召因幡前司。被遣御消息於帥中納言并右武衛等。其詞云。追討奧州泰衡訖。召具彼黨類。今日甘四日令歸鎌倉候也者。雜色帶此書。爲飛脚上洛。其後御家人等獻盃酒。是豫所儲御所也。(帥中納言藤原經房並右武衛一條能保宛源 賴朝消息略)

" 5 · 10 · 24 条

45⁷、因幡前司廣元爲御使可上洛云々。是日來有其沙汰。今日已治定云々。征奧州之後。可下令所務給上條々被申之。勸賞事。固被辭申。亦御家人勲功事可注申有功輩之由。有院宣。可被行賞故歟。辭申之上者。不及子細。但勇士者。臨戰場以施武威爲先途。以此次。其名達上聽之條。可爲其身眉目之間。雖可注姓名。且乍辭申賞。令注進之者。緯與意似相違。且如注進折紙。若被繼加記錄等者。永留代々。及後見之時。被漏名字輩之子孫。不顧先祖無軍忠。定貽恨歟。旁無所據之由。謁帥卿并右武衛之時。内々可申出之旨。被仰因州云々。

" 5 · 11 · 7 条

45⁸、因幡前司廣元爲使節上洛。諸人莫不餞送。龍蹄百餘疋云々。二品賜鞍馬十疋。於京都爲令送人々也云々。又被奉綿千兩於仙洞。是駿河國富士郡濟物也。

" 5 · 11 · 8 条

63、依「泰衡征伐事」猶可「被」行「勸賞」之趣。爲「中納言經房奉」院宣到來之間。重令「辭申」給。但奧州羽州地下管領間事。明春可「有」御沙汰「歟」之由被「申」之。又降人等事。可「被」下「配流官符」之趣。載「一紙」同言上給。依此事。今日被「立」飛脚也。(降人配流地略) " 5 · 12 · 6 条

64、奧州降人等被「配流」事。今月十八日所「被」宣下也。職事藏人大輔家實。上卿別當。隆房。辨權右中辨棟範朝臣云々。自是所「被」進之飛脚。去十七日辰剋入洛。帥中納言即依「被」奏聞。翌日及「此御沙汰」於「兩國事」者。明春可「有」沙汰「之由」云々。

65、九郎藤次「飛脚」上洛。是鷲羽一櫃所「被」進「仙洞」也。去年可「被」進之處。自「奧州」遲到云々。

" 5 · 12 · 26 条

66、遠江守義定。去月廿五日被「遷」任下總守訖。是外雖「給」替國。內有「下背」徵慮事等「上」之故也云々。遠州者重任送多年之上。殊執思之處。今此事出來。愁歎尤難「休」之由。申「二品」之間。可「令」執奏「歟」之趣。被「副」御書於義定狀。差「飛脚」令「進上」給。行程被「定」五ヶ日云々。(中納言藤原經房宛遠江守安田義定申狀略)

" 6 · 1 · 3 条

" 6 · 2 · 10 条

45⁹、二位卿書狀。并義定申狀等。奏聞候畢。遠州在國之間。公事所濟目錄申上候畢。諸國宰吏。不勤「此程公役」哉。偏可「押領」之由存知歟。於「在京國司」者。或致「濟物」之上。相營恒例臨時課役。其外又所「抽」勤節也。於「義定」者。無「殊忠」之上。諸國逐「日亡弊」。非「尋常之國知行之仁」。加之六條殿造營之時。諸國皆領狀。一國有「申旨」。輒不「兼諾」。依「三品譴責」。慄勤仕。私物詣之間。雖過「京洛」。不「言」上事由。諸

國吏上洛之時。密々下向。未聞食習事歟。如此事等。雖不能仰遣。大概所被仰也。七ヶ年知行之後。被遷任他國。豈非御優憲哉。子細猶廣元下向之時。可被仰之由。且可仰遣二位卿許之由。内々御氣色候也。仍上啓如件。(權中納言藤原經房宛右大辨藤原定長文書略)

45¹⁰ 法金剛院領怡土庄地頭事。子細度々被仰畢。而去々年仰遣之處。奥州事切之後。可隨重仰之由。令申給

畢。於今者不及異儀事歟。加之。彼院領異他之上。能盛法師相傳所帶不知行之條。殊令歎申。非無其謂。不便聞食者也。不云是非。令止地頭給者。可宜事歟。依爲難去事。重所仰遣也。於委旨者。被仰含廣元畢。可令存知其旨給者。(源二位賴朝宛權中納言藤原經房文書略)

45¹¹ 右兵衛督能保書狀到來。所被付廣元之使者也。被執進院宣定長奉。并權中納言經房狀等云々。其詞曰。(權

中納言藤原經房宛右大辨藤原定長文書略)

45¹² 因幡前司廣元自京都參着。去年冬爲御使所上洛也。二品令申給條々。悉以有勅答。具言上其趣

云々。亦付彼便宜。前大僧正公顯獻消息。去三日補天台座主訖。智證門人絕而無此例。仍山徒殊雖鬱云々。此僧正者二品御歸依僧也。八十一老後。有此慶賀申之。勅命有限。請取宣命。同六日上辭狀云々。此僧正者二品御歸依僧也。八十一老後。有此慶賀

一云々。

〃 6・3・20条

67³ 佐々木左衛門尉定綱飛脚參着。申云。去十三日亥刻。右武衛室依難產卒給云々。二位家殊歎息給。今年四十六

云々。

〃 6・3・20条

30³ 大和前司重弘爲御使上洛。是被訪申一條殿室家卒去事之故也。

〃 1・4・22条

建久1・4・20条

30⁴、大和前司重弘自京都歸參。態及專使。爲悲歎之中喜悅之由。右武衛殊被申御返報。重弘申云。去月

十三日。彼室家爲存命落飭給。雖有產。遂以早世。翌日奉葬仁和寺邊。彼日賀茂祭也云々。

1 · 5 · 19条

11³、太神宮役夫工薪米事。信濃國未濟所々相交之由。造宮使言上之間。被差副雜色時澤於使。可催獻之旨被仰下云々。

1 · 6 · 6条

31³、法橋昌寛爲使節上洛。是來十月可有御上洛之間。於六波羅當時可被新造御亭。仍爲奉行也云々。

1 · 7 · 12条

68、京都宿所地事。度々雖令申給。其所未治定之上。今年依可有御上洛。殊被馳申之。於作事奉行人者。如木材爲用意。兼以上落地事者。重被立飛脚。行程可爲五ヶ日云々。(權中納言藤原經房宛源頬朝文書略)

1 · 7 · 27条

31⁴、京都御地事。故池大納言舊跡治定云々。被始作事之由。昌寛申之云々。

1 · 9 · 20条

45¹³、又因幡前司者先上洛云々。御入洛以前於京都有可致沙汰事等上之故也云々。

1 · 9 · 21条

46²、二品御入洛可爲今明之由。達叡聞之間。以度々追討賞。可有拜官之恩。然者可爲何官哉之由。有勅問云々。今日基清。朝光等爲御使先入洛。

1 · 11 · 4条

70、民部煮盛時。武藤二郎資頼等。奉仰遣使者於伊勢志摩兩國。又出納和泉據國守相副之云々。是平家沒官地

71、未被補地頭所々相交之由。依聞食及。爲巡檢之也云々。

2 · 1 · 17条

大理卿并廣元朝臣等飛脚參着。各被獻書狀。去月比。佐々木小太郎兵衛尉定重。於近江國彼庄。刃傷

日吉社宮仕法師等。仍山徒蜂起。所司捧奏狀參洛。可賜定重身之由申之。又可差進延暦寺所司等於

關東之由風聞。朝家大事。忽然出來之。其濫觴。近江國佐々木庄者。延暦寺千僧供領也。去年有水損之愁。乃

貢太爾之間。云定綱。父云土民。無所于欲沙汰送之。仍衆徒等去月下旬。差遣日吉社宮仕等。捧日

吉神鏡。亂入定綱之宅。听門戶。破城壁。譴責家中男女。頗及耻辱。于時定重不堪。一旦忿怒。令郎從等刃傷宮仕一兩人。此間誤破損神鏡云々。

6、梶原平三景時爲使節上洛。是延暦寺衆徒可申請定重黨類之由。及強訴之間。罪科無所遁者。早可被

行其科之旨。依被奏聞也。又所司可參向之由風聞之間。遮而如此云々。

6、天霽風靜。(中略)今日。後藤兵衛尉基清爲使節上洛。依定綱定重事。山門之訴更難休。殆申下可被行

定重於斬罪之由。飛脚連々到來之間。重及此儀。先度於言上給之趣者。已達叡聞。就之內々雖

被宥仰。衆徒更不靜謐云々。然者。若無左右及梶罪者。景時私令懇望于衆徒。佐々木庄已下定綱

知行所半分。限未來際。可奉附山門之趣。可問答之由。被仰遣云々。

45、大夫尉廣元飛脚自京都參着。大理被獻書狀。去月廿六日。山門衆徒爲訴申左衛門尉定綱。頂戴八王子。客

人。十禪師。祇園。北野等神輿。參閑院皇居之間。則有群議罪名。減死罪一等。可被處遠流云々。其

趣定被宣下歟之。趣定被宣下歟之。

72、被付奏書於高三位。卿善信草之。俊兼清書也。申刻。雜色成重帶之上洛。(高三位泰經宛源賴朝奏書略)

45¹⁶、大夫尉廣元去月廿日賀茂祭供奉。賜院御廄御馬。則具御廄舍人。金武。凡施眉目云々。其間記錄進之。又申云。爲上皇御願。近江國高嶋郡被安五丈毘沙門天像。近日可有供養之儀云々。善信聞此事。申云。彼像者。去養和之比。於仙洞仰佛師院尊法印被作始之。幕下仰曰。此事度々所有風聞也。自平相國在世之時奉造立。推量之所及。爲源氏調伏歟。頗不甘心云々。仍其趣。内々被仰遣廷尉許云々。(建久二年四月廿日丁酉賀茂祭記錄略)

10⁶
45¹⁷、大理姫君可下嫁左大將卿給上。其儀已在近々云々。仍姫君御裝束。

御臺所
御沙汰

女房五人。侍五人。裝束。并

長絹百疋。

幕下
御分

可被沙汰送之由。兼日有其定。被宛御家人等。女房裝束者。親能。廣元等於

京都可調進之由。

申領狀了

惟義。重弘。朝綱等又可進侍裝束云々。絹者所被宛善信。義澄。盛

長。知家。遠元。遠平已下也。而五輩分致沙汰。所殘分參期遲々。御氣色不快。召奉行人俊兼。盛時

等於御前。被仰其由。諸人恐怖之處。善信申秀句云。先立參着絹者。付早馬早參。未到絹者

練參之間遲引歟云々。于時御入興。彼輩事無沙汰而止了。此間面々絹進云々。仍令請取于安達新三郎。

明曉可持參京都之由云々。

〃 2 · 6 · 9 条

15⁴、安達新三郎自京都參着。大理御吉事。去月廿五日也。左幕下渡御彼一條室町御亭云々。〃 2 · 7 · 11 条成勝寺執行昌寛法橋爲使節上洛。是法住寺殿修造之間。差置前掃部頭親能。大夫判官廣元。昌寛。三人行

事也。而昌寛去比依召雖歸參。爲終其功。重以上洛云々。

〃 2 · 10 · 10 条

73、爲鶴岡神事。遣山城江次久家以下侍十三人。可レ傳神樂秘曲之由。所レ被成下御教書於好方之許也。(右近將

監多好方宛平盛時奉書略)

" 2 · 12 · 19 条

10⁷ 45¹⁸、親能。廣元等使者自京都參着。去十七日。法住寺殿有御移徙之儀。每事無爲云々。大理所レ被獻其記

也。其日出仕之人々。攝政殿。右大將。賴實。新大納言。忠良。(中略)頭中將。實明朝臣。頭大藏卿宗賴朝臣已

下也。自六條殿出幸。掃部頭安倍季弘朝臣候反閑。陰陽頭賀茂宗憲朝臣候新御所。又奉仕反閑。被

引黃牛二頭。殷富門院同入御。(中略)翌朝。前掃部頭親能。薄青織襪狩衣。大夫判官廣元。白燒斤染衣。平

御所堂上。親能以左中將親能朝臣賜御鉗。袋。廣元同給之。左少將忠行傳之云々。廣元載狀申云。鵠

毛御馬三疋。御移徙後朝引進之云々。

" 2 · 12 · 24 条

45¹⁹、大夫尉廣元爲使節上洛。是自去年窮冬之比。太上法皇漸御不豫。玉體令腫御云々。依此御事也。幕下

頻御祈禱。今度則付廷尉。被奉秘藏御劍鳩作。於石清水宮。又有神馬。此廷尉去々年上洛。去年又爲法

住寺殿修理行事在京。爲當職賀茂祭供奉。重事連綿。適去冬月迫歸參。重上洛雖爲不便事。依爲天下

大事差進之旨。直被仰之云々。

" 3 · 2 · 13 条

74 75、鶴岡別當法眼圓曉號。被上洛。爲園城寺三院入堂云々。幕下被遣丁寧餉物。剩爲長途兵士。被相

副雜色八人云々。

" 3 · 2 · 13 条

45²⁰、廣元朝臣使者自京都參着。去十三日入夜入洛云々。法皇御惱殆危急。仍御劍則奉送石清水之由申之。

" 3 · 2 · 22 条

45²¹、廷尉廣元書狀自京都參着。當職事既上辭狀訖。其案文謹獻上云々。此事太相叶御意云々。彼狀云。(中原廣

(元辭狀案文略)

73¹、江次久家爲相傳神樂秘曲等上洛。仍被遣奉書於左近將監好節之許。平民部蒸盛時奉行之。(左近將監多好

(節宛平盛時奉書略)

" 3 · 3 · 2 条

76²²、若公七歲。御母常。陸入道師。乳母事。今日。被仰野三刑部蒸成綱。法橋昌寬。大和守重弘等。而面々固辭之間。被仰長門。

江太景國一畢。仍來月潛奉相具。可上洛之由。被定云々。他人辭退者。御臺所御嫉妒甚之間。怖畏彼御氣色之故也云々。此景國者。鎮守府將軍利仁四世。修理少進景通等時。伊豫守源賴義朝臣攻貞任三代孫也。父景遠者。爲大學

頭大江通國猶子。改藤氏於大江云々。

" 3 · 4 · 11 条

76¹、77¹、78¹、79¹、80¹、81¹、82¹、77²、78²、79²、80²、81²、82²、若公令上洛給。是爲仁和寺隆曉法眼弟子爲入室也。長門江太景國。并江内能範。土屋彌

三郎。大野藤八。由井七郎等扈從。雜色國守。御廄舍人宗重等被差進之。自常陸平四郎由井宅進發給。去夜幕下者渡御于其所。奉御劍給云々。

" 3 · 5 · 19 条

74¹、鶴岡別當法眼自京都被下着。直參幕下被謁申。法皇崩御之後事粗語申。去四月二日。主上還御本殿

。三月十五日。被行解陣開關事。廿日加茂祭。依諒闇停止之云々。

" 3 · 6 · 18 条

81¹、由井七郎自京都參着。去十六日。若公渡御于彌勒寺法印隆曉仁和寺坊。一條殿能保被奉具之。於彼坊有御贈物。參河律師隆遍取之。

" 3 · 6 · 28 条

35²³、82²⁴、來月一條黃門依可被參熊野山。白布五十端可調獻之由。被仰遣佐々木中務蒸經高。此上被送龍

" 3 · 6 · 28 条

蹄二疋。今曉。雜色鶴次郎。御廄舍人仲太相具之上洛云々。

貢馬五疋上洛。御廄舍人家重相具之云々。

3 · 9 · 17 条

83、
奉爲舊院周閱御佛事。所被召聚之長絹五百疋。被進京都。佐々木四郎左衛門尉高綱可執進之由被仰遣。爲因幡前司沙汰。今日進發云々。

3 · 11 · 15 条

43³、
15⁵、文學上人以東大寺造營料國領。或稱弟子。或號檀那。分與俗人之由。依有其聞。事實者已非下興隆佛法之志。定招下貪婪人用之訛。且上人預將軍家御吹舉。令知行彼在所之處。及此義者。世上之嘲。關東可歸哉。殊被痛思食之旨。爲加諫諍。今日被遣下梶原刑部蒸朝景。并安達新三郎清恒於京都上云々。

4 · 2 · 3 条

73²、
鶴岳若宮陪從江右近將監久家。屬右近將監好方。爲傳神樂秘曲。忽企客路遠行。去比上洛。豫申入子細畢。而今日被遣御消息於好方。宮人曲申秘藏之條。雖可謂勿論。令傳久家者。奉授將軍之由。可思食准也云々。

4 · 6 · 25 条

43⁴、
梶原刑部蒸朝景自京都歸參。文學上人狀到着。以東大寺料所分與俗人由事。殊陳申云。當寺再興事。其志太甚深。而國民近日巧奸濫之間。依不拘惜於小僧成敗。以下親族寄之輩爲兵士。入部國領等一。若此事爲讒訴之基歟。猶入此讒之族者。永斷今生願望。後生墮無間地獄。無浮期之趣載之。凡以惡口爲事。頗不叶將軍御意云々。

4 · 7 · 18 条

73³、
多好節依召自京都參着。來月於鶴岡依可有御神樂也。又右近將監久家同歸參。是爲令相傳秘曲。

4 · 7 · 28 条

先日所_レ上洛_也。宮人曲。不_レ殘_二一事_。傳受之由申_レ之。加之好方載_レ狀。言_レ上其旨。非_二譜第之輩。雖_レ不傳_二此曲_。隨_レ嚴命_。悉以令_レ授之由云々。

85、伊豆國甘海苔被_レ進_二京都_。雜色吉野三郎爲_レ御使_。 〃 5・1・30条

22²、源藏人大夫賴兼使者自_レ京都_。參着。獻_二書狀_。大內守護之間。去月廿八日。於_レ仁壽殿前_。掲_二獲犯人_。推問之處。欲_レ燒_二大内_{云々}。此上不及_二子細_。則梶首之由載_レ之云々。度々顯_二勳功_。於_レ武勇_。頗不_レ耻_二父祖_。之旨。將軍家殊感給云々。

86、將軍家聊御不例。御齒勞云々。依_レ之雜色上洛_。被_レ尋_二良藥_{云々}。

〃 5・8・22条

11⁴、東大寺供養御布施用途。被_レ進_二京都_。仲業。行政等爲_レ奉行_。下_二送文於御使雜色時澤清常_{云々}。

〃 5・4・7条

87、齒御勞事。爲_レ被_レ尋_二療法於京都醫師_。態所_レ被_レ立_二飛脚_也云々。

〃 5・9・2条

88、太神宮并熱田社。神馬御劍等被_レ奉獻之_。爲_レ廣元朝臣奉行_。各立_二使者_{云々}。

〃 5・9・28条

89、永福寺内新造堂事。今年中依_レ可_レ被_レ遂_二供養_。爲_レ導師_。可_レ被_レ請_二申東大寺別當僧正_{之由云々}。仍右京進季時爲_レ其使節_。上洛_{云々}。

〃 5・10・13条

90、貢馬八疋。并砂金紫絹染絹綿等。御使雜色相具之令_二上洛_。昨夕門出云々。

〃 5・10・26条

11⁵、武藏相模兩國乃貢等。被_レ進_二京都_。行政。仲業。實景等奉_二行之_。御使雜色時澤。成里_{云々}。

〃 5・11・26条

91、相摸武藏兩國乃貢等。付雜色被進京都云々。

89¹、右京小進季時自京都下着。御堂供養導師已可レ有下向之由云々。

" 5 · 12 · 6 条

22³、源藏人大夫賴兼。宮内大輔重賴等。自京都參着云々。

" 5 · 12 · 20 条

31⁶、法橋昌寛爲使節上洛。是將軍家爲南都東大寺供養御結緣。依可レ有御京上。六波羅御亭可レ加修理之故也。

" 6 · 1 · 15 条

35⁵、去年爲御使所令上洛之雜色鶴二郎。吉野三郎歸參。相摸武藏兩國乃貢物等。去月十二日進上。帶彼返抄參上云々。

" 6 · 2 · 4 条

15⁶、雜色足立新三郎清經爲御使上洛。是近日依可レ有御上洛。海道驛家等雜事。渡船橋用意等。先爲令相觸之也。

" 6 · 2 · 8 条

93、今曉比企藤四郎右衛門尉能員。千葉平次兵衛尉常秀爲使節俄以上洛。是前備前守行家。大夫判官義顯殘黨等于今在存於海道邊。伺今度御上洛之次。欲遂會稽本意之由。巷說出來之間。依可レ爲路次障導。先於驛々尋聞子細。事若實者。廻秘計可レ擄取之旨。含將命云々。兩人共雖可レ爲供奉人數。守勇敢忽及此儀云々。

" 6 · 2 · 12 条

57¹、駿河國富士郡濟物綿千兩。被進京都。常清。時澤等爲御使云々。
相摸武藏兩國所濟糸綿等被進京都。新藤二俊長相具之云々。

" 6 · 12 · 7 条

95¹、駿河國富士郡濟物綿千兩。被進京都。常清。時澤等爲御使云々。

" 6 · 12 · 2 条

" 6 · 12 · 6 条

〔賴家將軍記〕

96、晴。自今月。每月可レ行中將家御當年星祭之由。被仰主計頭安倍資元朝臣。其趣載廣元朝臣奉書。以雜色所被遣京都也。

建久10・3・6条

97、姫君追日憔悴御。依レ之爲奉加療養。被召針博士丹波時長之處。頻固辭。敢不應レ仰。件時長。當世有名醫譽之間。重有沙汰。今日被差上專使。猶以令レ申レ障者。可奏達子細於仙洞之旨。被仰在京御家人等云々。

10・3・12条

98、安達源親長爲使節上洛。被誅景時之由。被申也。御教書云。平景時有用意事之由。依有其聞。加誅罰候畢。伴類多在京云々。仍可搜求之旨。所下知惟義。廣綱等候也者。廣元朝臣書之。

正治2・1・24条

99¹、親長自京都歸參。具下國人播磨國惣追捕使芝原太郎長保。是景時與黨也。佐々木左衛門尉廣綱相副郎從送進之。親長參御所申云。去二日入洛。同七日廣綱。基清相共。先追捕景時之五條坊門面宅。縛郎從就其白狀。於近江國富山庄。生虜長保云々。於長保者。所被遣義盛之宅也。〃2・2・20条
晴。被奉貢金五百兩。馬廿疋於京都。今日進發。佐々木五郎義清爲御使相副之。〃2・10・10条
67、晴。相模權守。并佐々木左衛門尉定綱等飛脚自京都參着。去月廿二日爲頭辨公定朝臣奉行。可追討近江

國住人柏原彌三郎之由被宣下。是近年於事背帝命之故也云々。

" 2 · 11 · 1 条

100¹、101¹、陰。小雨常降。今日。澁谷次郎高重。土肥先次郎惟光爲使節上洛。是爲追討柏原彌三郎也。各先到相摸國所領。自彼國所々可進發云々。

" 2 · 11 · 4 条

100¹、101¹、晴。先日上洛。澁谷次郎高重。土肥先次郎惟光等歸着。申云。高重等上洛以前。官軍發向彼柏原彌三郎住所近江國柏原庄之刻。三尾谷十郎ゝ襲一件居所後面山之間。賊徒逐電畢。今兩使雖伺其行方。依無所據。歸參云々。

" 2 · 12 · 27 条

10⁸、67²、10²、未冠。掃部入道。佐々木左衛門尉定綱。小山左衛門尉朝政。爲大番勤仕在京。等飛脚參着。申云。去月廿三日。天

皇朝觀行幸仙洞。二條殿。春宮。七條院。一宮同臨幸。爰越後國住人城四郎平長茂

城四郎助國四男引擧軍兵。圍

朝政三條東洞院宿廬。朝政供奉行幸留守程也。所殘留之郎從等禦戰之間。長茂引退。卽行幸還御以前推參仙洞。閑四門。申下可追討關東之宣旨。然而依無勅許。長茂逐電。有清水坂之由。風聞之間。朝政等雖馳向。不知行方云々。彼使者先到着大官令亭。次參御所。此間。諸人群參。鎌倉中騷動。依被加制止。入夜靜謐云々。

" 3 · 2 · 3 条

67³、103¹、佐々木左衛門尉定綱飛脚參着。申云。柏原彌三郎。去年爲三尾谷十郎被襲之刻。逃亡之後。不知行方

之處。廣納弟四郎信納。伺得件在所。今月九日誅戮之云々。

建仁 1 · 5 · 17 条

104¹、晴。文章生宣衡爲使節上洛。是被上左衛門督辭狀也。依之御位署可略之旨。被仰政所云々。

" 1 · 12 · 2 条

104¹、善進士自京都歸參。申云。十五日捧御辭表。無勅許。被返下云々。

12 · 28 条

78¹、江兵衛尉能範爲使節上洛。是賴全成子。可誅之由。被仰相摸權守。佐々木左衛門尉等故也。

" 3 · 6 · 24 条

〔實朝將軍記〕

105、武藏守朝雅爲京都警固上洛。西國有所領之輩。爲伴黨可令在京之旨。被廻御書云々。建仁 3 · 10 · 3 条

67⁴、佐々木左衛門尉定綱。中條右衛門尉家長爲使節上洛。是將軍御代始也。京畿御家人等。殊挿忠貞。不可

レ存レ貳之由相觸之。且可召進起請文之趣。所被レ仰遣武藏守朝雅并掃部頭入道寂忍等之許也。兩人

去九日出門云々。

" 3 · 10 · 19 条

107、晴。將軍家御慶賀之後。始奉神馬於石清水八幡宮給。和田兵衛尉常盛着布衣。爲御使。" 3 · 11 · 3 条

105¹、晴。武藏守朝雅飛脚到着。申云。去月日。雅樂助平維基子孫等起伊賀國。中宮長同度光子息等起伊勢國。各

叛逆云々。彼兩國守護人山内首藤刑部兼經俊相尋子細之處。無左右企合戰。經俊依無勢逃亡之間。凶徒等虜領二ヶ國。固鈴鹿關。八峯山等道路。仍無上洛之人云々。

" 元久 1 · 3 · 9 条

108、伊賀伊勢兩國平氏謀叛。事其後不申左右之間。頗非無御不審。仍今日被遣晝夜雜色等。隨武藏守朝雅下知。可發向之旨。重被仰京畿御家人之中云々。廣元朝臣奉行之。

" 1 · 3 · 29 条

105²、晴。武藏守朝雅飛脚到着。申云。去月廿三日出京。爰伊勢平氏等塞鈴鹿關所。索險阻之際。縱雖不遂

合戰。人馬依難通之。廻美濃國。同廿七日入伊勢國。凝計議。自今月十日。至同十二日合戰。先

襲進士三郎基度朝明郡富田之館。挑戰移討。誅基度。并舍弟松本三郎盛光。同四郎。同九郎等。次於安

濃郡。攻擊岡八郎貞重。及子息伴類。次到多氣郡。與庄田三郎佐房。同子息師房等相戰。彼輩遂以敗北。又生虜河田刑部大夫。凡狼狽雖靡兩國。蜂起不軼三日。件殘黨猶在伊賀國。重可追討之云々。

" 1 · 4 · 21 条

105³、晴。朝雅飛脚重到來。去月廿九日到伊勢國。平氏雅樂助三郎盛時并子姪等。構城墻於當國六ヶ山。數日雖

二相支。朝雅勵武勇之間。彼等防戰失利敗北。凡張本若菜五郎城墻構處所。所謂伊勢國日永。若松。南村。高角。關。小野等也。遂於關小野亡其命云々。度々合戰次第。軍士忠否等。分明注申之。山内首藤刑部兼經俊。同瀧口六郎等。始者怖平氏猛威。雖令逐電。後者行逢朝雅。相共勵征伐之由。同載之云々。

57²、將軍家以御馬二疋。河原毛駒。被奉伊勢内外兩宮。新藤俊長。和泉兼景家等相具之。今朝進發云々。

" 1 · 9 · 2 条

" 1 · 5 · 6 条

110¹、69¹、94¹、101²、坊門前大納言信清卿。息女。爲將軍家御臺所。依可令下向給上。爲御迎。人々上洛。所謂左馬權助。

結城七郎。千葉平次。兵衛尉。畠山六郎。筑後六郎。和田三郎。土肥先二郎。葛西十郎。佐原太郎。多々良四郎。

長井太郎。宇佐美三郎。佐々木小三郎。南條平次。安西四郎等也。

" 1 · 10 · 14 条

110¹、遠江。左馬助。去五日於京都卒去之由。飛脚到着。是遠州當時寵物牧御方腹愛子也。爲御臺所御迎。去月

上洛。去三日京着。自路次病惱。遂及大事。父母悲歎更無可比云々。

" 1 · 11 · 13 条

111、晴。辰魁。遠州禪室下向伊豆北條郡給。今日相州令奉執權事給云々。今日前大膳大夫屬入道。藤九郎右衛門尉等參會相州御亭。被經評議。被發使者於京都。是可誅右衛門權佐朝雅之由。依被仰在京御家人等也。

" 2 · ⑦ · 20 条

112、晴。去廿日進發東使。今日入夜入洛。卽相觸事由於在京健士云々。

" 2 · ⑦ · 25 条

46⁴、晴。右衛門權佐朝雅候仙洞。未退出之間。有圍碁會之處。小舍人童走來招金吾。告追討使事。金

98²、吾更不驚動。歸參本所。令目竿之後。自關東被差上誅罰專使。無據于遁迹。早可給身暇之旨奏訖。退出于六角東洞院宿廬之後。軍兵五條判官有範。後藤左衛門尉基清。源三左衛門尉親長。佐々木

左衛門尉廣綱。同彌太郎高重已下襲到。暫雖相戰。朝雅失度逃亡。遁松坂邊。金持六郎廣親。佐々木三

郎兵衛尉盛綱等追彼後之處。山内持壽丸後號六郎通基。刑部大夫經俊六男。射留右金吾云々。

" 2 · ⑦ · 26 条

113、晴。發遣京都之飛腳歸參于關東。金吾伏誅由申之。

" 2 · 8 · 2 条

114、內藤兵衛尉朝親自京都下着。持參新古今和歌集。是通具。有家。定家。家隆。雅經等朝臣奉勅定。於和

歌所。去三月十六日撰進之。同四月奏覽。未被行竟宴。又無披露之儀。而將軍家令好和語給之上。故右大將軍御詠被撰入之由就聞食。頗雖有御覽之志。態不及尋申。而朝親適屬定家朝臣嗜

當道。卽列此集作者讀人不知。之間。廻計略可書進之由。被仰含之處。依朝雅。重忠等事。都鄙不靜之

1 読人不知。

故于レ今遲引云々。

二九二条

89²
駿河前司季時爲京都守護上洛。

89³
依_二西國守護沙汰事_一。季時使者參着。仍今日於_一御所_二被_レ經_一其沙汰_二。廣元朝臣。善信。行光。盛時等參_一行_二

之。

115
藤内左衛門尉季康御臺所侍上洛

被獻龍蹄并旅調度等也。

115¹、晴。南風舉塵。晚鐘之程。藤内左衛門尉季康自京都歸參。去月日。上皇南山臨幸。新宮二ヶ日。本宮七日御幸。

逗留也。今月五日還御。而御奉幣之後。院入御々所。不經幾程。坊門殿宿所失火。御先達僧正之坊爲灰燼。黑煙又覆寶殿。上皇臨幸。以人勢打銷之間。無爲云々。

晴。尼御臺所爲果御宿願。御參熊野山。今朝郊社。令進發給。武藏守扈從。

同甘七日

一一二
• 10 • 10 条

114、將軍家依御夢想。被奉二十首御詠歌於住吉社。内藤右馬允知親。朝好士也。弟定家爲御使。以此次去建永元。

年御初學之後御歌撰「卅首」。爲合點。被遣定家朝臣也。

元朝也。與美作人朝親。名子晋削寺。是亂賊攻之。自京都歸參。所被遣于京極中將定家朝臣之御歌。加合點返進。又獻詠歌。

口傳一卷。是六義風脉事。內々依被尋仰也。

是明王院僧正公胤依可爲長講堂供養御導師。被遣上童等於裝

晴陰爲廣元朝臣奉行。發御使於京都。是明王院僧正公胤依レ可レ爲長講堂供養御導師。被遣上童等於裝

承元2・④・26条

一一
2
·
10
·
10
条

束也。

4・2・21条

89⁴、駿河前司季時使者自京都參着。申云。去月晦日未尅。高陽院殿馬場御所燒失云々。// 4・3・10条

119、去月所被遣明王院之御使歸參。申云。去二日。六條殿長講堂被遂供養。公胤爲御導師云々。// 4・3・10条

120、晴。伊賀守朝光爲使節上洛。依坊門院崩御事也。// 4・3・13条

120¹、伊賀守朝光自京都下着。上皇去十七日南山御幸。御精進屋七條殿云々。// 4・4・22条

121、山門騷動事。任被仰下之旨。相催京畿御家人。可警固園城寺之由。被仰駿河守季時。左衛門尉廣綱等足立八郎元春爲御使。// 4・5・29条

122、晴。今曉。内藤右馬允盛時爲御使上洛。是去月廿五日坊門中納言忠信卿。依遊放事。勅勘之由。風聞之故也。中將信能朝臣依同事。勅勘云々。// 1・3・23条

122¹、盛時自京都歸參。坊門黃門事已。勅許。去月八日除目。雖爲勅勘之身。被任左衛門督云々。又今月

五日申尅。非暴風。非地震。内裏瀧口本所屋顛倒。所置之箭皆打損。雜仕女一人在其内。聞搖動之聲奔出。僅全命。打損右手。依此事。貫首召陰陽家令卜。// 1・10・20条

123、小川法印忠快上洛。爲民部兼康俊奉行。被遣御馬井驛路雜掌等云々。// 1・11・2条

124、將軍家。神馬二疋進石清水井六條新八幡宮給。今曉。雜色等相具之。進發云々。// 2・9・16条

120²、晴。伊賀守朝光爲奉幣御使。進發熊野山。於彼山可越年云々。// 2・12・2条

125、小雨灑。（中略）又相州。大官令承仰。被發飛脚。遣御書於京都。兩人連署之上。所被載將軍家御判也。

是義盛雖令伏誅。餘黨之令紛散。未知其存亡。凡京畿之間。有骨肉。不日無羈索之儀者。難斷後昆狼狽也。御書之樣。（佐々木左衛門尉廣綱宛相州北條義時並大官令中原廣元連署狀略）

" 3 · 5 · 3 条

126、天晴。爲廣元朝臣奉行。被送御敎書於在京御家人之中。相州。大官令連署。又被載御判云々。是在京武士不可參向。於關東者令靜謐畢。早可守護院御所。又謀叛之輩廻西海之由有其聞。可致用意之由也。宗被仰佐々木左衛門尉廣綱云々。

" 3 · 5 · 9 条

127、天晴。關東飛脚等自京都歸參。初使節去八日戊尅入洛。後飛脚同十四日丑尅入洛。因茲京中浮說非一。自

128、院有御禁制。亦在京土壁雖申下可參向之由。有天氣。爲警固洛中被留之。佐々木左衛門尉廣綱得私飛脚。相伴五條大夫判官有範。（有範廣綱各自坊門殿給馬已擬進發之處。御敎書到着之間。留訖。）

" 3 · 5 · 22 条

129、新造御所御障子畫圖風情事。先々繪不相叶御意。被仰含職者。又有御尋旨等。仍今日被遣其事畫等於佐々木太郎左衛門尉廣綱之許。御使紀伊刑部次郎上洛云々。

" 3 · 8 · 6 条

130、天晴。（中略）今日大友左衛門尉能直爲使節上洛。依山門騷動事也。

" 3 · 8 · 22 条

131、左衛門大夫光員上洛。是爲御臺所御使。坊門内府今月可有御除髮之儀。又依可被修御逆善。所被進捧物也。

建保 3 · 2 · 2 条

103¹、121¹、爲此（坊門信清薨去）御訪。佐々木左近將監。足立八郎元春等上洛。

" 4 · 3 · 26 条

132、陰。美作左近大夫朝親爲使節上洛。

是依彼(殷富門院)崩御事也。

" 4 · 4 · 20 条

133、晴。山城大夫判官行村爲使節上洛。依

院御惱事也。

" 5 · 7 · 26 条

133¹、雨降。山城廷尉自京都歸參。

院御惱事。自七月十日。

連日御瘧病也。有智高僧面々雖勵修驗。無

御減之儀。

而同廿五日。前陰陽博士道昌於赤山修泰山府君祭。翌日御平愈。仍道昌被聽勅勑。

云々。是

去二月。於廣瀨殿。白虹出見之由。道昌奏聞之處。傍輩等依不伺之歟。非白虹之旨。依令言上。被

止所職云々。

" 5 · 8 · 25 条

46⁵、晴。後藤大夫判官基清飛脚自京都參着。申云。

去三日。白河邊有謀叛者。基清卽行向。追捕之處。郎從

等多以被疵。然而遂皇一件賊主。是伊勢平氏餘流掃部權助正重云々。依有驕奢擬申烏合者也。

" 6 · 1 · 12 条

116¹、晴。於政所。尼御臺所南山御參詣事。有其沙汰。

相州可被扈從云々。

" 6 · 1 · 15 条

116²、快霽。尼御臺所御上洛。

相州扈從。是爲熊野山御斗藪也。以此次。令伴故稻毛三郎重成入道孫女

年十六。綾小路給。依可被嫁于土御門侍從通行朝臣也。

同廿一日入洛
給云々。

" 6 · 2 · 4 条

134、晴。廣元朝臣奉仰。發使者於京都。

是將軍家依大將御所望事也。

" 6 · 10 条

135、霽。波多野彌次郎朝定爲使節上洛。

大將軍必可令任左給之由。被申之故也。

" 6 · 2 · 12 条

135¹、晴。波多野彌次郎朝定自京都歸着。

持參去六日除書。將軍家令兼任左近大將給。始御使入洛之時。

任故右大將軍之例。可被任右。仍右幕下擬被辭申之刻。朝定上洛之間。亦改先篇。有其沙汰。

御使往_二反于博陸御亭_一數箇度_{云々}。件聞書。安藝權守範高參進。被_レ置_二御前_一。_(聞書略)先召_二藤右衛門尉景盛於御前_一。賜_二聞書_一_(範高於御前)。是任_二出羽守_一之故也。景盛恐悅彰_二顏色_一。當職者。醍醐天皇御宇昌泰二年以來中絕。而至_二後冷泉院御時_一。永承五年九月日。平繁盛始任_レ之。其後亦無_二補任人_一之處。今被_レ興_レ絕之條。尤可_レ謂_二珍重_一歟。又去月十八日。源文章博士仲章朝臣侍讀昇殿事勅許。翌日十九日宣下。是雖_レ依

關東之御舉_一。爲_二希代朝恩_一歟。次召_二朝定於簾下_一。賜_二御劍_一。被_レ賞_二今度使節_一之忠_一故也。

6・3・16条

117³
116³
117⁴
116³
117⁴
116³

逗留_{云々}

6・5・4条

晴。相州依_レ召被_レ參_二御所_一。洛中事被_レ尋仰_二之處。相州被_レ申云。先去月八日梅宮祭之時。御鞠有_二拜見志_一之

由。內々申之間。臨_二幸_一件宮_一。右大將_{半備車。具隨身上薦。}被_レ刷_二顯官之威儀_一。是皆下官見物之故也_{云々}。同十四日初_二參于

御鞠庭_一。着_二布衣_一_(願文紗狩衣。白指貫)。伴_二愚息_一郎時村_一_(二藍布狩衣。白狩袴)。公卿候_二簀子_一。上皇上_二御簾_一。叡覽之_一。同十五

日。十六日以後。連々參入。當道頗得_二其骨_一之由。叡感及_二數度_一。院中出仕不知_二案内_一之旨。示合之間。尾張

中將清親_{坊門内}。每事扶持。生涯爭忘_二其芳志_一哉_{云々}。

6・5・5条

131¹
46⁶
130¹
46⁶
130¹
46⁶

北面衆_一。被_二防禦_一之。又住京健士光員。基清。能直。廣綱等。依_二勅定_一馳_二參宮門_一。相支之處。加藤

兵衛尉光資_一。藤新左衛門尉_{光員男。後號加}。切_二落八王子駕輿_一男腕_一之間。令_レ汚_二穢神輿_一。仍奉_二振葉_一歸山。是石清水別當法

印宗清執務鎮西管崎宮之間。天台末寺大山寺神人船頭長光安爲管崎宮留主相摸寺主行遍。并子息

左近將監光助等被殺害。仍衆徒蜂起。勒奏狀訴申之間。行遍。光助雖被禁獄。沒收管崎宮爲

山門領。并可被配流宗清法印之由訴申之。所奉勸神興也。

" 6 · 9 · 29 条

136、霽。秋田城介景盛爲使節上洛。依被賀申皇子降誕之事也。

" 6 · 10 · 27 条

136¹、晴。景盛自京都歸參。去十日。嵯峨栖霞寺釋迦阿彌陀兩堂燒失。本尊者奉取出。同十一日。八條左大臣良輔。

" 6 · 11 · 25 条

薨給
十四年三云々。

137、霽。鶴岳別當參籠宮寺。更不被退出。被致數ヶ祈請。都以無除髮之儀。人恠之。又以白河左衛門尉義典。爲奉幣于太神宮令進發。其外諸社被立使節之由。今日披露于御所中云々。

" 6 · 12 · 5 条

138、今曉。加藤判官次郎爲使節上洛。是依被申將軍家薨逝之由也。行程被定五箇日云々。辰刻。御臺所令落飭御。莊嚴房律師行勇爲御戒師。又武藏守親廣。左衛門大夫時廣。前駿河守季時。秋田城介景盛。隱岐守行村。大夫尉景廉以下御家人百餘輩不堪薨御之哀傷。遂出家也。戌刻。將軍家奉葬于勝長壽院之傍。去夜不知御首在所。五體不具。依可有其憚。以下昨日所給公氏之御鬢。用御頭。奉入棺云々。

" 7 · 1 · 28 条

137¹、故鶴岳別當闇梨使白河左衛門尉詣大神宮。遂奉幣還向之處。於三河國矢作宿。聞彼滅亡事自殺云々。

" 7 · 2 · 6 条

138¹ 加藤判官次郎自京都歸參。去二日入京。申彼薨御由之處。洛中驚遽。軍兵競起。自仙洞御禁制之間。靜謐云々。

139、信濃前司行光上洛。是六條宮。冷泉宮兩所之間。爲關東將軍可下御之由。禪定二位家令申給之使節也。宿老御家人又捧連署奏狀。望此事云々。

140、卯剋。伊賀太郎左衛門尉光季爲京都警固上洛。又同時爲右京兆御願。被修天下泰平御祈等。天地災變祭以下也。丑剋。將軍家政所燒亡。失火云々。壇内不殘一字者也。

141、武藏守親廣入道爲京都守護上洛。

139¹ 信濃前司行光使者參着。彼宮御下向事。今月一日達天聽。於仙洞有其沙汰。兩所中一所。必可下向給上。但非當時事之由。同四日被仰下。此上可歸參歟之由申之云々。

140¹ 光季飛脚參着。去廿日戌剋。頭中將青侍與大番武士等。起鬪亂。同廿二日入夜。彼勇士等擬襲夕郎亭之由。風聞之間。光季馳向。依加禁制靜謐。而自使廳被召張本之由申之。

140² 今曉。御使忠綱朝臣歸洛。申刻。伊賀太郎左衛門尉光季飛脚參着。去月晦日江州有謀叛輩之由。風聞之間。自今月一日至同四日。雖搜求無其實。但有疑貽。一兩輩生虜。是刑部僧正長賢一族之由申之。

" 7 · 3 · 11 条

117⁵ 相州爲二位家御使上洛。扈從侍千騎云々。是今度以忠綱朝臣被仰下條々事勅答并將軍御下向事等也。

" 7 · 3 · 15 条

" 7 · 2 · 9 条

" 7 · 2 · 13 条

" 7 · 2 · 14 条

" 7 · 2 · 29 条

" 7 · 2 · 29 条

" 7 · ② · 12 条

" 7 · ② · 28 条

139²、信乃前司行光。自京都歸參。是相州上洛之間。所下向也。依病癒兩三日逗留路次云々。

7 · 3 · 28 条

〔賴經將軍記〕

140³、齋。西魁。伊賀太郎左衛門尉光季使者自京都到着。申云。去十三日未刻。誅右馬權頭賴茂朝臣。虜子息下野守賴氏訖。折節若君御下向之間。故止飛脚。于今不啓子細云々。賴茂依背。叡慮。遣官軍於彼在昭陽舍賴茂守護大内
一間住此所合戰。賴茂并伴類右近將監藤近仲。右兵衛尉源貯。前刑部兼平賴國等。入籠仁壽殿自殺。放火壇內殿舍以下。仁壽殿觀音像。應神天皇御輿。及大嘗會御卽位藏人方往代御裝束靈物等。悉以爲灰燼。朔平門。神祇官。外記廳。陰陽寮。園韓神等免其災云々。

承久 1 · 7 · 25 条

142、後藤左衛門尉基綱爲使節上洛。一院自去十三日御惱之由。依有其告也。
102¹、今日小山左衛門尉朝政爲使節上洛。着袴無事所令啓也。
102²、小山左衛門尉自京都下着。

" 1 · 8 · 26 条
" 2 · 12 · 2 条
" 2 · 12 · 27 条

143、町野民部大夫康俊爲使節上洛。是去十日夜半。七條院三條御所。依放火燒失之由。有其聞之間。所驚申也。放火人等事。可糾彈之由。示遣親廣入道。光季等許云々。

" 3 · 2 · 26 条

波多野次郎朝定爲二品使。進發伊勢大神宮。

是今曉有二品夢想。面二丈許之鏡。浮由比浦浪。其中有

聲云。吾是大神宮也。天下於鑒留仁。世大仁濫天。兵於可徵。泰時吾於望者太平於得幸者。仍殊凝信心。朝定爲

祠官外孫之間。故以應使節。

3·3·22条

135³ 朝定自大神宮歸着。願書付于祭主神祇大副隆宗朝臣訖之由申之。

3·4·17条

135⁴ 午刻。大夫尉光季去十五日飛脚下着關東申云。此間院中被召聚官軍。仍前民部少輔親廣入道昨日應勅喚。光季依聞右幕下公經告申障之間。有下可蒙勅勘之形勢上云々。未刻。右大將家司主稅頭長衡去十五日京都飛脚下着。申云。昨日十四日。幕下并黃門實氏。仰二位法印尊長。被召籠弓場殿。十五日午刻遣官軍被誅伊賀廷尉。則勅按察使光親卿。被下右京兆追討宣旨於五畿七道之由云々。關東分宣旨御使。今日同到着云々。仍相尋之處。自葛西谷山里殿邊召出之。稱押松丸。秀康所取所持宣旨并大監物光行副狀。同東土交名註進狀等。於二品亭御所披閱。亦同時廷尉胤義。弟義村私書狀到着于駿河前司義村之許。是應勅定可誅右京兆。於勳功賞者可依請之由。被仰下之趣載之。義村不能返報。追返彼使者。持件書狀。行向右京兆之許云。義村不同心弟之叛逆。於御方可抽無忠之由云々。(下略)

3·5·19条

144 陰。小雨常灑。卯剋。武州進發京都。從軍十八騎也。所謂子息武藏太郎時氏。弟
145 陸奧六郎。有時。又北條五郎。尾藤左近將監。
146 平田彌三郎。納貢。
147 次郎三郎相從。關判官代。平三郎兵衛尉。(中略)内嶋三郎等也。京兆招
148 此輩。皆與兵員。其後。相州。前武州。駿河前司。同次郎以下進發訖。式部兼爲北陸大將軍。首途云々。

117⁷
144¹

相州。武州兩刺史移住六波羅館。如右京兆爪牙耳目。廻治國之要計。求武家之安全。凡今度合戰之間。雖多殘黨。疑刑可從輕之由。經和談。四面網解三面。是世之所讚也。佐々木中務入道經蓮者。候院中。廻合戰計。官兵敗走之後。在鷲尾之由。風聞之間。聞之。武州遣使者云。相構不可。捨命。申關東可厚免者。經蓮云。是勸自殺使也。盍耻之哉。取刀破身肉手足。未終命間。扶乘于輿。向六波羅。武州見其體。違示送之趣。自殺。背本意由稱之。于時經蓮聊見開兩眼。快咲不發詞。遂以卒去云々。又謀叛衆於所々生虜之中。清水寺住侶敬月法師。雖非指勇士。從于範茂卿。向宇治之間難宥。獻一首詠歌於武州。仍感懷之餘。減死罪。可處遠流之由。下知長沼五郎宗政云々。勅ナレバ身ヲハ捨テキ武士ノヤソ宇治河ノ瀬二ハタヽ子ト。今日。武州遣飛脚於關東。依申合戰屬無爲之由也。

144²
148¹

今日。遣使者於關東。是今度合戰之間。討官兵。又被疵。爲官兵被討取者。彼是有數多。關判官代。後藤左衛門尉。金持兵衛尉等尋究之。注其交名送武州。仍爲被行勳功賞所遣也。中太彌三郎爲飛脚云々。(六月十四日宇治合戰討敵人々以下交名略)

" 3 · 6 · 16 条

144³
142¹

去十六日。武州飛脚今夜丑刻到着鎌倉。合戰無爲。天下靜謐次第。披委細書狀。公私喜悅。無物取喰。即時有卿相雲客罪名以下洛中事之定。大官令禪門勘文治元年沙汰先規相計之。慤事書。進士判官代隆邦執筆註文云々。

" 3 · 6 · 23 条

154、相州。武州等任申請之旨。合戰張本公卿等被渡六波羅。按察使光親卿。

武田五郎信

光預之

中納言宗行卿。

小笠原次郎

時預之

尉朝長預之

之

入道二位兵衛督有雅卿。小笠原次郎

長滑預之

宰相中將範茂卿。式部丞朝

時預之

今日寅剋。

安東新左衛門尉光成帶昨日事書

出關

東上洛。於京都。可有沙汰條々。右京兆直示含光成云々。

154¹ 117⁸ 144¹ 151¹ 子刻。安東新左衛門尉光成着于六波羅。洛中城外謀叛之輩可被斷罪條々具申之。相州。武州披關

東事書。如駿河前司。毛利入道。有評議云々。

" 3 · 6 · 24 条

135⁴ 117¹⁰ 144⁶ 146¹ 146¹ 六條宮遷坐但馬國給。法橋昌明可奉守護之由。相州。武州加下知云々。

" 3 · 6 · 29 条

及黃昏。陸奧六郎有時以下上洛人々多以下着云々。

" 3 · 8 · 2 条

135⁴ 世上屬無爲。是符合二品禪尼夢想。仍奉寄所於二所太神宮。所謂内宮御斬。後院領伊勢國安樂村。井後村。外宮御分。同國領葉若西園兩村也。付祭主神祇大副隆宗朝臣。藤原朝臣。朝定帶彼寄附狀等。重爲報賽使節云々。此外。諸社同有奉寄。鶴岳八幡宮御分。武藏國矢古宇鄉司職。五十餘町。諷方宮御料。越前國宇津目保云々。叛逆卿相雲客并勇士所領等事。武州尋註分。凡三千餘箇所也。二品禪尼以件沒收地。隨勇敢勳功之淺深。面々省充之。右京兆雖執行。於自分者。無立針管領納。世以爲美談云々。

" 3 · 8 · 7 条

117¹⁰ 144⁶ 六波羅飛脚到着云。去月廿五日。今度合戰張本能登守秀康。河内判官秀澄隱居南都之由。依有其聞。爲相州之計。遣家人等。搜求之間。件兩人逃去訖。衆徒等蜂起。稱夜討人。圍相州使者合戰。其使者依無勢。悉以被殺戮。纔所殘之僮僕兩三輩。馳還六波羅。訴事由。仍相州。武州相談。翌日廿

六日午刻。相催在京并近國勇士數千騎。差向南都。衆徒聞之太周章。來合于木津河邊。先以使者。愁云。軍兵入南都者。不異平家燒失大伽藍之時歟。然者搜尋惡黨等。可虜獻者。就懇望之旨。成優憲之儀。歸洛畢。今月二日。自南都擣出秀康之後見。當時有沙汰。又三日夜半。殿下及右幕下亭燒亡。前殿下亭同時雖令放火打消。凡叛逆餘殃未盡云々。

155、肥田又太郎爲奧州御使上洛。犯土造作等事。陰陽道不一揆之間。爲被尋決于長官等也。

〃 3 · 10 · 12 条

貞應 2 · 1 · 26 条

117¹¹ 144⁷ 117¹² 150¹ 117⁸ 144⁸ 117¹² 150¹ 雨降。前奥州病癒已及獲麟之間。以駿河守爲使。被申此由於若君御方。就恩許。今日寅魁。令落飭。給。巳魁。若辰 分贊。遂以御卒去。御年六 日者脚氣之上。霍亂計會云々。自昨朝。相續被唱彌陀寶號。迄終焉之期

156、朝雨降。於二品御亭。如駿河前司有沙汰。暫可被閣御作事等之由被定。依彼(太上法皇後高倉院)崩御事也。伊賀三郎左衛門尉光資爲御訪使節。可令上洛云々。

〃 2 · 5 · 18 条

〃 2 · 5 · 19 条

157、雨降。前奥州病癒已及獲麟之間。以駿河守爲使。被申此由於若君御方。就恩許。今日寅魁。令落飭。給。巳魁。十二 日者脚氣之上。霍亂計會云々。自昨朝。相續被唱彌陀寶號。迄終焉之期更無緩。丹後律師爲善知識奉勸之。結外縛印。念佛數十反之後寂滅。誠是可謂順次往生歟云々。午魁。被遣飛脚於京都。又後室落飭。莊嚴房律師行勇爲戒師云々。

〃 3 · 6 · 13 条

十六日入洛之間。十七日丑魁出京云々。又相州(十九日)出京。并陸奥守義氏等同下着云々。

〃 3 · 6 · 26 条

寅刻。

掃部助時盛。

相州武藏太郎時氏。武州等上洛。

去廿七日

兩人共就世上巷說。雖稱可在鎌倉之由。

相

{

州武州被相談云。世不靜之時者。京畿人意尤以可疑。早可警衛洛中者。仍各首途。相州當時於

事不被背武州命云々。

3 · 6 · 29 条

158¹ 145² 六波羅使者到來。去十六日。掃部助入洛。同十七日。

武藏太郎京着之由申之。

3 · 7 · 27 条

158² 145³ 陰。前奧州後室禪尼。依二位家仰。下向伊豆國北條郡。可籠居彼所云々。有其科之故也。伊賀式

部薰光宗配流信濃國。舍弟第四郎左衛門尉朝行。同六郎右衛門尉光重等。爲相摸掃部助。武藏太郎預自

京都直可配流鎮西之旨。被仰遣。此兩人。扈從相公羽林上洛之後。未歸參云々。

3 · 8 · 29 条

103² 晴。御任官事。爲被申京都。可被進使者之由。有其沙汰。可仰佐々木四郎左衛門尉信綱云々。

嘉祿 2 · 1 · 8 条

103³ 晴。御任官并征夷大將軍宣下事等。以信綱。依可被申於京都。今日被調御書。助教師員。寅日不書

奏書之由雖申之。爲急事之間。被宥用云々。

" 2 · 1 · 10 条

103⁴ 晴。入夜陰。今朝。佐々木四郎左衛門尉信綱。爲使節令上洛云々。

" 2 · 1 · 11 条

103⁵ 佐々木四郎左衛門尉信綱自京都歸參。正月廿七日有將軍宣下。又任右近衛少將。令敍正五位下給。是下名除目之次也云々。其除書等持參之。

" 2 · 2 · 13 条

159 147¹ 晴。依大内燒亡事。御使等令上洛。將軍御使伊東左衛門尉。武州御使尾藤左近將監也云々。

" 3 · 5 · 10 条

159¹
147²、霽。伊東左衛門尉。尾藤左近將監等自京都令歸參云々。

145⁴、晴。西刻。六波羅修理亮被下著。是爲丈六堂供養結緣。欲參向之刻。聞二郎主事。殊揚鞭云々。

145⁵
147²、78²、晴。匠作歸洛給。又江兵衛尉能行爲使節上洛。依被(西園寺公經御臺所全子)御早世之事也。

106¹、晴。南都與多武峯合戰間事。及評定。以出羽前司家長爲御使。可被(申京都)云々。

安貞2・5・23条

142²、晴。新判官基綱自京都歸着。二月廿七日蒙使宣旨。三月九日申畏云々。雖爲譜第職。日來被超越

數輩訖。年齒四十九之今。適預此恩云々。今日爲往亡日之由。雖有諷諫人。於武家。不忌此日。其上曩祖秀鄉朝臣以來。還而稱用來之由。到着彼大倉家。卽今夜參御所并武州亭。賀申當職拜任事云々。

寛喜1・3・26条

160¹、161¹、162¹、163¹、武州以南條七郎次郎。横尾左近將監。美濃澤右近二郎。彌平太三郎等。被差遣京都。是於南條者授和琴。至其外三人者可傳神樂秘曲之由。所被仰右近將監多好方之許也。

1・9・9条

152¹、晴。辰魁。駿河次郎泰村相具妻室(武州御息女)上洛。是爲大番勤仕也。

1・9・10条

160¹、武州被遣御書於右近將監多好方。是授和琴秘曲於美濃澤右近二郎之由。申送之間。神妙之趣所被賀也。此曲事。先日可令相傳于南條七郎二郎之旨。被仰遣之處。依母所勞。歸參之間。可爲美濃澤

之由被仰訖。

1 · 12 · 17 条

164、天晴。將軍家令出由比濱給。是駿河守重時。爲京都守護。近日依可令上洛。御餞別之故也。相州。武州。

駿河守。各野矢。被參。有六十疋犬追物。(下略)

164¹、晴。卯刻。駿河守重時。朝臣爲候六波羅上洛。

145⁶、164²、晴。六波羅匠作下着給。去月廿六日依駿河守入洛也。

145⁵、164²、雨降。辰刻。大夫判官信綱爲使節上洛。三井寺衆徒分散事可有尋沙汰之故也。

103⁶、霽。駿河三郎光村爲使節上洛。依被賀中皇子(中宮將軍家綱經御胎所生)御誕生事也。

165¹、今日。新判官光村自京都歸參。依使節賞。去十四日蒙使宣旨云々。皇子降誕事被賀申御使也。

166、晴。武州以五十ヶ條式條。相副和字御書。被送遣于六波羅。駿河源左衛門尉、爲使者。

貞永 1 · 9 · 11 条

天福 1 · 6 · 12 条

167、霽。依禪定殿(近衛藤原基通)御事。修理亮泰綱爲使節上洛。

152²、駿河次郎泰村爲使節上洛。是藻壁門院御懷孕之間。聊御惱之由。依有其聞也。

168、伊賀右馬助(女院御事)爲使節上洛。而今日頓病之間。爲加療治逗留濱邊云々。

154²、伊賀右馬助。今日首途。安東左衛門尉光成爲武州御使。同以上洛。是又女院崩御事。殊愁歎之由。令言上

仙洞井北白河院給之故也。

" 1 · 9 · 29 条

令^レ申^二其趣^一計也。以上。次於^二衆徒^一者。且仰^一聖斷^二。且可^レ相待關東左右^一之處。忽動^二神輿^一。奉^レ驚^二天聽^一之條。理不盡之惡行。不可說之次第候。至^二張本^一者。早可^レ被^レ召^二出其身以下^一之趣。被^レ載^レ之云々。

// 2 · 7 · 29条

142³、亥刻地震。今日。六波羅飛脚[▲]弁大夫判官基綱使者參着。申云。去十四日。基綱向^二木津河之北^一。遣^レ使者於河之南^一座處。神木御之處。衆徒皆來臨之間。御成敗之趣。具問答。衆徒一々恭伏。仍同廿一日。奉^レ歸^二座神木於本社。

翌日廿二日。殿下御亭被^レ行^二三儀^一。同刷^二御參内^一云々。

嘉禎 2 · 2 · 28条

142⁴、170¹、以^下總前司源保茂。爲男山內守護。可^レ停^止甲乙人狼藉^一之旨。去年五月。雖^レ被^レ仰付^一。保茂聊有^二申子

細^一。于^レ今不^レ罷向^一。宮寺頻言上之間。可^レ任^二先日御意^一之由。今日重被^レ仰下^一云々。

〃 2 · 3 · 7条

164⁴、142⁴、南都事。寺社開^二門戶^一。神木歸坐。爲使節功^一之由。殊有^二其沙汰^一。被^レ遣^二御感御書於後藤大夫判官基綱^{當時}在京之許^{云々}。又南都住侶。有^二武藏得業隆圓者^一。奉^レ運^二其志於武家^一。仍六波羅駿河守^一。并使節基綱。內々有^下被^レ談^二于隆圓^一之旨間。對^二衆徒^一。輝^二關東威勢^一。潛又加^二諷詞^一。就^レ之蜂起忽靜謐訖。基綱依^レ令^レ注^二進其趣^一。今日同被^レ感仰遣^一。凡爲^レ世爲^レ寺。奉^二爲^一關東。第一奉公也。尤感恩食^{云々}。

〃 2 · 3 · 21条

142⁵、南都衆徒復蜂起之由。飛脚到來間。爲^レ相^二鎮^一之。佐渡守基綱奉^二上洛使節事^一。仍今日出門。明曉可^レ進發^{云々}。

〃 2 · 8 · 20条

142⁶、被^レ經^二評議^一。爲^レ鎮^二南都騷動^一。暫大和國置^二守護人^一。沒^レ收衆徒知行庄園。悉被^レ補^二地頭^一畢。又相^二催畿

内近國御家人等。塞南都道路。可止人々之出入之由。有議定。被撰遣印東八郎。佐原七郎以下殊勝勇敢壯力之輩。衆徒若猶成敵對之儀者。更不可有優怨之思。悉可令討亡云々。且各可欲致死之由。於東土者。直被仰舍。至京畿者。被仰其趣於六波羅。又南都領在所。悉不可被知食之處。武藏得業隆圓密々與其注文於佐渡守基綱。基綱就送進關東。被新補地頭云々。

// 2 · 10 · 5 条

170²、下總前司保茂日來參候。抽夙夜之功。而奉男山守護事。上洛之間。武州御主有餞別之儀。剩每事可加扶持之旨被仰。遣六波羅駿州之許云々。

// 2 · 10 · 29 条

142⁷、佐渡守基綱自京都參向。南都靜謐條々事申入之。此事内外計。偏依武藏得業隆圓忠之由申之。其趣載六波羅駿河守重時去十一日狀云々。

// 2 · 12 · 29 条

171¹、大夫判官定員上洛。

// 3 · 2 · 1 条

171²、於御所有御占。是大夫判官定員。去春之比上洛。何日可歸參哉之由云々。今月十八九日可參着之旨。晴賢。泰貞。資俊等一同申之。知輔十六七日之間云々。

// 3 · 5 · 19 条

171³、定員自京都歸參。去月廿二三四日間。日色事落中怪之。廿三日天霽日色赤。依有石清水行幸無其沙汰。翌日。天文道季尚。良光。天變之旨令奏聞之由。於御前申之云々。

// 3 · 5 · 19 条

171³、齋。大夫判官定員爲御使上洛。是大閣來月可有御物詣之間。依被進旅行御調度也。

// 3 · 9 · 15 条

171⁴、大。夫。判。官。定。員。自。二。京。都。一。歸。參。去。二。日。大。殿。准。后。太。政。入。道。爲。レ。參。天。王。寺。萬。燈。會。供。養。云。々。

" 3 · 10 · 25 条

171⁵、晴。兵。庫。頭。定。員。爲。使。節。上。洛。依。禪。閣。御。不。例。事。也。前。武。州。御。使。平。左。衛。門。尉。盛。時。云。々。

" 延。應。1 · 5 · 24 条

171⁶、齋。兵。庫。頭。自。二。京。都。一。下。着。禪。定。殿。下。御。不。例。本。復。去。十二。日。御。沐。浴。云。々。

" 1 · 6 · 19 条

158⁴、入。夜。六。波。羅。越。後。守。下。著。依。匠。作。逝。卒。也。

" 2 · 2 · 7 条

158⁵、雨。下。(中略)今。曉。六。波。羅。越。後。守。時。盛。歸。洛。依。匠。作。事。所。參。向。也。於。今。日。者。可。被。聽。關。東。祇。候。之。由。此。間。頻。雖。愁。申。無。恩。許。去。五。日。可。進。發。之。由。四。日。前。武。州。以。平。左。衛。門。尉。盛。綱。度。々。被。相。催。然。而。五。日。者。太。白。方。之。由。申。請。延。引。云。々。

" 2 · 7 · 9 条

164⁶、京都。使者。參。着。去。五。日。主。上。春。秋。十一。御。元。服。御。加。冠。攝。政。理。髮。左。府。能。冠。

内藏守顥氏
朝臣云々

又。去。年。十一。月。可。レ。相。

鎮。洛。中。群。盜。間。事。有。二。評。定。被。仰。相。州。々。就。被。申。之。公。家。被。仰。付。使。廳。等。云。々。彼。狀。等。到。來。(堀。河。中。納

言。藤。原。親。俊。右。大。辨。勘。解。由。小。路。經。光。竝。相。摸。守。北。條。重。時。宛。權。中。納。言。藤。原。親。俊。文。書。略)

仁。治。2 · 1 · 19 条

173、晴。海。老。名。左。衛。門。尉。忠。行。爲。御。使。上。洛。云。々。是。禪。定。殿。下。依。可。有。御。灌。頂。被。進。捧。物。等。之。故。也。

" 2 · 3 · 20 条

173¹、今。日。海。老。名。左。衛。門。尉。忠。行。自。二。京。都。一。歸。參。去。月。十。六。日。禪。定。殿。下。於。二。東。大。寺。御。灌。頂。無。爲。被。遂。之。云。々。

" 2 · 5 · 10 条

174、京都使者參着。去十日午刻。皇子降誕云々。爲此御加持。大納言僧都隆辨去年上洛。爲件勸賞。同廿日敍印。此御誕生。別爲將軍家御慶賀。有御外戚寄故也。仍御息災御祈用途事。可爲御沙汰云々。

寛元1・6・18条

174¹、大納言法印隆辨自京都歸參。去六月十日。爲皇子誕生御加持。加之。同廿一日祈今出河入道相國流病。忽令屬減氣。旁顯効驗之由申之云々。

1・10・21条

172¹、次云御元服無爲事。云新冠者御任官敍位事。可被申京都之由有議定。被整御消息等。被奉讓征夷大將軍於冠者殿之由云々。平新左衛門尉盛時應其準脚。已雖及黃昏。吉日之上。依爲御急事進發。行程被定六ヶ日云々。

〃 2・4・21条

172²、平新左衛門尉盛時自京都歸着。持參去月廿八日宣下狀除書等。冠者殿蒙征夷大將軍宣旨。任右近衛少將。令敍從五位上給云々。武州相具之。令參御所給。前大納言家有御對面。直被召置彼狀等。又故有祝着之儀。盛時被召出賜御劍。但馬前司定員傳之。入夜。於御所有和歌御會。令賞端午節給歟。(下略)

〃 2・5・5条

175、近江前司爲使節上洛。依今出河殿(西園寺藤原將軍家賴經曾祖父)御事也。

〃 2・9・5条

175¹、近江前司自京都歸參。

〃 2・10・2条

172、
平。新。左。衛。門。尉。盛。時。自。京。都。馳。下。所。レ。持。ノ。參。去。月。九。日。除。書。也。新。冠。任。右。近。衛。少。將。敍。從。上。五。位。又。令。蒙。

二將軍
宣旨
給云々。盛時爲此事御使。去月廿二日令進發訖。
寛元2-5-5条

近江前司爲使節上洛。依今出河殿西園寺藤原將軍家賴經曾祖父御事。

175³
近江前司自京都歸參。

176、天晴。今日。入道正五位下行武藏守平朝臣經時卒。

三箇日云々。 4・④・1条

177、天晴。入道大納言家御歸洛。今曉令一進發給。晚頭着御酒勾驛云々。供奉人(可延)候京都供奉人交名略相摸左近大夫將。

監時定(路次供奉者交名略) 11条 4・7・11

相摸右近大夫將監自京都歸參。是入道大納言家御歸洛之間。所被供奉也。此外人々同還向。去月廿七日

五更。廿八日分也。經祇園大路。着御于六波羅若松殿。今月一日。供奉人等進發。而能登前司光村殘留于御簾之砌。數寇不退出。落淚千行。是思廿餘年昵近御餘波之故歟。其後。光村談人々。相構今一度欲奉入鑑倉中云々。

178、天晴。辰刻小雨灑。〔中略〕申刻。被實_レ檢死骸之後。被進_レ飛脚於京都。遣御消息。一通於六波羅相州。一通奏聞。一通爲令_レ下_二知近國守護地頭等也。又事書一紙同所_レ被_二相副_一也。左親衛於_二御所休幕_一被_レ申_二沙汰之_一。其狀云。(相模守北條重時宛左近將監北條時賴文書略)

179、及々夕。六波羅飛脚參着。依合戰事也。自是所被遣之飛腳。去九日入洛之間。付進御教書於冷泉太政大臣

殿申執柄。

卽又及奏達云々。世上屬無爲事。殊被悅聞食之旨。所被仰下也。

" 1 · 6 · 14 条

164⁷、相州自六波羅參着出京。以故入道武州經時小町上舊宅御所北面若宮大路也。爲居所。是前武州禪室跡也。武州經時被

相傳之處。去寛元二年十二月燒亡。然而如元新造。於此第被取終之後。于今無其主云々。

" 1 · 7 · 17 条

180、今日辰一點。大曾禰左衛門尉長泰爲使節上洛云々。

" 1 · 8 · 8 条

181、去月四日。依爲大神宮祈年祭例日。相州被奉幣物。東條次郎大夫爲御使。參宮之處。彼御裳濯河水色如紅。經一日一夜歸本流。凡今度公家御幣物等。任例爲古部官人奉行奉裹之時。有如此恠異。及辨上卿等渡祭主之期。殊驚申。去承久三年有此奇特等云々。

建長2·3·20条

174²、鶴岡別當法印隆辨。

上洛。爲園城寺興隆并執行龍花會云々。

" 2 · 9 · 4 条

182、今日。相州被遣飛脚於京都。是室家懷孕着帶加持事。可被用若宮別當法印隆辨之處。住寺之間。依被招請也。秋田城介同遣使者云々。此事去五月之比。其氣分御之由。雖有女房之說。不然。來八月可爲必定之旨。法印被申之。果而如指掌云々。

" 2 · 12 · 5 条

158⁶、野本次郎行時名國司所望事。父時員任能登守之時。不付成功。直令拜除之上者。如彼例。可爲

臨時內給之由申之。爲清左衛門尉奉行。今日有沙汰。其父時員。屬越後入道勝圓。在京之時。付彼內舉。自然令任歟。被堅法之後者。不足爲例之間。輒回覃許容之旨被仰出。又臨時內給

事。於三分官等者。依事牴可被申請之。至名國司以上者。可被停止其競望之由云々。

2 · 12 · 9 条

174³、天晴。風靜。今日。相州室被着姪帶。鶴岡別當法印。隆辨。加持之。法印去九月以後住寺之處。依此請。

184、態所被遣之飛脚。相逢于萱津驛之間。競寸陰。今夕走着云々。又被始行御祈等。藥師護摩。如

185、意輪護摩。雜掌。奧州。北斗供。雜掌。已上三壇。法印一人兼修之云々。

186、伊勢前司行綱爲使節。上洛。依准后(將軍家賴嗣)御事也。自將軍家。龍蹄以下給餓物云々。

187、諫方三郎盛綱爲相州御使而上洛。是又准后(將軍家賴嗣)御訪事也。

188、和泉前司行方。武藤左衛門尉景賴。爲使節。上洛。是奧州。相州。當將軍被辭執權申。上皇第一三宮之間

可有御下向之由。依申請也。其狀相州自染筆。奧州被加判處也。他人不知之云々。

" 4 · 2 · 20 条

〔宗尊親王將軍記〕

187¹、辰刻。京都飛脚參着于關東。是先日上洛使節和泉前司行方。武藤左衛門尉景賴就奏聞。宮御下向事。自去一日於仙洞連々有其沙汰。殿下每度參給。但三歲宮准后腹。十三歲宮(大納言
二品腹)兩所之間。何御方可有

御下向哉事。依レ被尋仰下之。兩六波羅所馳申也。奧州。相州等會合。被經群議。十三歲宮可

有御下向之旨被申之。仍及同日申刻。飛脚歸洛。

藤次左衛門尉泰經爲御使上洛。行程七箇日云々。是宮御下向之間條々事。依レ被仰遣六波羅大夫將監長時朝臣

也。彼朝臣并可然在京人等可令供奉之由云々。

建長4・3・5条

187²、今日行方。景賴參着關東。自鏡御宿揚鞭之由申之。

4・3・24条

188²、天晴。城次郎賴景爲御使上洛。無爲御下着事。爲被奏聞也。

4・4・2条

189、雨降。卯刻。小野寺四郎左衛門尉通時爲使節上洛。依女院(宣陽門院)御事也。

4・6・21条

190、天晴。御不豫平愈事被申京都。三浦遠江六郎左衛門尉時連爲御使上洛云々。

4・9・2条

191、若宮別當僧正隆上洛。爲如意寺興隆也云々。

5・10・2条

192、陰。内藏權頭親家爲使節上洛。依女院(承明門院)御事也。

5・12・28条

193¹、晴。夕雨降。(中略)及晚。内藏權頭親家自京都歸參。

1・8・17条

194¹、天晴。入夜雷電霹靂及終夜。今曉。甲斐太郎時秀。大曾禰上總前司長泰等爲使節上洛。依山門菌城寺

正嘉1・7・12条

195¹、兩門礮執事也。遠江十郎左衛門尉賴連爲内々御使進發。如法揚鞭。定進於兩人歟。

1・10・13条

194¹、天晴。甲斐太郎。大曾禰上總介等自京都歸參。依山門菌城寺等事。去十月爲使節所令上洛也。

" 1・10・13条

195¹ 遠江十郎左衛門尉賴連自京都歸參。先日兩使以前雖令入洛。彼出京下向以後承御返事。仍參着遲引云々。

" 1 · 12 · 17 条

193² 天晴。當參人數之中。或可然之仁。或撰要樞之輩。始被結番廂衆。此事以仙洞之儀。被摸關東之條。頗可有其憚歟之由。被仰合于相州禪室。就下被答申之篇上。以內藏權頭親家。遠江十郎左衛門尉賴連等爲御使。内々被窺覬慮之處。有二勅許。亦侍之參昇可爲何樣哉之趣。被問申之。於其境至被嫌思食侍者。人數定不足歟之旨。被仰下之云々。緯已嚴重之間。以近衛少將以下等爲番頭。故染御震筆。令書御簡。御折紙所被用唐紙也。(下略)

" 1 · 12 · 24 条

194⁶ 天晴。若宮別當僧正隆辨。自京都歸參。是依園城寺三摩耶戒壇事。去季九月十四日上洛。今年正月四日就下令奏達之勅許。而山徒及強訴之間。同廿日被召返官符。同廿一日寺門衆徒僧正仙朝。法印淨有。忠尊以下僧綱三十餘輩。集會金堂。凝僉議。同廿三日退散云々。

正元 2 · 3 · 1 条

195 晴。爲和泉前司行方奉行。以來問昨西刻。院御惱事被行御占。今月廿六日七日御減之由勘申之。其後。薩摩七郎左衛門尉祐能爲御使節上洛。依院御惱也。

文應 1 · 6 · 26 条

193³ 晴。木工權頭親家爲御使上洛。猶被申御惱事之故也。

" 1 · 6 · 30 条

197 晴。入夜雷雨。今日三浦式部太郎左衛門尉光政爲使節上洛。御惱御減事依被賀申也。

" 1 · 7 · 4 条

198 196¹ 晴。依御惱事。信濃次郎左衛門尉行宗爲使節上洛。今日。薩摩七郎左衛門尉自京都歸參。

197¹ 197¹ 晴。式部太郎左衛門尉自京都歸參云々。 " 1 · 7 · 25 条

199¹ 190¹ 天晴。(中略)又壹岐前司基政。丹波守賴景爲在京上洛。

弘長 3 · 6 · 2 条

195³ 195³ 陰。依去十四日大風。諸國損亡百姓愁歎之間。以撫民之儀。將軍家御上洛延引之間。以遠江十郎左衛門尉。

弘長 3 · 8 · 26 条

195⁴ 終夜甚雨。戌刻雷鳴。(中略)今日。遠江十郎左衛門尉自京都歸參。

文永 2 · 1 · 6 条

185¹ 天晴陰。依山門園城寺騷動事。去夜六波羅使者持參經任朝臣奉書并注進狀。御使伊勢入道行願。

文永 3 · 9 · 12 条

書狀等可有披露。而今年雖評定始以前。爲急事之間。不及日次沙汰。有今日評定。但人々不着去年在京使節自

布衣。又無益酌。是非評定始之禮歟。近年無如れ此例云々。相州令出仕給。尾張入道見西。越後守實時。出羽入道々空。秋田城介泰盛。縛殿頭師連。太宰權少貳入道心蓮。伊賀入道々圓。對馬前司倫長。勘解由判官康有等候其座。佐藤民部次郎業連執筆事書等。議畢。泰盛。心蓮持參之。上覽之後。召使者於評議座。被下御返事。即時使令歸洛畢。

文永 3 · 3 · 6 条

193⁴ 天晴。今曉。木工權頭親家爲内々御使上洛。

文永 3 · 6 · 5 条

193⁵ 天晴。木工權頭親家自京都歸參。自仙洞内々有御諷詞等云々。中御所御事云々。

文永 3 · 6 · 5 条

186¹ 天晴。今曉。諏訪三郎左衛門入道爲飛脚上洛云々。

文永 3 · 6 · 19 条

〔備考〕右掲列挙事例の通番号中、右肩に小ポイント数字が付記されている事例(以下、之を乙事例と仮称する。)は、同一番号で其が付記されていない事例(以下、之を甲事例と仮称する。)と意味内容の上で直接的連繋を有するものである。而して斯様な事例(乙)は、上記の事例(甲)に比して一字降しで掲載されている。又、右掲列挙事例中に付記されている諸記号は、凡そ次下の通りである。即ち傍○印は、鎌倉方差遣者記載、傍○印は、「鎌倉方被差遣者」の具(固有名)〈但し此の中には、「飛脚」「使者」等の具固有名でない者も含まれている。〉記載、傍△印は、「鎌倉方被差遣者」中の、「雜色」なる語辞記載、傍△印は、「鎌倉方被差遣者」の被差遣事由乃至目途記載、傍△印は、「鎌倉方被差遣者」乃至他余の諸人士に就いての爲人・経歴・事績、或いは某事物に就いての事由・來歴記載、傍△印は、「鎌倉方被差遣者」の京洛方への行程記載、傍△印は、「京都」「上洛」「入洛」なる語辞記載、傍●印は、鎌倉方から京洛方への上洛使者・使節記載、傍▲印は、京洛方から鎌倉方への下向使者・使節記載、傍○印は、「鎌倉方被差遣者」の鎌倉方発遣、京洛方着到、京洛方進発、鎌倉方帰着、及び「鎌倉方被差遣者」に依る、京洛方から鎌倉方への使者・使節等の発遣、鎌倉方への參着等に就いての時刻・刻限記載、傍■印は、京洛方に於ける諸情報が「鎌倉方被差遣者」を始め、他余の様々な人士達に依つて鎌倉方へ齎らされることに就き、其のが然うした人士達の注進・報告・言説等に基づくとする伝達記載を各々表示するものである。尚、壽永三年二月七日の一谷合戦や、承久三年の五月廿九日より六月十五日迄の所謂承久事変に就いての記載条は、各々戦闘の経緯、戦(軍)略、情勢、状況等の精敍を其の趣意眼目とするやに観られること依り判じて、此等の箇条記事をば、先掲列挙事例中に敢えて加えていないことを予めお断りしておく。

表一

32 ⁶	32 ⁵	34	33	32 ⁴	32 ³	32 ²	32 ¹	32	5 ³²	5 ³¹	5 ³⁰	31	30	5 ²⁹	5 ²⁸	29	28	26 ³	27	5 ²⁷	5 ²⁶	26 ²	22 ¹	4 ⁷	5 ²⁵
北條殿	北條殿	黒法師丸	雜色濱四郎	北條殿	北條殿	北條殿	北條殿	豫州	豫州	伊豫守	義經	大和守重弘	一品房昌寬	築前介兼能	關東發遣御家人等	土佐房昌俊	領狀勇士等	伊豫守	義經	源藏人大夫賴兼	參河守範賴朝臣	伊豫大夫判官義經			
								○			○	○			○		○		○						
											○	○					○		○	●	○				
								○		○						○			○						
○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○																									
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	
○	●	○	●																						

42	38 ¹	32 ¹⁸	41	32 ¹⁷	32 ¹⁶	40	32 ¹⁵	32 ¹⁴	39	38	15 ¹	37	32 ¹³	32 ¹²	32 ¹¹	32 ¹⁰	35 ¹	32 ⁹	32 ⁸	32 ⁷	36	35	33 ¹	34 ¹	5 ³³
源刑部羨爲頼	小中太光家	北條殿	雜色	北條四郎主	北條殿	紀伊權守有經	北條殿	北條殿	山城介久兼	小中太光家	安達新三郎	專使	北條殿	北條殿	北條殿	北條殿	雜色鶴二郎	北條殿	北條殿	北條殿	生澤五郎	雜色鶴次郎	雜色濱四郎	黒法師丸	豫州
○		○		○			○	○	○	○													○		
○		○		○			○	○	○	○												○	○	○	
																									○
		○		○		○○							○	○	○	○	○	○	○	○	○				○
																		○○			○○				
	○	○	■																						
				○																			○	○	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	
.	12	12	12	12	12	
4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	12	12	12	12	12	
.	29	29	29	29	29		
20	15	13	13	13	13	7	7	1	27	26	26	24	23	16	12	27	19	13	9	7	7	16	16	16	
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	

	45 ³	50	49	45 ²	30 ²	30 ¹	48	10 ¹	1 ¹	47 ³	14 ¹	36 ¹	35 ³	35 ²	47 ²	47 ¹	43 ²	47	45 ¹	46	43 ¹	45	44	43	32 ¹⁹	42 ¹
因幡前司廣元	雜色里長	雜色正光	因幡前司廣元	大和守重弘	大和守重弘	雜色里久	美濃權守親能	合鹿大夫光生	比企藤内朝宗	御廄舍人宗重	生澤	雜色鶴次郎	雜色鶴次郎	朝宗	比企藤内朝宗	梶原刑部泰朝景	比企藤内	因幡前司廣元	兵衛尉基清	刑部兼朝景	因幡前司廣元	水尾谷藤七	梶原刑部泰朝景	北條殿	紀伊刑部泰爲賴	
	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○										○				○						○				
	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○										○ ○				○						○				
																						○				
	○							○							○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○					○ ○				
	○																					○ ○				
																						○ ○				
								○																		
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
8	7	6	6	6	5	4	3	2	1	12	11	11	10	10	9	8	7	6	6	6	6	6	6	5		
25	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条		

60	59	58	31 ²	6 ³	31 ¹	11 ¹	45 ⁶	10 ⁵	57	10 ⁴	10 ³	56	45 ⁵	55	10 ²	45 ⁴	52 ²	51 ³	52 ¹	51 ²	54	53	51 ¹	52	51	
飛脚	飛脚	飛脚	昌寛	梶原平	三景時	成勝寺執	因幡司廣元	式部大夫親能	鎌田新藤次	親能	親能	飛脚	廣元	佐々木次郎經高	親能	廣元	千葉介常胤	下河邊庄司行平	下河邊庄司	千葉介	雜色六人	雜色	千葉介常胤	下河邊庄司行平	下河邊庄司行平	
○	○			○○					○			○		○						○○○○○○○○						
○	○			○○					○			○		○						○○			○○	○○		
																				○○						
				○			○○		○○			○		○		○○○○○○○○										
				○		○○		●																		
								■																		
																				○○						
																				○○						
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
7	6	5	4	4	3	2	2	12	12	4	4	4	12	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
12	8	22	22	19	19	22	22	12	6	21	20	10	2	28	11	11	28	25	25	25	25	25	25	25	25	25
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

	70	69	46 ²	45 ¹³	31 ⁴	68	31 ³	11 ³	30 ⁴	30 ³	67	45 ¹²	45 ¹¹	45 ¹⁰	45 ⁹	66	65	64	63	45 ⁸	45 ⁷	62	15 ²	11 ²	61	46 ¹	後藤兵衛尉基清	
使者	朝光	基清	因幡前司	昌寛	飛脚	法橋昌寛	雜色時澤	大和前司重弘	佐々木左衛門尉定綱	廣元	廣元	廣元	廣元	廣元	廣元	飛脚	九郎藤次	飛脚	飛脚	飛脚	因幡前司廣元	因幡前司廣元	雜色	安達新三郎	時澤	飛脚		
○				○	○	○											○	○		○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○	○	○									○	○	○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○																	○	○								
			○														○	○	○	○	○							
												○																
													■															
														○														
														■														
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	
1	11	11	9	9	7	7	6	5	4	4	20	20	20	20	20	14	14	9	25	10	12	12	11	11	10	10	10	
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	
17	4	4	4	4	21	20	21	20	27	12	6	19	22	20	20	14	9	25	10	12	12	11	11	10	10	10	10	10
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

77 ¹	76 ¹	77	76	73 ¹	45 ²¹	45 ²⁰	75	74	45 ¹⁹	45 ¹⁸	10 ⁷	73	31 ⁵	15 ⁴	15 ³	45 ¹⁷	10 ⁶	45 ¹⁶	72	45 ¹⁵	6 ⁵	46 ³	6 ⁴	45 ⁴	71
長門江太景國	若公	若公	長門江太景國	江次久家	廷尉廣元	廣元朝臣	雜色八人	鶴岡別當法眼圓曉	大夫尉廣元	廣元	親能	山城江次久家	成勝寺執行昌寬法橋	安達新三郎	安達新三郎	廣元	親能	大夫尉廣元	大夫尉廣元	雜色成重	景時	後藤兵衛尉基清	梶原平三景時	廣元朝臣	出納和泉豫國守
○	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○	●	○		○	○	○	○	○	○	○		
					●	○																			
					○	○						○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		
					○	■												○					○		
																○									
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
5	5	4	4	3	3	3	2	2	2	12	12	12	12	10	10	11	11	12	12	12	12	12	12		
19	19	11	11	4	4	2	22	13	13	4	24	24	19	10	11	9	9	12	12	12	12	12	12		
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条		

124	123	122 ¹	122	121	120 ¹	120	119	89 ⁴	118	114 ²	114 ¹	117	115 ¹	115	89 ³	89 ²	114	113	98 ²	46 ⁴	112	111	110 ¹	101 ²	
雜色	小川法印忠快	盛時	内藤右馬允盛時	足立八郎元春	伊賀守朝光	伊賀守朝光	駿河前司季時	御使	御使	御使	御使	内藤右馬允知親	武藏守	藤内左衛門尉季康	藤内左衛門尉季康	季時	駿河前司季時	内藤兵衛尉朝親	後藤左衛門尉基清	源三左衛門尉親長	東使	使者	遠江左馬助	土肥先二郎	
○			○○		○			○		○○○○				○	○					○○○○○					
●○	○		●○	○	○			○		○○●○				○	○					○○○○○					
														○○						●○	○				
								○		○						○			○○						
								○							○					○					
								■								○									
															○										
"	"	"	"	"	"	建曆	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
2	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	4	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	
9	11	10	9	9	3	5	4	3	3	2	2	8	7	10	10	10	10	10	10	10	9	8	7	6	
16 条	2 条	20 条	12 条	23 条	29 条	22 条	13 条	10 条	21 条	13 条	5 条	10 条	10 条	22 条	26 条	26 条	26 条	26 条	26 条	26 条	26 条	25 条	20 条	14 条	

140 ⁴	135 ³	135 ²	143	102 ²	102 ¹	142	140 ³	伊賀太郎左衛門尉光季	後藤左衛門尉基綱	小山左衛門尉朝政	小山左衛門尉	町野民部大夫康俊	波多野次郎朝定	朝定	大夫尉光季	能直	
																秋田城介景盛	
																景盛	
																白河左衛門尉義典	
																加藤判官次郎	
																白河左衛門尉	
																加藤判官次郎	
																信濃前司行光	
																信濃前司行光	
																信濃前司行光	
																信濃前司行光	
																伊賀太郎左衛門尉光季	
																伊賀太郎左衛門尉光季	
																武藏守親廣入道	
																信濃前司行光	
																相州	
																光季	
																伊賀太郎左衛門尉光季	
																伊賀太郎左衛門尉光季	
																四八	
																四八	
																一〇	
																一〇	
																一八	
																一〇	
																二	
																一五	
																三	
																六六条	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	承久	
3	3	3	3	3	2	2	2	1	7	7	7	7	7	7	7	1	
.	6	
5	4	3	3	2	12	12	8	2	2	2	2	2	2	2	2	12	
.	5	
19	17	22	26	27	2	2	26	25	25	25	25	25	25	25	25	29	
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	

賴
經
將
軍
記

八〇例

三七名・四六名

												大納言僧都隆辨
												平新左衛門尉盛時
												近江前司
												平新左衛門尉盛時
一一八例	175 ¹	175	172 ²	172 ¹	174 ¹	174						
飛脚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	三四名・七名
鶴岡別當法印隆辨	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	四四
越後入道勝圓	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	五五
使者	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	四
飛腳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	三五
鶴岡別當法印隆辨	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	八
東條次郎大夫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	二
大曾禰左衛門尉長泰	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	二五
相州	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	四
飛腳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	八〇条
建長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	寛元
2	2	2	2	2	2	2	寶治	2	2	2	2	2
12	12	12	12	12	9	9	1	4	2	9	5	1
13 条	13 条	13 条	5	5	4	4	8	8	10	5	5	6
							7	6	7	11	5	10
							17	14	12	2	21	18
							条	条	条	条	条	条

〔備考〕事例通番号欄に於ける各事例通番号中、ダツシユ(右肩小数字)付の其れは、當該各事例の所見順次番号を表し、使者・使節等の着到後に於ける其等使者・使節等に依る注進・報告・言説に關わる記載を有する事例、○印下部の■印は、使者・使節等の着到後に於ける○印上部の●印は、時刻・刻限に關わる記載を有する事例、○印下部の■印は、

將軍記毎の合計数を記す欄に於ける上部記載の員數は、當該將軍記に各々初見される事例、下部記載の員數は、當該各將軍記に所見される事例を各々表示する。更に、實朝將軍記の事例一二六には、他余の諸事例の場合に相違して當該事例の通番号欄と諸事項・項目のA.D.両欄とに各々括弧が付されている。此れは、件の事例(一二六)と、後に後続する一二七、一二八の両事例とが各々に有する意味内容の上で、相互に能く整合し、然も一貫した適正な理会が得られ易い関係にあると判釈し得ることに拠るものである。又、最下欄の當該事例所載年・月・日条の○印付月は、閏月を示す。

尚、諸事項・項目のB.C.両欄に於いて、某人物の上洛予定等、上洛に関わる何等かの事迹が記されてはいるものの、其我が、必ずしも明確なものと言ひ得ない事例に就いては、B欄而已に○印が付記されている。

本誌第二十七号續承

- | | | | | | | |
|-----------|--------------|-------------|-------------|-----------|----------------|------------|
| 1537 | 1536 | 1535 | 1534 | 1533 | 1532 | 1531 |
| 霽。 ···· A | 終日雨降。 ···· C | 大雪降。 ···· D | 天霽。 ···· A' | 晴。 ···· A | 夜半以後雪下。 及午剗天晴。 | 雪降。 ···· D |
| " | " | " | " | " | " | " |
| 1 · | 1 · | 1 · | 1 · | 1 · | 1 · | 1 · |
| 12 · | 12 · | 12 · | 12 · | 12 · | 12 · | 12 · |
| 23 条 | 16 条 | 12 条 | 9 条 | 7 条 | 3 条 | 2 条 |

(未完)

1538	晴。	·	A
1539	天霽。	·	A'
1540	天霽。	·	A'
1541	天霽。	·	A'
1542	天霽。	·	A'
1543	雨雪降。	·	C
1544	霽。	·	A'
1545	小雨降。	·	C
1546	晴。入夜雨雪。	至半更屬霽。	A
1547	快霽。及夜半。	雨雪降。雷電數聲。	A
1548	晴。酉刻雷雨甚。	·	(F)
		·	(C)
		·	A'
		·	⑩
		·	(C)
		·	(A)
		·	⑩
		·	(F)
1550	天晴。	·	A
1549	天晴。	·	A
1551	晴。	·	A
1552	晴。	·	A
1553	天晴。月蝕不正現。	·	A

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4	3	3	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	12	12
15	17	15	15	5	16	5	4	27	19	17	11	3	2	29	24
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

1569	1568	1567	1566	1565	1564	1563	1562	1561	1560	1559	1558	1557	1556	1555	1554
風雨甚。	天晴。	霽。	霽。	晴。	天晴。	及深更。	天晴。	霽。	天晴。	晴。	小雨降。	晴。寅刻以後雨降。	天晴。	天晴。	天霽。
及晚雷電。	A	A'	A'	A	A	夜靜月明。	A	A'	A	A	C	A	A	A	A
.....	E	E
C	O
F

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10	10	9	8	8	8	8	7	6	6	5	5	4	4	4	4	4
9 条	8 条	30 条	22 条	16 条	15 条	8 条	20 条	19 条	12 条	24 条	23 条	26 条	25 条	24 条	23 条	23 条

1584、	天晴。入夜陰。彗星不現。 ···· A	⑧
1585、	天晴。戌剋。彗星現。歲星傍。 相去三尺餘所。芒氣指艮方。光芒五尺。軸星大如大白。 ···· A	
1586、	雨降。辰刻雷鳴。今夜彗星不現。 ···· C	
1587、	霽。 ···· A	
1588、	天晴。 ···· A	
1589、	未刻雷鳴。 ···· F	
1590、	午剋雨雹降。雷鳴數聲。 ···· C	
1591、	天晴。 ···· A	
1592、	天晴。 ···· A	
1593、	天晴。 ···· A	
1594、	天霽。 ···· A	
1595、	天晴。 ···· A	
1596、	天晴。子剋月蝕。皆虧正現。 ···· A	
1597、	天晴。 ···· A	
1598、	炎旱涉旬。祈雨法事。日來雖被仰付勝長壽院法印良信云々。 依無効驗。今日被仰付勝長壽院法印良信云々。 ···· A	
"	"	"
1 · 6 · 2 条	1 · 4 · 25 条	1 · 1 · 6 条

1599、	酉刻俄雨降。	無程屬晴。不及潤地。……	C	1 · 6 · 17 条
1600、	今日。依炎旱可行水天供之旨。	被仰鶴岡供僧等云々。	I	1 · 7 · 1 条
1601、	入夜雨少降。不能濕地。	……	C	1 · 7 · 8 条
1602、	雨下。水天供驗德歟之由及沙汰。但猶不能滂沱。	……	C	1 · 7 · 9 条
1603、	辰刻甚雨。已時屬晴。水天供之間。有數度甚雨。仍奉仕之僧各賜御劍一腰。又被奉御劍於鶴岳。可被送進神馬於一所三嶋等云々。	……	C A	1 · 7 · 13 条
1604、	天霽。(中略)入夜。於由比浦被行風伯祭。左馬頭義氏朝臣沙汰也。任寬喜之例。泰貞朝臣奉仕之。前隼人正光重爲御使。是今年天下旱魃之間。兼爲攘風難所被行也。	……	A · I	1 · 7 · 26 条
1605、	天霽。……	A		
1606、	天晴。……	A		
1607、	甚雨。……	C		
1608、	終日甚雨暴風。自一所御下向之間。路次煩也。隨兵以下供奉人皆不及取笠。濕衣裝云々。	……	C E	1 · 8 · 6 条
1609、	天晴。……	A		
1610、	天晴。……	A		
1611、	天晴。……	A		
"	"	"		
1 · 8 · 16 条	1 · 8 · 15 条	1 · 8 · 14 条	1 · 8 · 7 条	

1612	天晴。A
1613	天晴。A
1614	天晴。A
1615	天霽。風靜。A'
1616	天晴。A
1617	朝間雪降。已以後天晴。⑪
1618	天晴。A
1619	天晴。A
1620	未尅雷鳴。⑮
1621	申酉兩時雷鳴。⑯
1622	天晴。A
1623	天晴。A
1624	晴陰。戌尅。白赤氣三條出現。件變消。其東傍赤氣又出現。長七尺。彼變減。猶西傍赤氣一條出現四尺歟。觀者 恆之。A B
1625	天晴。A
1626	天晴。A
"	"	"
2	2	2
2	2	2
22	5	4
条	条	条

1627、細雨灑。……C

" 2 · 3 · 15 条

1628、天霽。丑魁巽風烈。自前濱邊人居失火起。限甘繩山麓。數百宇災。千葉介舊宅。秋田城介。伯耆前司等家在其中。云々。……A | (E) | " 2 · 3 · 17 条

1629、晴。……A | " 2 · 3 · 20 条

1630、霽。戌魁大地震。南風。由比浦大鳥居内拜殿被引潮流失。着岸船十餘艘破損。……A | " 2 · 4 · 3 条

1631、霽。……A | " 2 · 4 · 5 条

1632、雨降。……C

" 2 · 5 · 20 条

1633、炎旱涉旬之間。鶴岡別當僧都定親羨仰。於江嶋修祈雨法。又同被行千度御祓。定昌。泰貞。晴賢。國繼。資宣。廣資。泰房。晴平。泰宗等奉仕之。祿物各網一疋。宮內左衛門尉公景。近江大夫爲御使。云々。……I

" 2 · 6 · 9 条

1634、已魁以後甘雨。及酉魁天晴。旣數日炎旱也。昨日聊陰雲。雨灑始云々。入夜。於御所被行屬星祭。晴賢朝臣奉仕之。將軍家雖可有出御于其庭。依爲極熱折節。令內藏權頭資親渡御撫物給云々。……(C)

(A) | I B G H

" 2 · 6 · 12 条

1635、今夕天迎霽。被上階間御簾。將軍家令明月御。前右馬權頭。相摸三郎入道。伊賀式部大夫入道。佐渡大夫判官等參上。有當座和歌御會。女房被進懷紙。云々。……(A)

" 2 · 8 · 15 条

1636、雨降。……C

" 2 · 10 · 11 条

1652	1651	1650	1649	1648	1647	1646	1645	1644	1643	1642	1641	1640	1639	1638	1637
天霽。	天霽。	霽。	天霽。	霽。	晴。	天霽。	天陰。	日中以後雨降。	天晴。	天霽。	天晴。	天晴。	天晴。	風靜。	天晴。
A'	A'	A'	A'	A'	A	A'	A	A'	A'	A'	A'	A	A	A'	A

16

©

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	寬元	〃	〃	〃	〃
1 •	1 •	1 •	1 •	1 •	1 •	1 •	1 •	1 •	1 •	1 •	1 •	1 •	2 •	2 •	2 •	2 •
3 •	3 •	2 •	2 •	2 •	2 •	2 •	1 •	1 •	1 •	1 •	1 •	1 •	12 •	11 •	11 •	11 •
15 條	2 條	29 條	27 條	23 條	15 條	2 條	19 條	10 條	9 條	5 條	1 條	1 條	21 條	21 條	17 條	4 條

1668、 天晴。	1667、 天霽。	1666、 霽。	1665、 天霽。	1664、 天晴。	1663、 霽。	1662、 天霽。	1661、 天霽。	1660、 天霽。	1659、 未刻小雨雷電。	1658、 天霽。	1657、 天霽。	1656、 天霽。	1655、 陰。酉時自二所還御。	1654、 霽。	1653、 晴。
--------------	--------------	-------------	--------------	--------------	-------------	--------------	--------------	--------------	------------------	--------------	--------------	--------------	---------------------	-------------	-------------

A

A'

A'

A'

A'

A'

A'

A'

A'

A

| E

| (C)

| (F)

御往還之間不降雨。

入夜甚雨。

B

| (C)

	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	1 .	
12 .	12 .	11 .	10 .	10 .	9 .	9 .	8 .	7 .	6 .	6 .	5 .	15 .	28 .	3 .	3 .	
10 条	2 条	2 条	7 条	1 条	19 条	5 条	24 条	16 条	16 条	15 条	23 条	27 条	23 条	19 条	1 .	

1669、	天霽。 ···· A	"	1 · 12 · 25 条
1670、	天霽。 ···· A	"	2 · 1 · 1 条
1671、	天霽。 ···· A	"	2 · 1 · 3 条
1672、	天霽。 ···· A	"	2 · 1 · 29 条
1673、	天晴。自朝至戌刻。更無一雲。臨月蝕之期。自未甲方。片雲漸聳。忽覆普天。細雨頻降。復未以後。朗月早現。 ···· (A) G C	"	2 · 1 · 16 条
1674、	甚雨暴風。令參伊豆山給。降雨之間。供奉人皆舐鼻。 ···· C E	"	2 · 1 · 24 条
1675、	雨降。夕休止。 ···· (C)	"	2 · 1 · 25 条
1676、	霽。 ···· A	"	2 · 2 · 3 条
1677、	天晴。戌刻雷鳴。 ···· A	"	2 · 2 · 15 条
1678、	天霽。 ···· A	"	2 · 4 · 10 条
1679、	天霽。 ···· A	"	2 · 4 · 21 条
1680、	天晴。 ···· A	"	2 · 4 · 26 条
1681、	炎旱之間祈雨事。被仰鶴岳供僧等。出羽前司奉行之。信濃民部大夫入道奉行。自政所供米十石下行。又於御所。始行七ヶ日不斷不動御念誦。衆僧廿口。供米各一石云々。政所沙汰也。又於御所。始行七ヶ日不斷不動御念誦。衆僧廿口。供米各一石云々。政所沙汰也。 ···· I	"	2 · 6 · 2 条

1682、申刻。雷鳴雨降。日來依炎旱。當被祈雨之法之時上。雖有此雨。猶不足潤國土云々。
 1683、雨降。可謂甘雨歟。御祈僧徒捧卷數付師員朝臣云々。
 1684、終日雨降。丑冠大洪水。道路悉爲水底。近年無比類云々。
 I
 2 · 6 · 5 条

賴嗣將軍記

1685、炎旱依涉旬。被修十壇水天供。權僧正良信。良勝。法印賢長。兼快。賴兼。定親。隆辨。僧都良全。定清。守海。
 1686、申剋。雷鳴甘雨下。猶不足之間。水天供延行云々。
 1687、雨降。水天供延行云々。
 1688、天霽。
 1689、天晴。
 1690、天霽。
 1691、天晴。
 1692、晴。
 I
 C
 C
 C
 2 · 6 · 9 条
 2 · 11 · 3 条
 2 · 6 · 5 条

1693	晴。 ··· A	1694	天晴。 ··· A	1695	終日雨降。丑射大洪水。道路悉爲水底。近年無比類云々。 ···
1696	天晴。今曉熒惑入犯太微宮中之由。司天等申之。 ··· A	1697	天晴。今曉歲星入大微宮中之由。司天申之。 ··· A	1698	天晴。 ··· A
1699	天晴。 ··· A	1700	天晴。風靜。 ··· A E	1701	天晴。子刻月犯歲星之由。司天等驚申。 ··· A
1702	天晴。 ··· A	1703	天晴。 ··· A	1704	天晴。 ··· A
1705	天晴。今曉歲星入犯太微右執法上將星。相去一寸計云々。 ··· A	1706	天晴。風烈。及深更雷鳴。 ··· A E (F)	1707	天晴。 ··· A
1708	陰。戊刻雷鳴兩聲。 ··· B (F)				
					C

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
11	1	1	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

1709、	天霽。	……	A
1710、	天霽。	……	A'
1711、	天晴。	巳剋雷鳴。	…… A (F)
1712、	天晴。	丑刻。	客星出現于天帝垣翼斗度 <small>云々。</small>
1713、	天霽。	寅剋。	客星猶牛宿南出現。卯刻。前陰陽大允晴茂朝臣進「勘文」。其後。武州以下人々被參御所。被驚
			<small>申天變事之由也。大殿於廣御出居。有御對面。</small>
1714、	天陰。	客星不現 <small>云々。</small>	…… A
1715、	天晴。	客星見「牽牛度」。行度二夜三丈計也 <small>云々。</small> 今日有「天變御祈沙汰」。天地災變祭。 <small>泰貞。</small> 三萬六千神祭。 <small>晴寶。</small> 屬	
			<small>星祭晴茂。等也。</small>
1716、	天晴。	…… A	
1717、	天晴。	…… A	
1718、	天晴。	…… A	
1719、	天晴。	…… A	
1720、	天晴。	…… A	
1721、	天晴。	…… A	
1722、	天晴。	…… A	
〃	〃	〃	〃
3 · 2 · 20 条	3 · 2 · 19 条	3 · 2 · 10 条	3 · 2 · 9 条
"	"	"	"
3 · 1 · 27 条	3 · 1 · 28 条	3 · 1 · 29 条	3 · 1 · 29 条
"	"	"	"
3 · 1 · 20 条	3 · 1 · 18 条	3 · 1 · 18 条	3 · 1 · 18 条

1738	1737	1736	1735	1734	1733	1732	1731	1730	1729	1728	1727	1726	1725	1724	1723	
天晴。	天霽。	天霽。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。京都使者參着。今月一日二日兩日曉天。彗星出現。晴繼朝臣最前申之云々。	天晴。……A	天晴。寅刻。彗星見室壁之間。長一尺云々。連日客星彗星無出現之例云々。……A	天晴。……A	天晴。……A	天晴。……A	天晴。……A	天晴。……A
……A	……A'	……A'	A	A	A	A	A	……A	……A	……A	……A	……A	……A	……A	……A	
3 5 26 条	3 5 23 条	3 5 22 条	3 4 21 条	3 4 6 条	3 3 19 条	3 3 16 条	3 3 14 条	3 3 11 条	3 3 8 条	3 3 6 条	3 3 1 条	3 2 25 条	3 2 24 条	3 2 22 条	3 2 21 条	

1754	1753	1752	1751	1750	1749	1748	1747	1746	1745	1744	1743	1742	1741	1740	1739
天晴。	天晴。	天霽。	天晴。	天顏快霽。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天霽。	天晴。	天晴。	天晴。	晴。
.....
A	A	A'	A	A	A	A	A	A	A	日蝕現。	A	A	A

1755	天晴。	……A												
1756	天晴。	……A												
1757	天晴。	……A												
1758	天晴。	戌刻熒惑星犯	二	天關	一	云々。	……A							
1759	天晴。	……A												
1760	天晴。	……A												
1761	天晴。	……A												
1762	天晴。	寅剋。	辰星犯	二	垣星	一	相去 二寸。	入夜。	子刻。	月犯	一	軒轅大星	一	……A
1763	天晴。	……A												
1764	天晴。	……A												
1765	天晴。	……A												
1766	甚雨。	爲將軍家御祈。	於	御所	被修	屬星祭	一	晴賢奉仕之。	甚雨之間。	於	唐笠下	勤行之	云々。	治部權少
1767	雨下。	辰以後天晴。	……C											
輔爲	御使。	……C												
1768	天晴。	……A												
1769	天晴。	……A												
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9
13	13	12	12	11	11	10	10	9	9	8	8	8	8	8
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

1785	1784	1783	1782	1781	1780	1779	1778	1777	1776	1775	1774	1773	1772	1771	1770
天晴。	天晴。	天晴。	天霽。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。							
A	A	A	A'	A	A	A	A	A	A	A	丑刻雷鳴。	A	A	A	A

| (F)

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	12	12	11	10	10	10	10
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
16	15	13	4	19	10	6	4	1	25	24	5	30	19	16	15	15
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

1801	1800	1799	1798	1797	1796	1795	1794	1793	1792	1791	1790	1789	1788	1787	1786
天晴。	天晴。	天晴。	天霽。	天晴。	天晴。	天晴。 戌刻。 月犯 大奎。	雨降。	雨下。	雨降。	天晴。 (中略) 今夜戌刻大白犯 熒惑星	甚雨暴風。 入道大納言家還御。 自走湯山直御下向也。 依風雨煩。 及曉更 云々。	陰。未尅雷鳴。	天晴。	天晴。	天晴。
A	A	A	A	A	A	A	C	C	C	A	B	A	A	A	A
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
5	5	5	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	2	2	2
14	14	7	④	1	19	5	27	26	25	24	24	29	28	22	17
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

| (F)

| C

| E

1802、	天晴。	月蝕不現。剩圓滿明。但夜半以後陰雲云々。	……A
1804、	天晴。(中略)子時以後雨降。	……A	(C)
1803、	天晴。	……A	
1805、	天晴。	……A	
1806、	天晴。終日暴風。	……A	
1807、	天晴。	……A	
1808、	天晴。	……A	
1809、	天晴。	……A	
1810、	天霽。	……A	
1811、	天晴。	……A	
1812、	天晴。寅刻。月犯「軒轅女御星」。	……A	
1813、	天晴。寅刻。月犯「太白」。	……A	
1814、	天晴。今曉。太白犯「微執法皇星」。	……A	
1815、	天晴。寅刻。太白犯「太執法皇星」。相去九寸。	……A	
1816、	天晴。	……A	
1817、	天陰。入夜雷鳴。	……B	(F)

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·	4 ·
10 ·	9 ·	9 ·	9 ·	9 ·	8 ·	7 ·	7 ·	7 ·	7 ·	6 ·	5 ·	5 ·	5 ·	5 ·	5 ·
6 条	27 条	16 条	9 条	9 条	26 条	25 条	25 条	25 条	25 条	26 条	25 条	25 条	25 条	22 条	16 条

1833	1832	1831	1829	1830	1828	1827	1826	1825	1824	1823	1822	1821	1819	1820	1818		
陰。 ····· B	天晴。 ····· A	天晴。 ····· A	自亥一刻至寅四點大風。佛閣人家多以顛倒破損云々。 子尅大風猶不休。樹木皆吹拔云々。 ····· (E)	天晴。 風靜。 ····· A	天晴。 ····· A	天晴。 ····· A	天晴。 ····· A	辰刻小雨灑。 ····· A	天陰。 ····· B	天晴。 風靜。 ····· A	晚景雷鳴。 及數返。 ····· (F)	天霽。 ····· A	天晴。 今曉。 燥惑犯房的星。 同太白犯捷闕星云々。	天晴。 風靜。 ····· A	天晴。 ····· A	天晴。 ····· A	
(E)					E			(C)		E	(F)	E		E			

1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	
11	11	11	11	9	9	6	6	6	6	6	6	6	6	6	11	11	
26	26	26	26	16	16	15	15	12	12	8	8	7	7	4	9	9	
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	

1849	1848	1847	1846	1845	1844	1843	1842	1841	1840	1839	1838	1837	1836	1835	1834
天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天霽。	天霽。	雷鳴。	天晴。								
風靜。	·	·	·	A'	A'	F	·	·	·	·	·	·	·	·	·
·	A	A	A	A	A	·	A	A	A	A	A	A	A	A	A
·	A	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
E									E						

n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
12	12	5	3	3	1	1	1	1	1	⑫	9	8	3	1	1	1
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
13	3	25	26	25	28	27	16	12	10	26	15	20	3	1	1	1
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

1866、	天晴。	A
1867、	天晴。	A
1868、	天晴。	A
1869、	雨。	C
1870、	甚雨。	自廿一日未止。今夜子刻洪水。	村里家。耕所苗。悉以流失云々。
1871、	天霽。	A
1872、	天陰。	B
1873、	天晴。	A
1874、	天晴。	風靜也。 A E
1875、	天晴。(中略)今夕酉刻。南風惡。由比濱之民居燒亡。	延御所之南。到隣人家。則南面棟門之災。雖令至	營中。希有而遺餘災云々。..... A (E) C
1876、	天霽。	A
1877、	天霽。	A
1878、	天晴。	A
1879、	小雨。	C
1880、	小雨降。冷氣尤甚。有冰如冬天云々。	C H
〃	〃	〃	〃
3 · 6 · 26 条	3 · 6 · 22 条	3 · 6 · 19 条	3 · 6 · 5 条
3 · 3 · 15 条	3 · 3 · 13 条	3 · 4 · 22 条	3 · 4 · 10 条
23 条	23 条	14 条	15 条
1 条	3 条	5 条	3 条
15 条	27 条	29 条	29 条

1881	半晴半陰。寒氣猶未止。	· · A	3 · 7 · 4 条
1882	天晴。風靜。	· · A E	" 3 · 7 · 8 条
1883	天陰。雪降。	· · B D	" 3 · 7 · 18 条
1884	天晴。夕雨下。	· · A	" 3 · 7 · 26 条
1885	雨降。凡此間風雨涉日。攘風災為令有西收豐稔。祭風伯可奉仕之由。被仰衡陰陽之道云々。諷方兵衛入道蓮佛為奉行云々。	· · C E	" 3 · 7 · 30 条
1886	天晴。南風惡。今夕於由比浦被行風伯之祭。國繼為親等奉仕之。為伊豆太郎左衛門尉實保御使云々。	"	"
	· · A E		
1887	天晴。風甚。但入夜。	· · A E	" 3 · 8 · 1 条
1888	天霽。風少。	· · A' E	" 3 · 8 · 2 条
1889	天陰。風吹。	· · B E	" 3 · 8 · 3 条
1890	去夜丑刻雨降。巳刻晴。南風吹。	· · C A E	" 3 · 8 · 15 条
1891	天晴。	· · A	" 3 · 8 · 16 条
1892	天晴。	· · A	" 3 · 8 · 21 条
1893	天晴。戌剋天變出現。火耀芒悉見。人怪之。	· · A	" 3 · 8 · 24 条
1894	天晴。	· · A	" 3 · 9 · 16 条
"	"	"	"
3 · 10 · 7 条	3 · 9 · 16 条	3 · 8 · 24 条	3 · 7 · 4 条

1895、	天顏快晴。 ···· A
1896、	天晴。北風嚴。寒氣殊甚。 ···· A
1897、	丑刻。雷鳴一聲。 ···· (F)
1898、	天晴。寅魁。太白犯填星。 ···· A
1899、	天霽。 ···· A'
1900、	雨降。 ···· C
1901、	天晴。 ···· A
1902、	雹降。於地積之事三寸。 ···· J
1903、	天晴。 ···· A
1904、	天晴。 ···· A
1905、	雪降。 ···· D
1906、	天霽。 ···· A'
1907、	天晴。 ···· A
1908、	天晴。 ···· A
1909、	雨降。 ···· A
1910、	天晴。 ···· A

酉刻雷鳴一聲。 ···· C
| (F)

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
1	1	1	1	1	1	1	12	12	11	11	11	11	10	10	10	10
12	11	11	9	5	3	2	27	26	29	18	15	14	23	21	19	19
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

宗尊親王將軍記

1923、 天晴。 風靜。 A	1922、 晴。 A	1921、 雨降。 C	1920、 天晴。 A	1919、 天晴。 A	1918、 天晴。 A	1917、 細雨下。 A	1916、 晴。 A	宗尊親王	1915、 天晴。 A	1914、 天晴。 A	1913、 天晴。 A'	1912、 天晴。 已一點。 日三	1911、 天晴。 A
--------------------------	------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	--------------------	------------------	------	-------------------	-------------------	--------------------	----------------------------	-------------------

| E

〃	〃	〃	〃	〃
4	4	4	4	4
·	·	·	·	·
2	2	2	2	1
·	·	·	·	·
28	12	8	1	14
条	条	条	条	条

1939	1938	1937	1936	1935	1934	1933	1932	1931	1930	1929	1928	1927	1926	1925	1924
天晴。	天晴。	天晴。	霽。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。							
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
A	A	A	A	A	A	A	入夜雨降。	A	A	A'	A	A	A	A	A
							⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
							A							E	
								⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
								(C)							

| E |

©

1940、	天晴。(中略)自今日被行祈雨御祈。松殿法印良基。大政法眼親賢。加賀法印定晴等奉仕之。亦爲同
1941、	御祈。行靈所七瀨御祓。晴茂。宣賢。爲親。廣資。晴憲。以平。晴秀等勤之。……A
1942、	終日。微雨降。御祈禱靈驗炳焉者歟。……C
1943、	天晴。……A
1944、	天晴。……A
1945、	雨降。……C
1946、	陰。……B
1947、	晴。……A
1948、	天晴。……A
1949、	天晴。將軍家聊御惱。亦炎旱涉日間。爲御祈。被行赦。及數十人云々。……A I
1950、	天晴。……A
1951、	天晴。祈雨事。被仰鶴岡別當法印隆辨。(中略)及申刻。於八幡宮東廊始行北斗法。晚天聊陰云々。……A I
(B)	
1952、	晴。入夜雨降。法驗之至。無比類之由。有沙汰云々。……A C
1953、	雨降。……C

4 · 6 · 21 条
4 · 6 · 20 条
4 · 6 · 19 条

1954	自半更甚雨。凡去十九日。若宮別當奉祈雨法之處。自同廿日至昨日。連日降雨之間。申刻。被送御馬		4 · 6 · 23 条
1955	御劍。武藤左衛門尉景賴爲御使。 ····· (C)	"	4 · 6 · 25 条
1956	天晴。 ····· A	"	4 · 7 · 4 条
1957	去月廿三日甘雨以後。炎旱又及數日。仍祈雨事。被仰勝長壽院。永福寺。明王院等。行方。景賴奉行之 云々。 ····· C I	"	4 · 7 · 6 条
1958	陰。小雨潤洒。 ····· B C	"	4 · 7 · 8 条
1959	天晴。 ····· A	"	4 · 7 · 9 条
1960	天晴。自初夜。甚雨如沃。近國旱魃之間。青苗悉黃枯。民庶莫不愁之。仍今日爲秋田城介奉行。重可抽丹祈之旨。被仰鶴岡別當法印隆辨。卽申領狀。於當宮八幡寶前。修諸神供。有管絃等。又於瑞籬之內。手自被講最勝王經。其後無程降雨云々。 ····· A (C) I	"	4 · 8 · 23 条
1961	天晴。 ····· A	"	4 · 7 · 10 条
1962	天晴。入夜雨降。 ····· A (C)	"	4 · 7 · 21 条
1963	雨降。(中略)已刻屬晴。 ····· C (A)	4 · 7 · 24 条	
1964	天晴。 ····· A	4 · 8 · 1 条	
1965	天晴。風靜。 ····· A E	4 · 8 · 2 条	

1981	1980	1979	1978	1977	1976	1975	1974	1973	1972	1971	1970	1969	1968	1967	1966
天晴。	晴。	晴。	晴。	晴。	天晴。	晴。	天晴。	晴。	晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。
.....
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	
9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	
2	1	27	26	25	24	23	22	21	17	13	10	7	6	5	4	
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	

1997	1996	1995	1994	1993	1992	1991	1990	1989	1988	1987	1986	1985	1984	1983	1982
天顏快霽。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	天陰。	天晴。	陰。	天晴。							
.....	B
A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A

|A

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
11	11	11	11	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9
11	10	10	4	3	16	14	8	3	30	29	25	18	17	16	7	4
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

2029 天晴。 A	2028 天晴。 A	2027 天晴。 A	2026 雨降。 C	2025 晴。申尅。雷鳴雨降。 A	2024 霽。 A	2023 晴。 A	2022 霽。 A	2021 晴。 A	2020 天晴。 A	2019 晴。 A	2018 霽。 A	2017 晴。子尅。大風甚雨。雷電兩三聲。 A	2016 霽。 A	2015 晴。 A	2014 雪降。積四寸。 D
------------------	------------------	------------------	------------------	-------------------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	------------------	-----------------	-----------------	-------------------------------	-----------------	-----------------	----------------------

2046、	快晴。 A
2047、	霰降。辰冠以後小雨灌。 K (C)
2048、	晴。..... A	
2049、	晴。..... A	
2050、	晴。..... A	
2051、	晴。(中略丑冠。經師谷口失火。北風頻扇。餘炎迄濱御倉前。燒死者十餘人云々。) A
2052、	朝雪聊散。巳冠屬霽。..... (D) (A)	
2053、	晴。..... A	
2054、	陰。..... B	
2055、	晴。西風烈。卯一點。濱風早町邊燒亡。至名越山王堂。人家數百宇災。日出以後火止。燒死者數十人云々。依	
2056、	彼穢。今日將軍家御神拜延引云々。..... A	
2057、	晴。..... A	
2058、	雨降。..... C	
2059、	晴。..... A	
2060、	霽。..... A	
E		
"	"	"
6 ·	6 ·	6 ·
2 ·	2 ·	2 ·
4 条	3 条	28 条
6 ·	6 ·	6 ·
2 ·	2 ·	1 ·
4 条	3 条	22 条
6 ·	6 ·	6 ·
2 ·	2 ·	1 ·
4 条	3 条	10 条
6 ·	6 ·	6 ·
2 ·	2 ·	1 ·
4 条	3 条	21 条
5 ·	5 ·	5 ·
11 ·	12 ·	12 ·
25 条	29 条	9 条
5 ·	5 ·	5 ·
11 ·	11 ·	11 ·
19 条	25 条	21 条

2076	2075	2074	2073	2072	2071	2070	2069	2068	2067	2066	2065	2064	2063	2062	2061
晴。	霽。	晴。	晴。	霽。	陰。	晴。	晴。	晴。	霽。	晴。	天晴。	晴。	晴。	霽。	晴。
A	A'	A	A	A'	B	A			A			A	A	A'	A

已刻以後雨降。 ··· A

所金木相竝八寸
金北木南。 ··· A

(C) ··· A

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
6	6	6	6	5	5	5	4	3	3	3	3	2	2	2	2	2
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
23	15	5	3	9	7	5	4	29	26	24	7	24	12	8	6	6
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

2078	甚雨暴風。人屋顛倒。稼穀損亡。古老云。廿年以來無如レ此大風云々。C	E
2079	晴。.....A		
2080	雨降。入夜屬晴。丑冠。東方白虹見。C	O
2081	晴。.....A		
2082	陰。鶴岡放生會。已尅小雨降。B	
2083	晴陰。入夜甚雨。A	(C)
2084	快晴。A	
2085	降雨大風。巳刻休止。連日兩國土損亡之間。被行止雨御祈。於前濱有七瀨祓。宣賢爲親廣資晴憲晴定泰房文元等奉仕之。各向南海列座。東上。行義行方等莅其所奉行之。抑七人中文元上首也。而任先例可召具下座之由。各訴申之間。可列座之由被仰下。仍文元寄座下西。相隔一町令着座云々。C	(E)
2086	快晴。戌冠。俄甚雨。雷鳴霰相交。曉更又雷鳴數返驚耳者也。A	(C) (F) (K)
2087	晴。.....A		
2088	天晴。.....A		
2089	晴。.....A		

2105、	2104、	2103、	2102、	2101、	2100、	2099、	2098、	2097、	2096、	2095、	2094、	2093、	2092、	2091、	2090、		
晴。未尅雷鳴小雨。 ··· A (F) (C)	晴。入夜雨降。 ··· A (C)	昨日大兩降。午尅洪水雷電。二日依夜及今日云々。 ··· (C) (F)	霽。 ··· A'	晴。丑尅雨降。 ··· A (C)	晴。 ··· A	霽。 ··· A'	晴。 ··· A	晴。 ··· A	晴。辰魁。太白見辰方。終日出見經天也。 ··· A	晴。 ··· A	晴。 ··· A	晴。 ··· A	晴。 ··· A	天顏快晴。 ··· A A	霽。 ··· A'	" 6 · 11 · 21 条	
1 · 3 · 11 条	1 · 3 · 9 条	1 · 2 · 29 条	1 · 2 · 24 条	1 · 2 · 19 条	1 · 1 · 15 条	1 · 1 · 14 条	1 · 1 · 13 条	1 · 1 · 12 条	1 · 1 · 11 条	1 · 1 · 10 条	1 · 1 · 5 条	1 · 1 · 3 条	1 · 1 · 2 条	康元	康元	" 6 · 11 · 21 条	

2106	晴。 ··· A	"	1 · 3 · 16 条
2107	霽。 ··· A'	"	1 · 3 · 27 条
2108	晴。 ··· A	"	1 · 3 · 30 条
2109	晴。 ··· A	"	1 · 4 · 10 条
2110	晴。 未尅雨降。 ··· A	"	1 · 4 · 13 条
2111	霽。 ··· A'	"	1 · 4 · 27 条
2112	晴。 ··· A	"	1 · 4 · 29 条
2113	晴。 ··· A	"	1 · 6 · 7 条
2114	雨降。 凡今年大雨洪水。 殆越 _二 「例年」。 寒氣又似不 _レ 時。 暑不 _レ 信。 其物定不 _レ 長歟。 依 _レ 之。 仰 _二 「鶴岳別當僧正隆辨。 左大臣法印嚴惠等」。 所被 _レ 行 _二 「天下泰平御祈禱」也。 去寃喜二年之夏。 涼氣如 _二 「冬天」。 六七兩月之間霜雪降。 八月大風。 翌年國土飢饉。 民間傷死。 而今時節不 _レ 調。 不可 _レ 不 _レ 慎歟。 ··· C	H D N E	1 · 6 · 14 条
2115	晴。 巳尅。 光物見。 長五尺餘。 其軀初者似 _二 「白鷺」。 後者如 _二 「赤火」。 其跡如 _レ 引 _二 「白布」。 白晝光物。 尤可 _レ 謂 _二 「奇特」。 雖有 _二 「本文所見」。 於 _二 「本朝」無 _二 「其例」云々。 ··· A	"	1 · 6 · 14 条
2116	自 _二 「去夜」雷雨。 ··· F	(C)	1 · 6 · 26 条
2117	雨降。 ··· C	"	1 · 6 · 27 条

2150	夕雨降。	◎
2151	陰。小雨洒。	B
2152	晴。	A
2153	晴。亥寇。右大將家法花堂前燒亡。	
	而奉取 _レ 出之 _二 云々。	
2154	晴。戌刻雷鳴數聲。	A
2155	晴。	A
2156	晴。	A'
2157	霽。	A'
2158	霽。	A'
2159	晴。	A'
2160	晴。	A'
2161	霽。	A'
2162	晴。	A'
2163	晴。	A'
晴。	天晴。	風靜。
A	A	A

| E

| (F) | (E) |

{ 北風烈吹。

勝長壽院。

并彌勒堂。

五佛堂塔。

悉以災。

但本尊及一切經等。希有

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	12	12	11	11	11
2	26	14	10	6	25	13	3	2	1	19	19	30	30	28
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

兩日甚雨也。

A

1 · 7 · 8 条

陰。

B

1 · 7 · 10 条

陰。

B

1 · 7 · 12 条

晴。入夜雨降。

A

1 · 8 · 13 条

晴。

A

1 · 8 · 1 条

陰。夕小雨降。南風。

B

1 · 8 · 12 条

晴。夕雨降。

A

1 · 8 · 15 条

晴。夕雨降。

(C)

1 · 8 · 16 条

甚雨。將軍家御出鶴岳。未斜聊屬晴之間。流鏑馬等無爲所被遂行之也。

(A)

1 · 8 · 17 条

晴。未冠。滿定(中略)廣資已下陰陽師等(中略)各申云。今朝未明。先登西御門山。于時殘月在西。日出東。彼是紅方角。 A

霽。 A'

1 · 8 · 18 条

晴。 A

1 · 8 · 21 条

雨降。 C

1 · 8 · 25 条

晴。 A

1 · 8 · 28 条

小雨降。 C

1 · 9 · 4 条

2209	2208	2207	2206	2205	2204	2203	2202	2201	2199	2198	2197	2196	2195	2194	
晴。 ··· A	天晴。 ··· A	晴。 ··· A	天晴。 ··· A	晴。 月蝕正見。 四分。 御祈松殿法印良基。	天晴。 入夜雷電霹靂及終夜。 (C) (F)	晴。 ··· A	自寅起雨降。 終日不休止。 (C) (F)	晴。 ··· A	晴。 ··· A	晴。 ··· A	晴。 ··· A				

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
2 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·
1 ·	12 ·	12 ·	12 ·	12 ·	11 ·	11 ·	10 ·	10 ·	10 ·	10 ·	10 ·	10 ·	9 ·	9 ·	9 ·
1 条	24 条	23 条	12 条	6 条	23 条	22 条	26 条	16 条	15 条	13 条	1 条	30 条	24 条	18 条	16 条

2223	2222	2221	2220	2219	2218	2217	2216	2215		2214	2213	2212	2211	2210
晴。	晴。	霽。	霽。	晴。	晴。陰不定。	晴。	晴。	晴。		霽。丑冠。秋田城介泰盛甘繩宅失火。 下。壇内不殘二字。餘炎。新清水寺窟堂。	霽。丑冠。秋田城介泰盛甘繩宅失火。 下。壇内不殘二字。餘炎。新清水寺窟堂。	霽。丑冠。秋田城介泰盛甘繩宅失火。 下。壇内不殘二字。餘炎。新清水寺窟堂。	霽。丑冠。秋田城介泰盛甘繩宅失火。 下。壇内不殘二字。餘炎。新清水寺窟堂。	霽。丑冠。秋田城介泰盛甘繩宅失火。 下。壇内不殘二字。餘炎。新清水寺窟堂。
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	B	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
A	A	A'	A'	A	⋮	A	A	A		南風頻扇。越藥師堂後山。到壽福寺。 其邊民屋。若宮寶藏。同別當坊等燒失。 惣門。佛殿。庫裏。方丈已	南風頻扇。越藥師堂後山。到壽福寺。 其邊民屋。若宮寶藏。同別當坊等燒失。 惣門。佛殿。庫裏。方丈已	南風頻扇。越藥師堂後山。到壽福寺。 其邊民屋。若宮寶藏。同別當坊等燒失。 惣門。佛殿。庫裏。方丈已	南風頻扇。越藥師堂後山。到壽福寺。 其邊民屋。若宮寶藏。同別當坊等燒失。 惣門。佛殿。庫裏。方丈已	南風頻扇。越藥師堂後山。到壽福寺。 其邊民屋。若宮寶藏。同別當坊等燒失。 惣門。佛殿。庫裏。方丈已
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
1	28	25	25	19	18	13	24	21	20	17	10	8	3	2
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

| E |

2239	2238	2237	2236	2235	2234	2233	2232	2231	2230	2229	2228	2227	2226	2225	2224	2223
小雨降。	霽。	晴。	天晴。	霽。	晴。	霽。	晴。	霽。	小雨灑。	晴。	晴。	霽。	終日甚雨。	天晴。	甚雨。	北風烈吹。
.....	A'	A	A	A	A'	C	A	A'	C	A	A	A'	C	A
C															C	E

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
.	
6	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	3	3	3	3	
.	
1	29	28	14	9	8	5	2	26	25	21	19	23	20	10	6	6	
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	

2240、	霽。 ···· A'															
2241、	天晴。 風靜。 ···· A															
2242、	霽。 ···· A'															
2243、	晴。 ···· A															
2244、	陰。 夕雨降。 ···· B															
2245、	雨降。 已尅屬晴。 ···· C															
2246、	晴。 ···· A															
2247、	霽。 近日有寒氣。 如冬天。 ···· A'															
2248、	暴風烈吹。 甚雨如洩。 夏黑天顏快晴。 諸國田園悉以損亡。															
2249、	甚雨。 ···· C															
2250、	雨降。 ···· C															
2251、	雨降。 ···· C															
2252、	天晴。 ···· A															
2253、	天晴。 ···· A															
2254、	陰。 ···· B															
2255、	晴。 戊尅。 燐惑犯南斗第五星。 同時大流星。															
	餘四尺。 白乾至巽。 ···· A															

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
28	19	18	17	16	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

2256	終日終夜雨降。暴風殊甚。	· · C
2257	晴。· · A	
2258	朝晴。已尅以後甚雨洪水。屋宅流失。人溺死。午尅屬晴。子尅月蝕。不正見。	· · E
2259	晴。· · A	
2260	寅尅雷鳴。· · (F)	
2261	天晴。寅尅地震。巳時雷鳴及數度。	· · A
2262	天晴。· · A	
2263	晴。· · A	
2264	晴。· · A	
2265	晴。· · A	
2266	晴。· · A	
2267	晴。· · A	
2268	晴。· · A	
2269	晴。寅尅雷鳴。· · A	
2270	晴。· · A	
2271	晴。· · A	
(F)		
(F)		
(A)		
(C)		

n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n
1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
2	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12	11	10	10	10	10	10
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
2	26	14	11	10	9	3	2	1	21	16	19	16	12	12	12	12
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

2287	晴。	· · · · ·	A
2288	晴。	· · · · ·	A
2289	晴。	· · · · ·	A
2290	陰。	· · · · ·	B
2291	晴。	· · · · ·	A
2292	天晴。	· · · · ·	A
2293	晴。	· · · · ·	A
2294	晴。	· · · · ·	A
2295	雨降。	· · · · ·	C
2296	雨降。	· · · · ·	C
2297	疾風暴雨洪水。河邊人屋大底流失。山崩。人多爲磐石被壓死。	· · · · · E	
2298	雨降。被行止雨御祈。安祥寺僧正良瑜修一字金輪法。	· · · · · C	
2299	雨降。未剋屬晴。自去月十六日霖雨不休。今日適迎晴。是偏法驗之所致歟。	· · · · · C	
2300	晴。	· · · · ·	A
2301	晴。	· · · · ·	A

(A)											
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6	6	6	6	6	5	5	5	4	4	4	4
25	19	19	7	5	18	16	13	30	22	19	18
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

2332	2331		2330	2329	2328	2327	2326	2325	2324	2323	2322	2321	2320	2319	2318
晴。	陰。		雨降。	雨降。	陰。	晴。	晴。	晴。	天晴。	晴。	晴。	晴。	晴。	雨降。	晴。
·	·		已刻。	御奉幣伊豆山。	B	A	A	A	·	·	·	·	·	·	·
A	B		御休息。	御逗留土肥鄉。	C	C	C	C	A	A	A	A	A	C	A
C															
(F)															
〃	〃	〃	甚雨深泥之間。	爲	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·	1 ·
1 ·	1 ·	1 ·	爲	爲	11 ·	11 ·	11 ·	11 ·	11 ·	11 ·	11 ·	11 ·	11 ·	10 ·	8 ·
12 ·	12 ·	12 ·	12 ·	12 ·	30 条	29 条	28 条	27 条	26 条	24 条	22 条	16 条	22 条	5 条	26 条
3 条	2 条	1 条	1 条	1 条	30 条	29 条	28 条	27 条	26 条	24 条	22 条	16 条	22 条	5 条	20 条

2364	2363	2362	2361	2360	2359	2358	2357	2356	2355	2354	2353	2352	2351	2350	2349
晴。	晴。	霽。	雨降。	晴。入夜雨降。今日午尅量見。其色青黃赤白也。	晴。	晴。	雨降。	霽。	雨降。	霽。	天霽。	霽。	天晴。未尅。春雨屢灑。	雨降。	霽。
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
A	A	A'	C	A	A	A	C	A'	C	A'	A'	A'	A	C	A'
(C)															
A															
(C)															

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6	6	6	6	4	4	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	2
10	7	6	6	3	28	25	24	23	25	20	13	26	20	15	11	11
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

2380	2379	2378	2377	2376	2375	2374	2373	2372	2371	2370	2369	2368	2367	2366	2365
晴。	晴。	晴。	晴。	霽。	霽。	天陰。	天晴。	雨降。	天晴。	天晴。	霽。	霽。	霽。	霽。	天晴。
A	A	A	A	A'	A'	月蝕不 現。	A	C	A	A	A'	A'	A'	A'	A

B

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6
16	15	10	22	18	17	14	13	12	10	3	30	23	22	18	16	16
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

| F

2397	天晴。	· · A
2398	天晴。	· · A
2399	天晴。	· · A
2400	天晴。	· · A
2401	小雨常降。入夜屬晴。丑刻。月蝕正見八分。御祈加賀法印定清。	· · C (A)
2402	紅霞纏白雲。天氣甚晴。戌刻。乾巽有如火光色。一方光盛之時。一方光薄。亦相交厚薄。觀者怪之。	· · 15 条
2403	陰。乾巽赤光如去夜。	· · B
2404	小雨降。入夜庭上雪白。	· · C
2405	天晴。申剋雨降。	· · A (C) (D)
2406	天晴。	· · A
2407	朝間雨降。	· · C
2408	天晴。	· · A
2409	天晴。	· · A
2410	天晴。入夜雨降。	· · A (C)
2411	天晴。	· · A
〃	〃	〃
3	3	3
4	3	3
7	21	18
条	条	条
〃	〃	〃
3	3	3
4	3	3
7	10	10
条	条	条
〃	〃	〃
3	3	3
4	3	2
7	2	9
条	条	条
〃	〃	〃
3	3	1
4	2	1
7	2	17
条	条	条
〃	〃	〃
3	3	3
4	1	1
7	9	7
条	条	条

2427	2426	2425	2424	2423	2422	2421	2420	陰。自昨日冷氣如秋天。諸人纏綿衣。	2419	2418	2417	2416	2415	2414	2413	2412
陰。日蝕不正現。司天宿曜道等有相論云々。	小雨洒。	天晴。	天晴。	昨日冷氣如秋天。	天晴。	天晴。	天晴。	天晴。	雨降。	天晴。	天晴。	天晴。
.....	B	A	A	A	A	A	A	A	C	A	A	A
.....	B	C
3	3	3	3	3	3	3	3	3 · 6 · 17 条	3	3 · 6 · 2 条	3	3 · 5 · 19 条	3	3 · 5 · 9 条	3	3 · 4 · 26 条
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
7	7	7	7	6	6	6	6	25 条	3	5 · 2 条	3	5 · 19 条	3	4 · 26 条	3	4 · 21 条
17	16	16	16	10	10	10	10	30 条	3	6 · 2 条	3	6 · 19 条	3	5 · 9 条	3	4 · 21 条

2428、	天晴。 ···· A	3 · 7 · 18 条
2429、	天晴。 ···· A	3 · 7 · 23 条
2430、	雨降。 ···· C	3 · 7 · 29 条
2431、	天晴。 ···· A	3 · 8 · 1 条
2432、	雨降。 ···· C	3 · 8 · 6 条
2433、	天晴。 ···· A	3 · 8 · 7 条
2434、	天晴。 ···· A	3 · 8 · 9 条
2435、	雨降。 申尅以後屬霽。 ···· C	3 · 8 · 11 条
2436、	小雨常洒。 ···· C	3 · 8 · 12 条
2437、	自朝天陰雨降。 雷鳴數聲。 則南風烈。 雨脚彌甚。 午刻大風拔樹。 民屋大畧無全所。 御所西侍顛倒。 棟梁桁等吹拔之。 亦由比濱着岸船數十艘破損漂沒。 ···· (B) (C) (F) (E)	3 · 8 · 14 条
2438、	晴。 ···· A	3 · 8 · 15 条
2439、	天膚快霽。 ···· A	3 · 8 · 16 条
2440、	天晴。 御上洛事。 依大風諸國稼穀損亡之間。 爲休弊民煩所被延引也。 ···· A E	3 · 8 · 25 条
2441、	陰。 依去十四日大風。 諸國損亡百姓愁歎之間。 以撫民之儀。 將軍家御上洛延引之間。 以遠江十郎左衛門尉賴連爲御使。 被申此由於仙洞云々。 ···· B	3 · 8 · 26 条

2442	天晴。申剋以後風雨。入夜大風。由比浦船舶沒波。死人寄汀。彼是不可勝計。又鎮西乃貢運送船六十一艘。於伊豆海同時漂濤云々。	A (E) (C)	3 · 8 · 27 条
2443	天晴。……A	C (F)	3 · 9 · 3 条
2444	終夜甚雨。戌刻雷鳴。武藏大路霹靂。蹴裂卒都婆。其上三尺餘爲雷火曉。蹴裂之聲響人屋。聞者甚多云々。	A (E) (C)	3 · 9 · 12 条
2445	天晴。(中略)今朝。諸人舉登山而見去夜雷火所燒之卒都婆。非時雷鳴不輕其慎之由。陰陽道等進勸文		
2446	天晴。……A		
2447	晴。……A		
2448	晴。……A		
2449	晴。……A		
2450	晴。……A		
2451	雨降。……C	(C)	
2452	天晴。曉雨降。	A	
2453	天晴。……A		
天晴。……A			
2454			

2470	天晴。 A
2471	霽。 A'
2472	天晴陰。 A
2473	天晴。 A
2474	天晴。 A
2475	霽。可有御所御鞠始之由。依有其催。數輩參上之處。	
2476	天晴。..... A	
2477	雷雨。電光耀天。降雹動地也。	F
2478	陰。..... B	C J
2479	天晴。..... A	
2480	霽。..... A	
2481	天晴風靜。..... A	
2482	終日雨降。..... C	E
2483	風雨甚。戊剋雷鳴。	C
2484	天晴。	(F)
A		
//	//	//
2	2	2
.	3	2
3	3	2
4	1	7
条	条	条
12	20	15
14	14	14
12	12	12
条	条	条
2	2	2
.	1	1
1	7	6
5	5	3
条	条	条

2485	天晴。 ··· A	2 · 3 · 7 条
2486	天晴。 ··· A	2 · 3 · 9 条
2487	天霽。 ··· A	2 · 3 · 11 条
2488	天晴。 ··· A	2 · 3 · 13 条
2489	天晴。 南風烈。 ··· A	2 · 3 · 22 条
2490	天晴。 ··· A	2 · 4 · 22 条
2491	天晴。 ··· A	2 · ④ · 7 条
2492	天晴。 ··· A	2 · ④ · 25 条
2493	天陰。 ··· B	2 · 5 · 3 条
2494	天晴。 ··· A	2 · 5 · 5 条
2495	天晴。 自夕終夜甚雨。 ··· A	2 · 5 · 10 条
2496	日中夕立。 故秋田城介義景十三年之佛事也。 於無量壽院。 自朔日至今日。(中略)說法最中。 降雨如車軸。 于時山上所構之聽聞假屋顛倒。 諸人希有而逃去。 其中男女二人。 自山嶺落于路之北。 半死半生云々。	2 · 6 · 3 条
2497	終日降雨甚。 龜谷并泉谷所々山崩。 人馬多土石被壓死。 其中。 自土中被掘出者一兩輩僅存命云々。 ··· C	2 · 6 · 10 条

| E |

(C)

2497	終日降雨甚。 龜谷并泉谷所々山崩。 人馬多土石被壓死。 其中。 自土中被掘出者一兩輩僅存命云々。 ··· C	2 · 6 · 10 条
2498	自夕終夜甚雨。 ··· A	2 · 5 · 10 条

2513	2512	2511	2510	2509	2508	2507	2506	2505	2504	2503	2501	2500	2499	2498
晚雨降。	陰。日中小雨降。	陰。	天晴。	天晴。	霽。	陰。夕小雨降。	小雨降。	天晴。	天晴。	陰。	天晴。	天晴。	雨降。	天晴。
①	B	A	A	A	A'	B	C	A	A	B	A	A	午魁屬晴。	A
	B												C	
	①							①					(A)	

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
.
9	9	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	6	6
.
21	1	25	16	15	13	5	28	25	24	23	18	16	10	13	11
条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条	条

2529、	自二去夜一雪降。午剋屬霽。	……	①	②	3 · 1 · 11 条		
2530、	天晴。……A				" 3 · 1 · 12 条		
2531、	霽。未剋雨降。酉剋屬晴。	……	A	C	3 · 1 · 13 条		
2532、	天晴。……A				" 3 · 1 · 17 条		
2533、	霽。……A'				" 3 · 1 · 25 条		
2534、	霽。陰。或小雨。	……	A' B C		" 3 · 1 · 29 条		
2535、	天晴。……A				" 3 · 1 · 30 条		
2536、	陰。雨降。晚泥交雨降。希代恠異也。粗考舊記。	垂仁天皇十五年丙午星如雨降。	聖武天皇御宇天平十三年辛巳六月戊寅日夜洛中飯下。	同十四年壬午十一月陸奧國丹雪降。	光仁天皇御宇寶龜七年丙辰九月廿日石瓦如雨自天降。同八年雨不降井水斷云々。此等變異。雖上古夏。眩災也。而泥雨始降於此眩。言語道斷不可說云々。	……B	3 · 2 · 1 条
2537、	天晴。……A				" 3 · 2 · 5 条		
2538、	天晴。……A				" 3 · 2 · 9 条		
2539、	雨降。日中屬晴。	……C	(A)		" 3 · 2 · 10 条		
2540、	霽。……A				" 3 · 2 · 20 条		
2541、	天晴。陰。小雨降。午剋雷鳴。自二南方亘北。降雹。大如李。其後晴天。酉剋又雷鳴數聲。凡无時。占文之						

趣甚不快云々。春雹下。大兵起。五穀不熟。人民餓死云々。但戊己雷鳴有吉文之由。有宥申之輩。……A B

| C |
| F |
| J |
// 3 · 3 · 5 条

2542、天晴。……A

2543、天晴。……A

2544、天晴。暮雨下。……A

◎

2545、天晴。……A

2546、天晴。……A

2547、天晴。……A

2548、天晴。……A

2549、朝雨下。陰。南風烈。……C

B

2550、天晴。……A

2551、霽。……A

2552、天晴。……A

2553、陰。自去夜黑雲掩天。日蝕不正見。御祈三位僧都範乘也。祈禱玄應。殊依有御感。被送遣銀劍一腰。鞍馬一疋也。……B
◎

2554、天晴。……A

// // 3 · 5 · 24 条

3 · 5 · 1 条

3 · 4 · 22 条

3 · 4 · 8 条

3 · 4 · 5 条

3 · 3 · 30 条

3 · 3 · 29 条

3 · 3 · 13 条

3 · 3 · 11 条

3 · 3 · 6 条

